

年報 第49集

平成30年度文化財調査報告書



前橋市教育委員会

はじめに

平成30年6月に文化財保護法が改正され、平成31年4月から施行されることになりました。これにより、各地域で大切に守られ、過去の人々の営みを現代へと伝えてきた文化財は、これまでの保存重視から、活用という側面も重視した新たな形での保護へとシフトすることになります。

前橋市では従前より、複数の史跡や施設で説明員による解説やイベント等を行い、市内文化財の活用や普及啓発に努めているところですが、本年度はその中のひとつである「臨江閣」が重要文化財に指定されるという、大変嬉しいニュースがありました。

平成29年9月のリニューアルオープン以来、臨江閣は順調に入館者数を伸ばしています。今回の重要文化財指定により更なる見学者の増加が予想される中、どのように保護と活用を両立していくかが今後の課題となるでしょう。また、臨江閣だけでなく、阿久沢家住宅や大室古墳群、總社古墳群をはじめとした本市が誇る文化財や史跡についても、引き続き普及啓発に努め、観光資源や地域振興の拠点としての更なる活用方法を模索する必要があります。

一方、未だ土に埋もれたままの「歴史」を調査することも、我々の大きな使命のひとつです。

過年度より引き続き進めている上野国府の範囲内容確認調査をはじめ、元總社古海遺跡群、上細井中西部遺跡群など、市内各地の遺跡でその歴史を紐解く地道な作業が続けられています。

この冊子には、平成30年度における、それらの成果がまとめられています。

既に指定を受けている文化財の普及啓発や活用に努めることも、未知の文化財を発掘しその価値を明らかにすることも、いずれも人類共有の「歴史」という財産を未来へ繋ぐための大切な任務です。我々の仕事の成果が人々に歴史への关心や郷土への愛着を喚起し、ひいては本市の振興に大いに資するものだということを胸に刻み、今後の施策の実践に邁進してまいります。

平成31年 3月31日

前橋市教育委員会

教育長 塩崎 政江

目 次

はじめに

第1章 文化財調査委員による調査

1	樹木調査	1
2	古文書等調査	4
3	建造物調査	7
4	県外研修	9
5	調査報告書	13

第2章 指定文化財

1	国指定文化財の新指定	19
---	------------	----

第3章 文化財保護事業

1	保護管理運営事業	20
2	整備事業	28
3	普及事業	30

第4章 埋蔵文化財事業

1	埋蔵文化財発掘調査事業	37
①	平成30年度上野国府等範囲内容確認調査	44
②	平成30年度上細井中西部遺跡群発掘調査概報	46
③	元総社蒼海遺跡群(127)	90
④	元総社蒼海遺跡群(128)	92
⑤	元総社蒼海遺跡群(129)	94
⑥	元総社蒼海遺跡群(130)	96
⑦	元総社蒼海遺跡群(131)	98
⑧	元総社蒼海遺跡群(132)	100
⑨	南橋東原遺跡Na2	108
⑩	天神風呂M地点遺跡	110
⑪	中内常光遺跡	112
2	市内遺跡発掘調査事業	115
3	遺跡台帳整備事業	115
4	埋蔵文化財資料整備事業	115
5	上野国府等保存整備事業	119
6	文化財資料管理	120

あとがき

第1章 文化財調査委員による調査

今年度は、文化財調査委員による市内調査を3回実施した。
また、隔年で実施している市外調査を長野県上田市の蚕糸に係る調査を中心に
行った。

1 樹木調査

(1) 日時

平成30年5月23日（水）

(2) 調査者

大森委員、能登委員

①横室の大カヤ【国指定天然記念物】

1 所在地 富士見町横室1023-1

2 指定年月日 昭和8年4月13日

3 調査結果 良好



②時沢の夫婦マツ【指定天然記念物】

1 所在地 富士見町時沢3164

2 指定年月日 昭和27年11月11日

3 調査結果 良好（クロマツ）



③沼の窪のザゼンソウ【市指定天然記念物】

- 1 所在地 富士見町赤城山 沼の窪市有林内
- 2 指定年月日 平成7年10月1日
- 3 調査結果 経過観察



①オタカラコウが今回も多く見える。



②シカのけもの道



③シカの足跡



④ウラシマゾウが昨年よりも増えている。



⑤⑥古いスタ場の跡。新しいスタ場は見当たらない。

スタ場の跡にはウラシマゾウ等の植物の侵入がある。ニワウルシは撲滅。



④三夜沢のブナ【市指定天然記念物】

- 1 所在地 三夜沢町354-1
- 2 指定年月日 昭和55年4月1日
- 3 調査結果 経過観察



⑤赤城神社参道松並木

- 1 所在地 三夜沢町地内
- 2 調査結果 慎重に検討を要す



⑥桂萱小アカメヤナギ（マルバヤナギ）

- 1 所在地 上泉町178（桂萱小学校庭）
- 2 調査結果 慎重に検討を要す



⑦昌楽寺の大ツバキ

- 1 在所在地 元總社町 2-31-25
2 調査結果 対象外



2 古文書等調査

(1) 日時

平成30年11月21日（水）

(2) 調査者

岡田委員、能登委員

(3) 調査対象物件

- ①前橋市立図書館（大手町2-12-9）
・典籍前橋藩松平家記録（405点）【県重文】
・酒井家史料（129点）【市重文】
・前橋祇園祭礼絵巻（2巻）【市重文】
・前橋藩酒井家前橋城絵図ほか関係資料（20点）【市重文】
・市史編纂資料（6点）【市重文】
・指定文化財以外の市史編纂資料及び市内各家別の古文書群など

②無量寿寺（二之宮町甲764）

- ・地蔵菩薩立像【市重文】
・十一面観音立像【市重文】

③慈照院（二之宮町1811）

- ・千手観音坐像【市重文】
・山門礎石底面刻銘

④堀下の仏像群【市有形民俗】（堀越町969-1）

⑤佐渡ヶ嶽澤右衛門の墓（文京町4丁目地内）

①前橋市立図書館

「前橋市史関係資料」【市重文含む】 調査結果 良好

「前橋市重要資料」【県・市重文含む】 調査結果 良好



重要資料保存状況



地下書庫の状況

②無量寿寺

「地蔵菩薩立像」【市重文】 調査結果 良好

「十一面觀音立像」【市重文】 調査結果 良好

2体とも状態は良好である。

平成28年度に県の仏像調査が入っている。



「地蔵菩薩立像」【市重文】

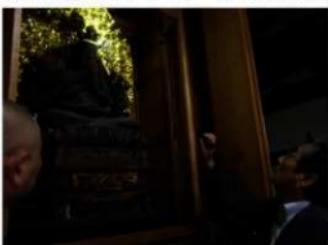


「十一面觀音立像」【市重文】

③慈照院

「千手觀音坐像」【市重文】 調査結果 良好

現在は秘仏として年に一度の御開帳をしている。



「千手觀音坐像」

「山門礎石底面刻銘」 調査結果 良好

上毛文庫42「ぐんまのお寺」天台宗1（平成11年発行）P60L10の下から
6文字目に二宮村とあるが、実見したところ、二宮社であった。



④「堀下の仏像群」【市有形民俗】 調査結果 傷みがある



木像12神将について、痛みがあり腕や足がとれているものがある。また、
付属の仏具についてもなくなっていたり、下に落ちていたりするものがある。
修理や補修が望まれる。地元で修理の見積もりを取り今後の方針を検討する。

⑤佐渡ヶ嶽澤右衛門の墓



無縁墓地の一角にある。墓石の状態はよいが、他の墓石の中に埋もれている。
史跡等に指定するには原位置から動いているために難しいと思われる。地元での
活用が望ましいとの見解を得た。

3 建造物調査

(1) 日時

平成31年1月16日(火)

(2) 調査者

岡田委員、能登委員、村田委員長

(3) 調査対象物件

- ①旧アメリカン・ボード宣教師館【県重文】
(小屋原町1120-5 (共愛学園))
- ②旧関根家住宅【市重文】
(西大室町2510 (大室公園))
- ③上泉郷蔵【県史跡】(上泉町1168-1)
- ④三栄燃糸(若宮町2-14-24)
- ⑤池田燃糸(平和町2-5-9)

①旧アメリカン・ボード宣教師館【県重文】



2階の雨漏りの状況



屋根裏の雨漏りの状況



1階のシロアリ被害の状況

2階の展示室に雨漏りがあり、屋根裏を確認した。屋根裏から雨水の侵入が認められた。1階のシロアリ被害については、床下の状況が分からず確認が必要。窓のコーティングも剥落が認められた。

②旧関根家住宅【市重文】



主屋の状況

移築復原後30年以上経過し、全建物の屋根が相当に傷んでいる。主屋の葺き替えを早急に実施すべきとの見解を得た。また、屋根替えにだけにとどまらず、全体的に破損調査を実施するよう指導を受けた。

③上泉郷蔵【県史跡】



北側柱の根元の状況



東側の土蔵壁の一部剥落の状況



南側の換気窓の状況

北側の2本の軒先の柱の根元の腐食と、土蔵壁の一部剥落が認められた。また、蔵の内部は湿気がこもっていたため、内部の部材の傷みが心配される。二つの窓に換気の開口部(網張りとする)を設けた新たな建具を新調し換気を図るとよいとの指摘があった。

④三栄撚糸

⑤池田撚糸



三栄撚糸工場内部



池田撚糸工場内部

2棟ともに当初は、製糸工場として使用されていた。建造時期は2棟とも大正初期と伝えられている。2棟とも工場としての建築であるが、かなり改造が行われている。2棟ともに現在は撚糸器械を残していないが、前橋の紬産業の歴史を知る上で貴重な建物であるとの見解を得た。

4 県外研修（上田方面）

（1）日時

平成30年11月26日（月）

（2）調査対象物件

①旧常田館製糸場【国重文・経産省認定近代化産業遺産・市指定文化財】

（上田市常田1-10-3）

②旧常田幼稚園【国登録建造物】

（上田市常田2-30-17）

③信州大学織維学部講堂・資料館【国登録建造物】

（上田市常田3-15-1）

④上田蚕種協業組合事務所【国登録建造物】

（上田市常田3-4-57）

⑤旧上田市立図書館

（上田市大手2-8-2）

⑥旧宣教師館【市指定建造物】

（上田市下之郷812）

（3）調査者

岡田委員、能登委員、村田委員長

①旧常田館製糸場



会長による説明



木造5階建繭倉庫最上階

笠原工業株式会社構内に常田館製糸場に関する施設15棟が現存しており、そのうち明治から大正時代にかけて建てられた7棟が平成24年に国の重要文化財に指定されている。国内最高層の木造5階建繭倉庫、大正時代末の鉄筋コンクリート5階建倉庫などの大型建造物群に圧倒された。笠原工業株式会社の会長にすべての建物を詳しく説明していただき、研修を深めることができた。

②旧常田幼稚園



園舎全景



保存公開されている当時の壁

建築家W. M. ヴォーリズ（1880～1964）が大正7年（1918）に設計した建築物で設計図面も残っているが、建物の中は改修されていて面影はない。外壁にはスタッコ仕上げという、ヴォーリズが好んで用いたモルタルの壁をゴツゴツと仕上げる手法が再現されている。

また、一部を切り取り保存公開されているので、風化はしているが当時の壁の状況は確認することができた。

③信州大学織維学部講堂・資料館



信州大学織維学部講堂・資料館



資料館の繭のサンプル

前身の上田蚕糸専門学校は、明治44年（1911）開校した。講堂は昭和4年（1929）に完成。木造ゴシック系の建物であるが、直線を生かしたセセッションの意識がみられ、実用性を重視している。特徴は、桑・繭・蛾【が】が各所に意匠として付けられている。ステージの柱には桑、アーチの縁飾りには蛾と桑、演台には蛾と繭、脇台には桑が使われている。現在、蚕糸関連の資料を公開している資料館は、明治43年（1910）に繭の保管庫として建築されたものである。大学の構内にはもう1棟、守衛室が登録有形文化財に指定されている。講堂は卒業式や説明会など、守衛室は現在も守衛が常駐する守衛室として活用されている。

④上田蚕種協業組合事務所



事務所 2 階



採卵室

大正5年（1916）に地元の蚕種家が出資して上田蚕種株式会社として設立したのが始まりで、現在の事務棟・採卵室など主要な建物が翌6年に完成している。最盛期には22万箱の蚕種をこの組合から出荷した。建物は、敷地中央正面に事務所、その奥に検査室・食堂・催青室【さいせいしつ】・貯蔵の冷蔵庫などが配置され、これらを軸として、採卵室の建物が左右対称に3棟ずつ並んでいた。現在は、規模を縮小しているが蚕種の製造を行っている数少ない蚕種会社である。残っている建物を実際に見学しながら、そこではどのような蚕種づくりの工程を行っているか社長に案内をしていただき、蚕種づくりの仕組みや工夫について、また疑問については質問をし丁寧に教えていただくことができ貴重な研修となった。

⑤旧上田市立図書館



1階の様子



外観（入口側）

大正2年（1913）建築。当初から図書館として作られ、大正12年に市に寄付。上田市立図書館として昭和45年（1970）まで使われていた。その後、市役所分室、昭和60年7月からは石井鶴三美術館となり活用された。外観はマンサード屋根の曲線や長楕円形の装飾などからドイツ系のアール・ヌーヴォーの影響を受けた建築。

上田市の文化財担当によると、現在は耐震の関係で内部の一般公開ができていない。建造物は、耐震の関係で一般公開が難しい物がある。維持管理にもクリアしなければならない課題があると話していた。本市も同様の課題を抱えている。効果的な活用に向か整備していくことが望まれる。

⑥旧宣教師館



外観（入口側）



1階の様子

明治37年（1904）婦人宣教師の住宅として、上田城跡に近くに建てられた。昭和15年（1940）、戦況の悪化により宣教師たちが帰国し、住宅兼病院となった。平成5年に上田市が譲り受け、現在地に移築復元。建物の特徴は、全體が立方体に近い箱形のプロポーションで当時の宣教師館に共通した外観意匠。本市の旧アメリカン・ボード宣教師館とよく似ている。外壁が下見板張り、窓に鎧戸【よろいど】、玄関とその二階部分がベランダ。アメリカの伝統的な木造建築の造りであり、旧アメリカン・ボード宣教師館との比較により、明治期の本格的西洋館の普及の様子をうかがい知ることができた。

樹木調査報告書

カヤ

- ・新芽は正常に展開している。周辺は乾燥傾向にあることは変わらず。落葉や雑草の過度の除草により地表面の乾燥が危惧される。また、表土流出や踏みつけによる土壤の硬化が危惧される。

夫婦マツ

- ・1本のまま指定継続でよいのではないか。特に異状はない。

ザゼンソウ群落

- ・ザゼンソウの生育は良好。ただし、数年前（：過去の報告書要確認）にイノシシによって大規模なヌタ場が形成された3地点（小水路沿い）では、オタカラコウの群落が形成され、ザゼンソウよりも目立っている。
- ・ヌタ場跡を中心に、ウラシマソウが大量に生育を始めている。特に未開花段階の若い個体が多く、今後さらに増加する可能性がある。
- ・1ヶ月以内のものと思われるシカの侵入の痕跡（足跡、シカ道、糞、ミゾソバの新芽喰い）が指定区域全域で目についた。シカは増加傾向にあると思われる。
- ・指定区域下流側でニワウルシの稚樹1株が確認された。駆除を実施。

・ブナ

- ・記念物指定個体は寿命と思われる。
- ・指定個体の隣の個体は生育良好で、堅果の散布が確認された。しかし、周囲はスギ植林地に囲まれており、また林床全面にアズマネザサが密生している。ブナの実生や稚樹は全くみられず、この地点でブナの後継樹がまったく期待できない状態である。
- ・当該地点は、本州中部太平洋側の上部丘陵帯というブナの分布域から考えると、特異的な温暖気候域にあるブナ林残存林分の断片と考えられ、貴重な存在である。しかるに、モニュメントツリーたる当該物件だけを天然記念物指定し、生態学的な視点が欠如した管理が行われてきた。今後指定個体の枯死をもって指定解除とするか、本州中部太平洋側のブナの分布を示す資料的価値を重視し、ブナ分布域として名称変更を行い管理するか、議論が必要である。

・マツ並木

- ・ヤマツツジを含めてすべて植栽樹。個体サイズとしても特に大きいというわけではない。
- ・景観が美しい地点もあるが、園路の舗装や工作物、マツ枯れによって枯死した個体の枯れた幹が放置された場所、並木の片側が伐採された場所もある。
- ・名勝として指定した場合も、舗装道路や電柱・電線などの工作物、施設の改修、また規模が大きいため、指定後の管理費や管理のための人手、倒木落枝などによる事故時の管理責任や、各種作業伴う現状変更など、初期の環境整備に伴うコスト面、管理面に対する不安が大きい。
- ・天然記念物とは言いがたい。名勝指定の場合も前述の不安要素が大きい。

・アカメヤナギ(マルバヤナギ)

- ・構内のグラウンドに単独で生育し、桃ノ木川氾濫原との関係は不明。よって、現状では生育当初の本種の生態的特性や所在地の学校の地理的特性を示しているか不明。
- ・かつての主幹が枯死した形跡がある。現在の 3 本（見方によつては 5 本）の幹は、かつての主幹の萌芽が合体し、さらに根元でかつての主幹を巻き込み合着したものと推定される。この過程はマルバヤナギとしては典型的なものである。
- ・太陽光が全ての方向から当たるため、陽樹であるマルバヤナギは枝を伸ばしやすい環境にあり生育状況は良好。
- ・学校制度が始まって 100 年を経過し、各地の学校の記念樹などでも巨木が他にもある可能性がある。本個体に限らず、学校等に所在するシンボルツリーを精査しないと同規模もしくはより大きい樹木の後追い指定希望が相次ぎ対応不可能になることが考えられる。また、当該個体が生育している地点の過去の地形や、当該個体の履歴（自生？植栽？）などの調査も必要と考えられる。
- ・継続調査を行い、自生の可能性の検討、類似物件との比較を行った上で指定がふさわしいか否か、また登録記念物を勧告するかも含めて慎重に検討すべきと考えられる。

・ヤブツバキ

- ・1 側枝を除いてすべて枯死しており、葉は小さく、カイガラムシも付着し、個体として枯死寸前。4m 隣に植栽されたヤブニッケイにも大量のカイガラムシが付着。周辺には枯死して伐採された切り株が数本あり、周辺が現在樹木の植栽地として不適な状態と思われる。巨額の対策費を投じない限り、早晚枯死すると考えられる。却下が妥当と考えられる。

調査日 2018 年 5 月 23 日

(大森 威宏)

前橋市立図書館蔵：古文書等調査の概要

- 1、期日：2018年11月21日（水）午前9時30分～11時30分
- 2、調査者：能登健、岡田昭二、市文化財保護課（登山伸一係長、小島純一、吉田和夫）
- 3、調査先：前橋市立図書館（前橋市大手町2丁目）

- 4、目的：市立図書館蔵の県・市指定重要文化財及び市史編纂関係資料等の現状確認
 - (1)【県指定】典籍前橋藩松平家記録（405点）
 - (2)【市指定】酒井家史料（129点）
 - (3)【市指定】前橋祇園祭礼絵巻（2点）
 - (4)【市指定】前橋城絵図ほか（20点）
 - (5)【市指定】市史編纂資料（6点）
 - (6) 指定文化財以外の市史編纂資料及び市内各家別の古文書群など

5、現状：

*上記の県及び市指定重要文化財は、図書館2階の郷土資料室カウンター裏にある収蔵庫で保存管理されている。これら資料の多くは、既刊の『前橋市史』編纂事業や図書館主催の展示会等で広く活用されてきたものである。
*なかでも松平家記録は、その史料的価値が高く、前橋藩政期及び川越藩前橋分領期にかかる寛延2年から明治4年までのものが『前橋藩松平家記録』全40巻として公刊され、広く市民や歴史研究者等の利用に供されている。
*指定文化財原本の保存状態は、決して望ましい環境にあるとはいえないものの、数年ごとに燻蒸処理作業も行われており、現状では虫・カビ等による害はないものと思われる。

*各資料群の検索手段である古文書目録に関しては、登録番号順の手書きの簡易目録（内部資料）が作成され管理が行われているものの、一般市民が閲覧利用するための古文書目録としては内容的にやや不充分な感もある。

*前橋市立図書館には、指定文化財以外にも地域の郷土資料である古文書やかつての市史編纂のために収集、作成された資料を庭大に保存管理している。しかし、その所在情報や普及活用については、残念ながら未だ市民に対して十分に情報発信されていないよう思われる。

6、所感（課題）：

*前橋市立図書館は県内では歴史的に最も古く、これまで多くの貴重な郷土資料を収集、保存してきた。このため県内外からの閲覧利用者も多く、その評価は全国的に見ても非常に高いものがある。

*しかし郷土資料に関しては、閲覧利用者のための収蔵資料目録の整備（古文書1点ごとのデータベース化）及び情報発信（ホームページ等によるインターネット発信）の観点からいえば、古文書の整理・解説等を担当する専門職員が配置されていないため、決して満足できる状況とはいえない。

*また指定文化財以外の市史編纂資料については、その多くは古文書原本のコピー、筆写資料、市史原稿などであるが、なかには収集した古文書の原本も散見されるので、この市史編纂資料に関しては、今後の保存管理を図るうえからも、まずその点検及び区分け作業を実施することが必要であろう。よって、早急にその対応策が講じられることを期待したいと思う。

*市立図書館は単に刊行図書等の貸出業務に止まらず、郷土の貴重な歴史資料である古文書・記録・絵団などを収蔵し、歴史資料保存利用機関としての役割も担っており、その機能の整備・充実は、県都前橋のまさに喫緊の課題であろう。

（岡田昭二）

仏像等調査報告書

調査日 平成 30 年 11 月 21 日

無量寿寺

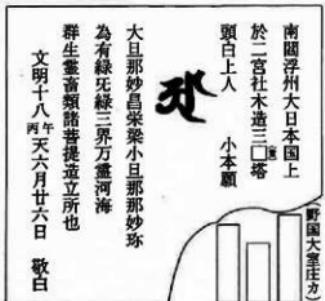
市県指定重要文化財十一面觀音立像と地蔵菩薩立像の現状調査を実施した。ともに堂内に増築された空調のある施設で収蔵されている。良好な保存状態だった。このうち、十一面觀音は平成 30 年の県教育委員会の調査で元々鉛彫りの痕跡のある像を後補していることが指摘されたという。見事な截金装飾は後補の部分にある。

慈照院

市指定重要文化財千手觀音坐像の現状調査を実施した。良好な保存状態だった。解説板については文字劣化により判読不可能になっていたが、平成 29 年度に更新されている。

なお、慈照院所蔵の「頭白上人本願刻銘」についての調査もおこなった。これは、昭和 49 年に山門を修理した際に礎石から刻銘が発見され、峰岸純夫氏によって拓本がとられ解説されたものである(下図)。

礎石は縦 47 cm、横 58 cm、厚さ 30 cm の方形平石で、一部が破損している。この銘文は峰岸氏によって平成 19 年に「勧進聖頭白上人の探索」として『栃木県立文書館研究紀要 11』に発表されているが、上毛新聞社から平成 11 年に刊行された『ぐんまのお寺天台宗 I』で紹介された銘文との間で一字が異なっている。前者が「二宮社」で、後者が「二宮村」である。今回の調査はその確認を目的に実施され、その結果、「二宮社」であることが確認された。すなわち、頭白上人が勧進した「木造三重塔」は二宮赤城神社の境内にある「塔心礎」がこれに当たることになる。当神社境内は市指定二宮赤城神社社地になっており、その境内に残されていた神仏習合時の遺構である塔心礎の来歴が解明されることになる。



(能登 健)

建造物調査報告書

平成 31 年 1 月 17 日

1 調査日

平成 31 年 1 月 17 日(水)

2 調査建物

- 午前 (1)旧アメリカン・ボード宣教師館(前橋市小屋原町 1120-5)
(2)旧関根家住宅(前橋市西大室町 2510)
- 午後 (3)上泉郷藤(前橋市上泉町 1168-1)
(4)三栄撚糸工場(前橋市若宮町 2-14-24)
(5)池田撚糸(前橋市平和町 2-5-9)

3 調査者

能登 健 岡田 昭二 村田 敏一

4 調査目的

(1)～(3)の建物については破損・管理状況を把握し今後の対応を指示し、(4)と(5)の建物については現況と価値を把握する。

5 各建物の調査結果

(1)旧アメリカン・ボード宣教師館(前橋市小屋原町 1120-5)

- ・2階寝室の雨漏れによる天井のしみ
 先ずは雨漏れの原因を究明すること。単なるコーキングで済ますことなく、野地板・垂木・母屋・桁等は被害を受けていないか精緻に調査のこと。今まで通りの工事仕様に拘らず適切な工事仕様を採用すること。
 - ・浴室の床組の白蟻腐朽
 床板を全面的に剥がし、他の部分への影響を確認のこと。また地下室部分も確認のこと。
 - ・建具のガラス押さえのバテ剥落
 バテ補修とともに建具調整を全面的に行うこと。
- ※何れの工事についても、具体的な工事仕様を図面化し、事前に市及び県へ提示承認を得ること。

(2)旧関根家住宅(前橋市西大室町 2510)

- ・主屋、付属建物の屋根腐朽
 主屋の背面(北面)の一部は下地材の露出部分・草が生えている部分があり、正面よりかなり腐朽が進んでいる。付属建物はすべての建物が正面・背面共に、主屋以上に普及が進み下地材がかなり露出している。また、正面縁側左端の柱に一部割裂が見られる。

移築復原後 30 年以上経過していることから、全建物の屋根葺き替えを早急に実施すべきと考える。その際、屋根替えに止まらず⁹全体的に破損調査を実施し、それにも対処すること。

(3) 上泉郷蔵(前橋市上泉町 1168-1)

- ・外部土蔵壁一部剥落と置屋根背面の合掌材の軒先補強柱の腐朽
　共に速やかに補修すること。補強柱は取り替えること。
- ・内部の湿気対策
　まずは、二つの窓に換気の開口部(網張りとする)を設けた新たな建具を新調し換気を図ること。

(4) 三栄撚糸工場(前橋市若宮町 2-14-24) (5) 池田撚糸(前橋市平和町 2-5-9)

両建物とも平成 20 年代まで撚糸工場として稼動していた。三栄撚糸工場は従業員が 30 人もいた時期もあり市内で最大規模であり、丹後縮緼と十日町の撚りを行っていたという。両者は共に建造当初、製糸工場であり、その建造時期は共に大正初期と伝える。両者とも建造時期の建築的特徴を持つ工場建築であるが、かなり改造が行われている。共に撚糸器械を残していないのは残念なことであるが、製糸工場がほとんど姿を消してしまった現在、前橋の絹産業の歴史を語る上に欠かせない貴重な建物である。保存が難しければ、最低限でも現状平面・断面図の作成、及び建物履歴と復原考察等の調査は必要と考える。

なお、現地で指導しなかったことであるが、(1) ~ (3)について工事報告書を作成すること。その中で、破損調査結果、破損の原因、改修工事仕様(オリジナル、工事前、工事後の工事仕様の比較を忘れないこと)を、文章・写真・図等については必ず明示のこと。

(文責 村田敬一)

第2章 指定文化財

1 国重要文化財の新指定

臨江閣 員数：3棟

本指定：本館、別館、茶室

附：天皇東宮行幸啓関係資料 6冊

(1) 所在地

群馬県前橋市大手町三丁目1番2

(2) 年代

本館・茶室 明治17年（1884）

別館 明治43年（1910）

(3) 概要

臨江閣は、前橋公園の北東に位置する。旧前橋城の外堀である「虎ヶ渕」の北に位置している。敷地は、北に約45度振れ、南西方向を向口とし大凡300m、北東方向の奥行は東側で大凡150mの三角形状の小高い土地で、南西方向に利根川を臨み、遠くは妙義山、浅間山等を眺望する景勝地である。創建時は利根川の流れを間近にみることができた。

建物の配置は、本館を中心に置き北西側に茶室、最も奥行のある東側に別館と、敷地の稜線に沿って配置されている。さらに、本館の平面を雁行形とし、別館は建物の高さを変える等、室内からの眺望にも配慮がされ、風光明媚な立地を余す所なく利用した配置となっている。

(4) 指定理由

臨江閣は、旧前橋城の一角の景勝地に所在する。本館と茶室は明治17年に賓客の接待施設として、別館は同43年に一府十四県連合共進会の貴賓館として建てられ、いずれも内外とともに簡明な和風の意匠でまとめられている。

本館内部は上階と奥座敷部の各所に座敷を設け、能舞台の設えをもち、庭に茶室を併設するなど、明治前期における貴賓接待施設の様相を示す。別館は大規模な2階建で、内部は、大人数や多目的での利用を想定して、座敷、洋間、180畳の大広間を設け、大空間を実現するために床組みを鋼材で補強するなど、近代的な構造手法を併用する。資料等により建設背景も明らかで、明治期の地方における迎賓施設の展開を理解する上で高い価値を有している。

(5) 指定基準について

国宝及び重要文化財指定基準（建造物の部）

重要文化財

建築物、土木構造物及びその他の工作物のうち、

次の各号の一に該当し、かつ、各時代又は類型の典型となるもの。

(3) 歴史的価値の高いもの



本館



別館



茶室

第3章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

国有文化財天川二子山古墳と総社二子山古墳の2箇所について実施した。見廻り看視、清掃等の日常管理については、自治会役員を国有文化財看視人として委託した。落枝の処分については、職員が定期的に行なった。定期除草は、天川二子山古墳は前橋市シルバー人材センターに、総社二子山古墳は「みんなの店運営委員会」に業務委託し、それぞれ2回実施した。

(2) 国・県・市指定文化財管理

今年度、新たに指定・登録された文化財数を反映した平成31年3月末日現在の指定文化財の数は、以下一覧表の通りである。

指定文化財数一覧表

指 定 名 称	国	県	市	合計
重 要 文 化 財	6	38	140	184
史 跡	11	12	45	68
無 形 文 化 財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	24	24
無形民俗文化財	0	2	21	23
天 然 記 念 物	2	3	13	18
名 胜	0	1	0	1
合 計	19	56	243	318
登録有形文化財	24			24
登録有形民俗文化財	1			1
重 要 美 術 品	8			8

① 害虫防除

市が管理する史跡5ヶ所において、樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除作業を職員が樹幹注入型殺虫剤を用いて実施した。

実 施 日 平成30年5月11日

平成30年6月22日

実施場所 ①天川二子山古墳 ②総社二子山古墳
③遠見山古墳

実施樹木 90本

② スズメバチ駆除

旧本間酒造及び飯土井町女堀でスズメバチが発生したため、駆除を行った。

実施日 平成30年9月14日（旧本間酒造）
平成30年10月4日（女堀）

③ 史跡等の除草

市が管理する史跡等について、地元自治会、前橋市シルバー人材センター及び業者に委託して環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史 跡 名	区 分 (指定)	除草面積 延べ (m ²)
1	前橋城車橋門跡	市	1,125
2	亀塚山古墳	市	7,452
3	金冠塚古墳	市	7,221
4	八幡山古墳	国	50,562
5	宝塔山古墳	国	3,306
6	蛇穴山古墳	国	600
7	蛇穴山古墳隣接地	国	1,962
8	総社二子山古墳隣接地		792
9	女堀(1)	国	85,992
10	不二山古墳	市	1,713
11	大日塚古墳	市	1,686
12	荒砥富士山古墳	市	4,050
13	大胡城跡	県	23,620
14	大胡城跡(急傾斜地)	県	5,000
15	堀越古墳	県	873
16	遠見山古墳	市	5,829
17	阿久沢家住宅	国	3,600
19	膳城跡(1)	県	3,171
20	旧本間酒店	市	3,000
21	女堀(2)	国	5,666
22	今井神社古墳	市	4,624
23	天神山古墳	県	1,095
24	膳城跡(2)	県	14,820
	合 計		237,759

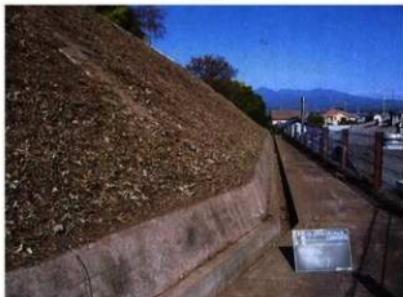
除草作業の様子（大胡城跡）



作業前



作業中



作業後

（3）文化財の保護

① 指定文化財の現状変更について

今年度の現状変更是、国指定が5件、県指定が1件、市指定が4件であった。

詳細は以下一覧表の通り。

現状変更詳細一覧表

種別	指 定 名 称	内 容
特天	カモシカ	死亡（1件）
国史	女堀	倒木のうち3本が根ごと倒れて地面に穴があいた。
国重	臨江閣	別館の建材の劣化等による、階段踊り場床の沈みやきしみ、床割れ等の補修。
国重	臨江閣	別館の床等の沈みや浮き、さざくれ等9箇所補修。硝子戸金物6箇所交換。
国重	臨江閣	別館の南面大屋根西側降棟のコバン型漆喰の落下。
県重	産泰神社	突風により落下した拝殿、神門の屋根飾りの修理。
市重	前橋藩酒井家前橋城絵図附上野国絵図ほか関係資料	クリーニング・補彩
市史	遠見山古墳	範囲内容確認調査
市天	大室公園コナラ	突風による枝折れ
市天	西大室町公民館のオハツキイチョウ	突風による枝折れ

④ 史跡の樹木管理

- 危険樹木の伐採：遠見山古墳北側1本
- 樹木剪定：愛宕山古墳西側及び南側（東電実施）、前二子古墳北道路沿
- 樹木撤去：大胡城跡入口舗装道
- 天川二子山古墳南側

⑤ その他の環境整備

- 愛宕山古墳屋外トイレ隣付ロータンク漏水修繕
- 王山古墳葺石防護柵修理

② 防火査察及び文化財防火訓練

ア 防火査察

4 1件の文化財査察対象物に対して9班編成を組み、前橋市消防局(各消防署)、東京電力(株)、関東電気保安協会と協力して、合同立入査察を実施した。

○平成31年1月23日(水)

《第3班東消防署：6施設》

木造十一面観音立像(柏川町女渕 観音堂保存会)、込皆戸三番叟人形一括(前橋市柏川出土文化財管理センター)、近戸神社御輿・他(柏川町月田 近戸神社)、金剛寺木造十一面観音坐像・他(苗ヶ島町 金剛寺)、三夜沢赤城神社本殿内宮殿(三夜沢町 赤城神社)、阿久沢家住宅(柏倉町)

《第4班東消防署：5施設》

柏倉諏訪神社の歌舞伎舞台・他(柏倉町 諏訪神社)、狂歌合わせの額・他(市之関町 住吉神社)、大胡神社の算額(河原浜町 大胡神社)、旧諏訪神社の宝物・堀越掛舞台下座一對(堀越町 金蔵院)、堀下の仏像群(堀越町堀下自治会)

《第6班南消防署：3施設》

円満寺薬師如来座像(後閑町 円満寺)、駒形町午頭天王の獅子頭(駒形町 駒形神社)、旧アメリカンボート宣教師館(小屋原町 共愛学園)

《第7班南消防署：5施設》

旧閑根家住宅(大室公園)、二宮赤城神社絵馬・梵鐘納曾利面(二之宮町 二宮赤城神社)、無量寿寺地蔵菩薩立像・十一面観音立像(二之宮町無量寿寺)、慈照院千手観音坐像(二之宮町慈照院)、産泰神社本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地内(下大屋町 産泰神社)

○平成31年1月24日(木)

《第1班中央消防署：5施設》

酒井家史料<129点>・前橋紙圖祭礼絵巻(二巻)(市立図書館)、前橋藩主松平家奉納能装束一式(大手町三丁目 東照宮)、臨江閣本館・茶室・別館(大手町)、酒井重忠画像(大手町三丁目 源英寺)、梵鐘(千代田町三丁目 妙安寺)

《第2班中央消防署：6施設》

旧蚕糸試験場事務棟(敷島公園ばら園)、神明宮の甲冑・奈良三彩小壺・横室の歌舞伎衣装(総合教育プラザ)、東福寺鷲口(三河町一丁目 東福寺)、上泉郷藏附上泉文書・上泉の獅子舞(上泉町)、石造薬師三尊立像(亀泉町 宝禪寺如意寺)、八幡宮文書(一巻九通)伯牙彈琴鏡(本町八幡宮)

《第8班北消防署：3施設》

日輪寺寛永の絵馬・十一面觀世音像(日輪寺町日輪寺)、鉄造阿弥陀如来坐像(端気町善勝寺)、前橋藩家老小河原左官の甲冑附旗差物(荒牧町)

《第9班北消防署：4施設》

珊瑚寺の板碑と多宝塔(富士見町石井 珊瑚寺)、萩林庵の阿彌陀像(富士見町原之郷)、原西の阿彌陀座像(富士見町原之郷)、時沢の仁王と多宝塔(富士見町時沢 時東自治会)

○平成31年1月25日(金)

《第5班西消防署：4施設》

上野總社神社本殿・他(元總社町一丁目 総社神社)、徳藏寺懸仏・麻木著色両界曼荼羅一対(元總社町 徳藏寺)、光嚴寺藥医門・打敷・油單並びに幡(元總社町總社 光嚴寺)、大徳寺總門・多宝塔(小相木町 大徳寺)

イ 文化財防火訓練

想定：旧本間酒造の敷地北西に位置する酒蔵からの出火を施設案内中の店舗職員が発見

店舗職員による初期消火(消火器)、観光客の誘導、119番通報からの特命建物火災による消防の出動、一斉放水を実施した。

○平成31年1月27日(日)

午前10時00分から午前11時00分まで

会場：旧本間酒造 総社町總社1500番地

《参加機関》

前橋市消防局(総務課、予防課、警防課、通信指令課、西消防署、利根分署、北消防署)前橋市消防団(第2方面団長、第4分団、第5分団、第6分団、第7分団)、

前橋市教育委員会事務局文化財保護課

「旧本間酒造店舗兼主屋」「旧本間酒造及び釜屋」活用プロジェクトHONMAYA



訓練の様子

③ 文化財パトロール

市内を10地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置し、指定文化財のパトロールを行った。月1度の報告により除草や修理の対応をした。第1回会議は平成30年4月16日に行い、平成30年6月26日開催の研修視察では、上田城・松山記念館・津金寺の見学を行った。



松山記念館見学

（4）前橋市柏川歴史民俗資料館の管理・活用

柏川歴史民俗資料館は、大胡、宮城、柏川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。平成30年度は春期に企画展、夏期に特別展を開催し、多くの市民に关心を持っていただこうとねらった。なお夏期特別展については、好評につき当初予定から会期を延長し、冬期閉館まで継続して展示を行った。

年間開館日数：224日

入場者数合計：2,315人

○春期企画展「前橋市所有の刀剣」

開催期間：平成30年4月21日（土）～

平成30年7月 1日（日）

来場者数：939名

春期企画展記念講座

第1回：平成30年5月27日（日）

第2回：平成30年6月17日（日）

講 師：三貴甲冑堂 中嶋 建樹 先生
受講者数：57名

（第1回：27名、第2回：30名）

○夏期特別展「土器土器（どきどき）探検隊」

開催期間：平成30年7月14日（土）～

平成31年3月 3日（日）

来場者数：1,349名



春期企画展のチラシ

（5）前橋市柏川出土文化財管理センターの管理・活用

施設は現在、赤城山南麓の旧町村の出土遺物の収蔵庫、並びに隣接する前橋市柏川歴史民俗資料館の収蔵庫として活用している。

施設内の機械警備、小荷物専用昇降機、浄化槽保守点検及び消防設備保守点検は、業務委託により引き続き管理を行っている。

（6）前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を敷島公園ばら園内に移築し、昭和57年4月に前橋市蚕糸記念館として一般公開した。

開館日の管理は、前橋市シルバーハンセンターに委託し、見学者の受付や館内外の清掃を行っている。

このほかの管理業務として、消防設備保守点検、桶及び周辺清掃業務をそれぞれ専門業者に委託した。

建物内の4つの展示室(①設立のいきさつ、開所当時の様子を示す資料、②はき立てから繭出荷までの養蚕用具、③上州座縁をはじめとして製糸業に用いる道具器械、④機織りや養蚕信仰の資料)において資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

春のばら園まつり、秋のバラフェスタの開催に合わせて、富岡製糸場世界遺産伝道師協会等の協力を得て、座繰り体験・桑の木クラフト体験、まゆクラフト体験を数回行っている。

開館日は、4月～11月の土・日・祝日（ばら園まつり・バラフェスタ開催期間中は毎日）で本年度の来館者は5,604人で昨年度より459人の増であった。



座繰り体験



桑の木クラフト体験



まゆクラフト体験

(7) 前橋市総社歴史資料館の管理・活用

前橋市総社歴史資料館は、開館3年目を迎える。認知度もあがり、来館者数も約9,000人となった。今年度も、発掘速報展やミニ企画展を実施し好評を得た。

資料館の見学の対応には地元で組織されている説明員の会に委託を行っている。毎年秋には、市内の小学4年生が天狗岩用水の現地見学に訪れている。「秋元氏と天狗岩用水」の展示を中心に行なわれていて、昔の道具の体験の案内をしている。また、その他にも団体や個人、学校・一般を問わず来館者の要望に応じて、館内はもとより総社地区的古墳の説明や付近の史跡の案内にも応じている。さらに説明員の会には、近隣の史跡の清掃も月3回、年間36回程度の活動を依頼している。

総社歴史資料館の開館日数は307日、来館者数は約8,980人。そのうち学校の社会科見学は、2,711人にのぼる。

3月には説明員の研修会を実施した。今回の研修は、「秋元氏ゆかりの地を訪ねて」をテーマに元総社町・安中市を中心に現地研修を実施した。元総社地区は、総社神社、八日市場城跡、宮鍋神社、若海城跡の見学。高崎市は、藤井久右衛門の墓、国分寺跡、妙見寺、北谷遺跡の見学。安中市では、皇女和宮宿泊所、旧碓氷郡役所、清元寺、中野谷神社、梁瀬二子塚古墳、自性寺焼の見学を行った。秋元氏との関係の深い地域を歩くことにより、今後の案内や説明に活かすことができる実りの多い研修となった。また、国分寺跡、皇女和宮宿泊所、旧碓氷郡役所では地元のボランティアガイドの説明を受けることができた。短い時間であったがガイド同士の交流を図ることもできた。案内の仕方については参考にするところが多くあった。



説明員の会視察研修
<清元寺(秋元長朝の屋敷跡)> 安中市中野谷

(8) 大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群の石室入口の鍵開閉や日常の保守・点検・清掃等については地元住民に管理業務を委託している。

県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「古墳の語り部」が史跡案内等を行なっている。

例年6月に開催している大室イベントでは、各種体験コーナーを設けているが、本年も座卓り体验等で富岡製糸場世界遺産伝道師協会の協力を得て開催することができた。

《管理業務実施日》

4月から11月まで：木曜日を除く毎日
12月から3月まで：土・日・祝日

《点検場所》

前二子古墳、中二子古墳、
後二子古墳及び小古墳

・前二子古墳及び後二子古墳については、石室の開閉、及び石室内の清掃を以下の時間に行う。

開錠 午前9時00分
施錠 午後4時00分

《年末年始休業》

平成30年12月29日(土)から
平成31年 1月 3日(木)まで

(9) 大室公園民家園の管理・活用

開園日の管理は前橋市シルバーハウスセンターに委託。平成30年度の開園日数は179日、来園者数は7,591人。

茅葺屋根保存維持のための専門業者による燻蒸を6回実施した。

6月の「大室イベント」のほか、「大室古墳の語り部」ボランティアの活動拠点としても、例年同様に利用された。

《開園日》

4月から11月まで：木～日・祝日
12月から3月まで：土・日・祝日
午前9時～午後4時

《年末年始休業》

平成30年12月29日(土)から
平成31年 1月 3日(木)まで



大室イベントでの様子

(10) 阿久沢家住宅の管理・活用

本住宅の管理については、開館日の管理はシルバーハウスセンターに委託。平成30年度の開館日数は185日。来館者は1,758人。

また、住宅の燻蒸を業者に委託して年6回実施し、住宅の適切な維持管理に努めた。

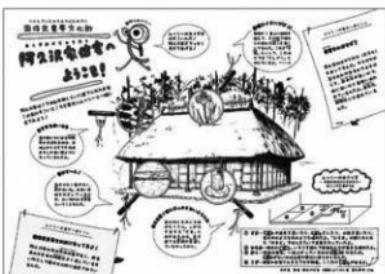
昨年度に引き続き里山学校事業や公民館事業の少年教室の会場として地元の子どもたちの学習の場となったほか、平成30年度の8月から大人も楽しめる内容のこども用案内パンフを作成し、市の公民館や一部小学校・カネコ種苗ぐんまフラワーパークなどへ配布をした。4月には庭先にある桜のライトアップを阿久沢家住宅活用委員会との共催で初めて実施した。ライトアップ期間は、4月7日(土)～4月15日(日)の9日間で、9時～21時まで連日開館し約250名が来場した。

《開館日》

4月から11月まで：木～日・祝日
12月から3月まで：土・日・祝日
午前9時～午後4時

《年末年始休業》

平成30年12月28日(木)から
平成31年 1月 4日(金)まで



こども向け案内パンフレット

(11) 臨江閣の管理・活用

開館日の管理については、前橋市シルバー人材センターに委託し、2名常駐している。管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備保守点検、雨樋及び屋根清掃を業者委託した。なお、庭内の木は、公園管理事務所へ管理を依頼している。9月と3月には、管理人・消防設備点検業者を呼んで、消防訓練を行った。3月には消防署隊員の立会いのもと消防訓練を行うとともにAEDの使用方法など救命講習を受けた。

貸館では、お茶会や百人一首大会、講演会等さまざまな行事が行われた。撮影は結婚式の前撮りや七五三・成人式のほかコスプレの撮影が一年を通して頻繁に利用された。その他、映画「ニセコイ」やテレビドラマ「探偵が早すぎる」などの撮影が行われた。団体見学は、各種団体見学のほか、ミステリーツアーなどクラブツーリズムの見学が増加した。

① 月別入館者数

月	開館日数	入館者数	備考
4	26	7,409	
5	26	6,412	
6	26	3,919	
7	26	2,384	
8	27	2,581	
9	26	4,498	
10	26	6,995	
11	26	6,174	記念事業
12	24	2,860	
1	24	3,048	
2	24	5,041	
3	27	5,758	UNな祭りイベント
合計	308	57,079	

② 目的別貸館利用割合

種 别	件 数	割 合
写真撮影	105	63%
研修セミナー等	15	9%
茶会、いけばな等	13	8%
行政関係	6	4%
イベント	12	7%
その他	16	10%
合 計	167	100%

③ 使用料収入額 1,707千円

④ 重要文化財指定記念事業

8月17日に官報告示により国重要文化財に指定されたことを受け、記念事業としてシンポジウムを開催した。

企画展、「ここまでわかった臨江閣」と題して、臨江閣の建具の変遷、別館創建時からある硝子戸、小屋組みの魅力など臨江閣をめぐる明治期の技術などについてパネルなどの資料を展示了。

臨江閣国重要文化財指定記念シンポジウム

『未来へ贈る』

一重要文化財臨江閣の保存と活用を考える

日時 11月25日(日)

午後1時～4時

参加人数 175名

第一部 基調講演

「近代和風建築と臨江閣」

内田青蔵（神奈川大学工学部建築学科教授）

「臨江閣の耐震設計とその考え方」

松野浩一（東洋大学理工学部建築学科教授）

「歴史的建造物の保存活用の現状と課題」

村田敬一（群馬県文化財保護審議会副会長）

第二部 シンポジウム

コーディネーター

藤井浩（上毛新聞社編集・論説委員）

パネラー

内田青蔵（上記参照）

松野浩一（上記参照）

村田敬一（上記参照）

下村洋之助（県民健康科学大学名誉教授）

清水和夫（前橋市文化協会会长）



シンポジウムの様子

⑤ひな人形展

本館1階にて寄附で受け入れたひな人形を、ボランティアの協力により展示した。

1月23日（水）～3月10日（日）



本館1階ひな人形展示の様子

また、3月3日の桃の節句にあわせ、関連イベントを行った。

日時 3月2日（土）

午後1時～4時

○ひな祭り講演会

講師 人形職人 田島 祐幸氏 （人形の島久）

参加人数 51名



○折り紙で作るひな人形ワークショップ

講師 文化財保護課職員

参加人数 30名



（12）旧本間酒造の管理・活用

本施設はこれまで総社地区の歴史資料館として活用されていたが、総社資料館は平成28年度に新館へ移転したため、今後は住民同士の交流や各種イベント等を行う施設として利活用する。

6月からは地元自治会を中心として、地場産野菜や加工品等の直売を行う「HONMAYA」がオープンし、毎週土曜日及び日曜日に開店している。

また、適切な維持管理や利活用のため、清掃や骨の張替え、建具等の修理及び樹木の剪定のほか、トイレの改修工事等を行った。

4月13日 主屋1階骨張替え

6月 7日 第5回利活用にかかる意見交換会

6月24日 HONMAYAオープン

9月 主屋：和式トイレを洋式に改修

漏水修理

ショイン：西側引戸鍵取付

カマヤ：引戸にアクリルガラス・鍵取付

東側引戸鍵取付

ホングラ：北側窓3箇所にアクリルガラスを
はめこみ

カラシゴヤ：鍵取付

10月31日 シタミセのカーテンを
防炎カーテンに交換（18枚）

11月 主屋建具修理

1月27日 主屋・ホングラで消防訓練実施

3月 説明板・銘板設置

旧本間酒造樹木剪定業務 北側

《意見交換会出席者》

前橋市議会議員（総社地区）、

総社地区自治会連合会、

総社町栗島自治会長、

総社地区生涯学習奨励員連絡協議会、

総社歴史資料館説明員の会、

総社地区民生委員児童委員協議会、

総社地区老人クラブ連合会、

総社地区食生活改善推進員会

(13) 刀剣の製作承認及び市有刀剣の管理

今年度は2口（太刀2）の製作承認申請があり、いずれも承認した。承認後、県公安委員会及び県教育委員会文化財保護課へ承認の旨を通知した。

また、本市に寄贈された刀剣を良好な状態で保存するため、毎年実施している専門的な技術者による手入れを、今年度は11月と2月の2回実施した。対象刀剣類は7種54口。

更に、平成29年度に柏川歴史民俗資料館の企画展において展示した刀1口に汚損があったため、鏡取りを行った。



手入れ業務の様子

市有刀剣類種類別所有数

種別	口数
太刀	3
刀	13
脇差	18
短刀	7
槍	5
薙刀	1
小柄・小刀	7
合計	54

2 整備事業

(1) 阿久沢家住宅整備事業

平成30年度は適切な駐車場利用を促すため、進入口にチェーンを取り付けた。

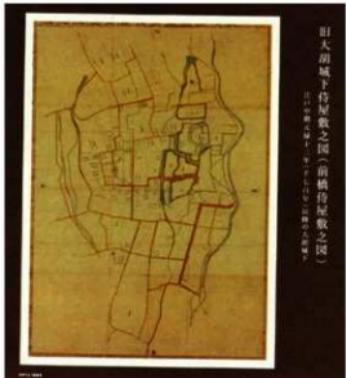
また、宮城地域づくり推進協議会が主催する足立区との交流会の一環で阿久沢家住宅を見学した際のバスの乗降場所や、里山学校などの大人数が参加する事業の乗降場所として利用した。

県道からの進入路は市道認定を受け県から市への譲渡手続きを行っている。駐車場用地は、群馬県との協議の結果、平成30年度以降も引き続き群馬県から占用を受けることになった。



(2) 大胡城跡ガイダンス施設整備事業

平成30年度は旧大胡幼稚園図書室を大胡城跡から出土した遺物を展示するために内装改修工事を行った。また、令和2年度の開館を目指し、展示物の解説パネルや遺物展示台、大胡氏と牧野氏に係る年表、縄張り図、大胡城跡のジオラマなどの展示造作物を作成した。



展示造作物例

(3) 史跡女塙保存活用計画策定事業

女塙は、前橋市上泉町から伊勢崎市田部井町にかけての全長約13kmに及ぶ長大な農業遺構であり、本市内では5箇所が史跡指定されている。史跡指定後、指定地の公有地化や環境整備事業を実施しているものの、史跡の保存や活用に関する指針が未策定であることから、策定が急務となっており、平成28年度より保存活用計画策定業務を実施している。

平成30年8月および12月に史跡女塙整備検討委員会議を開催し、各委員からの指導を受けて計画策定を進め、本年度末に策定した。なお、今年度は初めて指定地内の植生状況調査を実施し、樹木の繁茂が著しい二之宮地区峰下地点および飯土井地区の植生状況についても計画書に掲載した。

今後は本計画に基づき保存管理を進めるとともに、短期的な整備を実施して利活用の促進を図りたい。

史跡女塙保存活用計画書

平成30年12月 球磨谷史跡保存会



史跡女塙保存活用計画書

(4) 総社古墳群範囲内容確認調査事業

平成29年度より実施している総社古墳群範囲内容確認調査について、「総社古墳群調査検討委員会」の指導を受けて、今年度も引き続き市史跡遠見山古墳の調査を行った。今年度は墳丘北側のくびれ部、後円部および前方部南側の周堀、後円部墳頂部の4か所にトレーナーを設定し、計約250m²の調査を行った。

2か年度にわたる調査の結果、古墳北・西・南側の墳丘および周堀が確認できることにより、墳丘全長は80mを超える、周堀を含めると100m以上の規模を有することが確実となった。

第5トレーナーでは、第2トレーナーで確認された墳丘葺石の継ぎが検出され、墳丘形状を検討するための有力な情報が得られた。また、今年度の調査で埴輪列が検出でき、本古墳の構造が明らかとなつた。

主体部を確認するために設定した第8トレーナーでは、その痕跡を検出することができなかつた。①主体部が現況頂部よりも深い場所に構築され、その後盛土がな

されている。②後円部の墳頂部はすでに削平され、主体部ごと撤去されている。とする可能性が考えられる。今後レーダー探査等により主体部の有無を確認する必要がある。

今年度の調査でも中堤および外周溝の有無は確認できなかつたため、今後の課題となつている。

平成31年1月20日には現地説明会を開催し、地元住民を中心に91名の参加者を得ることができ、地域の関心の高さがうかがえた。

当初5か年度で調査を実施し、その後總括報告書を作成予定だったが、文化庁文化財第二課との協議の結果、次年度は遠見山古墳の調査成果を取りまとめ、その後範囲内容確認調査を再開することとなり、都合7か年事業とすることとなつた。



くびれ部墳丘葺石



説明会の様子

(5) 指定文化財説明板の整備

説明板の新設及び書替を行つた。

- 説明板書替

- 全面張替 6箇所

臨江閣本館・臨江閣別館・岩神の飛石・女塙東大室地区・女塙飯土井地区・清里の文化財
写真張替 4箇所

総社神社太々神樂・大徳寺多宝塔・乗明院阿弥陀三尊画像板碑・上泉の獅子舞

・国登録有形文化財説明板新設 1箇所 旧本間酒造

3 普及事業

(1) 大室古墳群公開イベント 2018

本イベントは、国指定史跡を擁する大室古墳群を広く普及啓発することを目的として、平成17年度から毎年開催している。今回で14回目。

① イベント名称

「古墳、こ～ふん！ 大室古墳イベント 2018」

② 日時：平成30年6月10日（日）

午前10時～午後3時

③ 会場：前橋市西大室町2545 他

大室公園内

④ 内容：

（古墳見学会）

市民ボランティア解説員「大室古墳（つか）の語り部」による古墳案内

（体験イベント）

勾玉づくり、プラバンづくり、お面づくり、座繩り、桑の木クラフト、繭クラフト、古代衣裳

（古墳めぐりスタンプラリー）

公園内の5か所をめぐる。全てのスタンプを集めた参加者には、景品としてオリジナル缶バッジを進呈。

⑤ 参加者：延べ1, 762名



(2) 大室古墳群市民ボランティア解説員

（大室古墳の語り部）の活動

市民ボランティア解説員の会「大室古墳（つか）の語り部」は、一般市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し発足し、12年が経過した。

現在活動中の市民ボランティア解説員は、10名。ほとんどが地元在住で、地元にまつわるエピソードなど盛り込みながら案内・解説を行っている。

春から秋にかけての定例説明会の他、団体や個人から見学依頼を受けて大室古墳群の案内を行っている。他に大室イベントや大室公園窪穴住居再生体験の協力など幅広く活動している。定例説明会は、「広報えまばし」や市ホームページでの広報もを行い、市民に活動をアピールしている。

また、年度末には総会を開催し、翌年度の総括と来年度へ向けての活動計画を検討した。さらに、野外研修として、市外の史跡や解説団体（施設）を見学し資質向上に努めている。

① 定例活動（古墳案内等）

（5月～11月の主に第1土曜日）

9時30分から11時頃まで受付、民家園を集合・出発場所として開催。希望者が集まり次第、人数に応じてグループに分けするなど随時案内。一周一時間程度。

見学者 計 126名

② 学校・一般団体等の案内

随時受け付け。7団体へ実施。

見学者 計 151名

③ 研修会

市観光ボランティア会の研修のほか、会員で史跡や歴史施設の見学・研修を行っている。

本年度は、耳飾り館と三津屋古墳、南下A・B古墳、吉岡町文化センター、高塚古墳を訪れ史跡や案内の手法について学んだ。



(3) 第46回前橋市郷土芸能大会

毎年開催している郷土芸能の公演。市内から5つの団体と、近隣市町村から招待した1団体に出場いただいたほか、今年度は新たな試みとして、群馬県立勢多農林高等学校郷土芸能部の生徒にオープニング公演を依頼し、計7団体で公演を行った。

近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に始められ恒例となっている。今回は北群馬郡吉岡町より「溝祭獅子舞保存会」の皆様に出演いただいた。

恒例となっている抽選会も実施。これは余興的な催しである一方、より多くの方に来場いただき、最後の公演まで場内の活気を維持するねらいで実施している。市内16の企業・団体からご協賛を頂き、盛大に開催することができた。

マスコミ各社の後援協力を頂き、広報活動も積極的に行なった。延べ500名入場。

① 日時 平成30年12月8日(土)

午後0時40分～午後4時

② 会場 昌賢学園まえばしホール
(前橋市民文化会館) 小ホール

③ 出演団体

郷土芸能の名称	保 存 会 名	所 在 地
上州八木節音頭	群馬県立勢多農林高等学校郷土芸能部『勢凧』	日吉町
駒形神社太々神楽	駒形町太々神楽保存会	駒形町
立石の鳥追い	総社町立石子ども会	総社町 植野
溝祭獅子舞	溝祭獅子舞保存会	北群馬郡吉岡町
新前橋祭りばやし	新前橋祭りばやし保存会	新前橋町
大友町百万遍祭	大友町百万遍祭保存会	大友町
立石諏訪神社の獅子舞	立石獅子舞保存会	総社町 植野



大友町百万遍祭



立石諏訪神社の獅子舞

(4) 前橋・高崎連携文化財展

前橋・高崎連携文化活用事業として毎年開催している文化財展「東国千年の都」は、本年度で第12回目となった。

① 展示テーマ

東国千年の都

『災害を乗り越えた先人たち—考古学からみた災害と復興の歴史—』

② 期日・会場

- 前橋会場 平成30年1月9日～15日
前橋プラザ元気21 1階にぎわいホール
- 高崎会場 平成31年1月19日～28日
高崎シティギャラリー 2階 第6展示室

③ 開催結果

来場者数3,617人
(前橋会場2,467人)



前橋会場の様子

(5) 普及啓発

① 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成15年度より開始してきた。

平成30年度は、第1回目は「東国の雄 総社古墳群をあるく」として総社古墳群を歩いてめぐった。第2回目は「朝倉・広瀬古墳群を学ぶ」として元群馬大学教授 梅澤 重昭先生に解説をしていただきバスでめぐった。

〈第1回目〉

「東国の雄 総社古墳群をあるく」

日 時 10月21日(日)

午前9時30分から午後3時15分

案 内 文化財保護課 主任 阿久澤 智和

参加者 26名(欠席者6名)

コース 総社歴史資料館→宝塔山古墳→蛇穴山古墳
→旧本間酒店→遠見山古墳→総社二子古墳
→愛宕山古墳



〈第2回目〉

「朝倉・広瀬古墳群を学ぶ」

日 時 3月18日(日)

午前9時から午後1時

案 内 元群馬大学教授 梅澤 重昭先生

参加者 19名(欠席者1名)

コース 市役所→天川二子山古墳→八幡山古墳
→天神山古墳→金冠塚古墳→上川淵公民館
→市役所



② 出張授業・出前講座

○出張授業「おもしろ文化財教室」

「おもしろ文化財教室」は、小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として学校や教育施設へ訪問し、授業を行うものである。担当教諭と事前打ち合わせを行い、授業のねらいや留意点などを確認し、児童・生徒たちにとって充実感や達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、のべ15校 987名を指導した。

出張授業実施概要一覧

実施日	学校名 学年	実施内容(実施場所)
5/10	桃井小6年	古墳見学(総社古墳群)
6/12	桃井小6年	勾玉づくり(PTA行事)
7/4	荒牧小5年	勾玉づくり(国立赤城青少年交流の家)
7/5	荒牧小5年	勾玉づくり(国立赤城青少年交流の家)
7/17	岩神小6年	縄文土器作り
10/18	桃瀬小3年	昔の道具・くらし(柏川歴史民俗資料館)
10/24	東小3年	昔の道具・くらし(柏川歴史民俗資料館)
1/24	大胡小3年	昔の道具・くらし(柏川歴史民俗資料館)
1/31	柏川小3年	昔の道具・くらし(柏川歴史民俗資料館)
2/6	滝窪小3年	昔の道具・くらし(柏川歴史民俗資料館)
2/7	大胡東小3年	昔の道具・くらし(柏川歴史民俗資料館)
2/8	月田小3年	昔の道具・くらし(柏川歴史民俗資料館)
2/13	城南小3年	郷土芸能(八幡宮おはやし・水神宮裸みこし)
2/20	総社保育所年長組	総社の昔(総社歴史資料館)
3/15	桃井小3年	臨江閣の説明(臨江閣)

○出前講座（生涯学習課事業）

今年度の実施状況は以下の通り。

- i. 「前橋市の文化財行政」
なし
- ii. 「明治のイギリス外交により見出された
大室古墳群」
なし
- iii. 「古代の東国に咲いた革 山王庵寺」
なし
- iv. 「解説！古代前橋の中心「推定上野国府跡」
1団体

なお、その他「公民館連携事業」に関連するものとして、「のびゆく子どものつどい」や地区的文化祭、公民館の少年教室、児童文化センターとの連携事業で合わせて6件の講師派遣依頼があり、勾玉づくり、埴輪づくり、古墳の見学案内等を実施した。

③ 職場体験学習

今年度は、学校の計画との調整がつかず0件であった。

④ 文化財資料の貸出

出版社等からの依頼を受け、写真資料等の貸し出しを行なった。主な貸し出しは以下の通り。

貸し出し資料	貸し出し先
松平直基画像	TBSテレビ
旧安田銀行担保倉庫 写真データ	株式会社エイエイ ピー
春日神社太々神楽 (蚕の舞写真)	株式会社 天夢人
松平直克公肖像写真	
前橋城絵図 (貞享四年卯年八月十三日)	岩宿博物館
大胡城下絵図写真	
臨江閣 写真データ	群馬県コンベンシ ョン推進課
「放光寺」瓦 写真データ	法政大学
力田遺愛碑拓本 写真データ	群馬県立女子大学
金冠塚古墳出土冠の復元品 写真データ	広島県立歴史民俗 資料館
山王庵寺出土塑像片 写真データ	松戸市立博物館

白藤V-4号墳出土馬型埴輪 写真データ	群馬県広報課
・俊工時の臨江閣 ・武徳殿 ・明治43年共進会 写真データ	公益財団法人前橋 観光コンベンション協会
・宝塔山古墳石室 ・総社歴史資料館外観 ・中二子古墳 写真データ	上海印刷工業株式 会社
・総社古墳群航空写真 ・各古墳外観及び石室 写真データ	株式会社スリーシ ーズン
・前二子古墳墳丘 ・中二子古墳埴輪列 ・山王庵寺根巻石 写真データ	株式会社ニュ ーズ・ライン
・春の蛇穴山古墳 ・春の総社二子山古墳 写真データ	「朝日ぐんま」編 集室

（6）里山学校

赤城山ろく里山学校は、平成30年度の教育委員会重点事業のひとつであり、文化財保護課では宮城地区を担当した。

国指定重要文化財阿久沢家住宅を活用し、昔の暮らしや地域の文化を学ぶ体験学習を2回企画・実施した。

また、昨年度まで宮城小学校の児童のみを対象として企画していたが、今年度の第2回開催分では、新たな試みとして学区外の小学校からも参加者を募ることとした。対象の小学校の選定については、青少年課からの助言を得て、今回は桃井小学校に協力を依頼した。

各回の活動内容等の詳細は以下の通り。

第1回

開催日時

平成30年6月30日（土）10:00～12:00

参加人数 16名

活動内容

- ・オオムラサキの生態学習と観察、放蝶
- ・ジャガイモ掘り体験と試食



オオムラサキを間近で観察



オオムラサキのメス（左）とオス

第2回

平成30年9月24日（日・祝）9:30～12:00

参加人数 25名

（宮城小学校9名、桃井小学校16名）

活動内容

- ・栗の献穀抜穂祭の見学
- ・栗の刈り取り体験
- ・サツマイモ掘り体験と焼き芋の試食



栗の刈り取り体験

（7）大室公園堅穴住居再生体験

平成10年8月に市内小学生を中心に住居建設体験学習の一環で完成させた堅穴住居の茅が崩れきているので、その茅の葺き替えを中心とした再生体験を、市民を募集して実施した。

再生体験当日には、茅葺きの指導者として、大室古墳の語り部の他に、公益財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団から職員を派遣してもらった。

竹刈りや茅の刈り取り等の事前準備を、大室古墳の語り部や大室古墳の教室展示ボランティア、職員などを中心に行った。竹や茅などは無償で譲り受けた。

開催日時：平成31年3月2日（土）
9時～16時30分

会場：前橋市大室公園内

対象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴）

先着20名での募集

*申込み多数で受入れ人数を増やし
30人で活動した。

内容：堅穴住居の解体作業（午前）

堅穴住居の屋根の葺き替え作業（午後）

部材として使う竹の竹割作業（午後）



茅のユニット作り



茅の葺き替え作業



竹割作業

(8) まえばし古墳の教室

主に小学生を対象とした体験学習や考古学講座を開講し、市内の埋蔵文化財の活用や本市の古代文化を紹介するとともに郷土愛を育むことを目的として開催した。

開催した事業

①小学生夏休み考古学教室

時間：午前9時から午後0時まで

講師：文化財保護課職員

第1回 まが玉作り

期日：平成30年7月27日（金）

会場：柏川歴史民俗資料館学習室

参加者数：13名



第2回 発掘模擬体験とプラバン工作

期日：平成30年8月3日（金）

会場：前橋市総社歴史資料館学習室

参加者数：22名



第3回 まが玉作り

期日：平成30年8月17日（金）

会場：前橋市総社歴史資料館学習室

参加者数：16名



第4回 はにわクッキー作り

期日：平成30年8月24日（金）

会場：総社公民館調理実習室

参加者数：26名



②古代文様タイル制作

日時：平成31年1月26日（土）

午前9時から午後3時まで

講師：文化財保護課職員

会場：前橋市総社歴史資料館学習室

参加者数：18名



(9) 文化財調査事業

前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査

【調査概要】

前橋市の蚕糸業にかかる歴史上重要な遺構及び文献を調査し、市域における蚕糸業の重要性を再評価するために実施する調査事業である。

蚕糸業に係る調査委員会議を実施し、報告書作成を行った。また、前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物群の予備調査を行った。

【構成員】

石井寛治顧問（東京大学名誉教授）
大野敏委員（横浜国立大学教授）
岡田昭二委員（前橋市文化財調査委員）
西川武臣委員（横浜開港資料館館長）
宮崎俊弥委員（前橋国際大学名誉教授）
村田敬一委員（県文化財保護審議会副会長）

【調査計画】（※本年度は五年計画の5年次）

計画年次	調査	内容
1年次	事前調査	委嘱式及び現地視察（塩原蚕種）
2・3年次	「蚕糸業遺構調査（塩原蚕種建造物調査）」	・建造物調査 ・建造物に関係する部分の報告書作成
	「関連文献調査」	・塩原蚕種にかかる文献調査
塩原蚕種に係る調査	「聞き取り調査」	・塩原蚕種所有者及び関係者を対象に物件の歴史や活用状況、活動範囲等について詳細な聞き取りを行う。
	検討・計画	・調査成果から歴史的な価値付け等、整理、検討。 ・次年次の調査活動の計画について検証 ・計画の再構成等

4年次	蚕糸業に係る調査	市内に残る蚕糸業に係る遺構関係調査	・市内の蚕糸業関連遺構の全体把握 ・蚕糸業関連遺構較込みと詳細調査等準備
	市内蚕糸業にかかる文献調査	検討・計画	・調査物件の過去の資料、既往の研究等から調査物件の歴史的意義や価値、変遷過程に関する調査等 ・次年次の調査活動の計画について検証 ・計画の再構成等
5年次	報告書作成	報告書作成に向けた補足調査	・報告書作成に当たって、必要に応じ、隨時補足調査を行い、調査内容の充実を図る。
	報告書作成	報告書作成	・4カ年にわたって実施した調査内容を報告書として編集する。 ・専門部会及び委員会により精査し、報告書の内容を確認し発行する。

(10) 文化財修復補助等

前橋市郷土芸能連絡協議会補助金、総社地区史跡文化財説明板等設置事業に交付した。

第4章 埋蔵文化財事業

1 埋蔵文化財発掘調査事業

(1) 平成30年度の発掘調査をふりかえって

今年度は、平成30年度埋蔵文化財発掘調査一覧表に示したとおり12件の発掘調査を実施した。調査目的・原因別内訳は保存目的の範囲・内容確認調査2件以外は、すべて公共開発事業に伴う記録保存を目的とした調査である。記録保存目的の調査では公共開発に伴う3遺跡の調査を直営で実施し、他はすべて民間調査組織への委託により調査を実施した。

総発掘調査面積は14,688m²で、うち保存目的の調査が986m²、公共開発に伴う調査が13,702m²であった。また、直営で行った調査は12,183m²、官民委託は2,505m²であった。以下に主な調査について概述する。

①上野国府等範囲内容確認調査

第2期5か年計画の3年目にあたる今年度は、4地点で8箇所のトレンチを設定し、国府関連遺構の検出に努めた。その結果、上野国府の中心施設ではないが、元總社小学校西方のトレンチにおいて国府に関連すると考えられる複数棟の掘立柱建物跡を検出することができた。上野国府等範囲内容確認調査では、ここ数年国府関連遺構の検出が続いていることから、上野国府を推定する材料が徐々に蓄積されつつある。

②上細井中西部遺跡群No.1

県営上細井中西部地区土地改良事業に伴い平成30年度より5か年計画で市教委直営の発掘調査を実施予定であり、今年度はその1年目になる。平成30年度の調査は5月から翌年2月にかけて実施した。調査の結果、縄文時代前期及び中期の堅穴住居跡や土坑、古墳時代から奈良・平安時代の堅穴住居跡や掘立柱建物跡等が多数検出されている。

③元總社蒼海遺跡群(127)～(132)

元總社蒼海土地区画整理事業に伴う元總社蒼海遺跡群の発掘調査は、市教委直営により1遺跡3調査区5977m²、民間委託により5遺跡9調査区1,978.25m²の調査を実施した。

蒼海(127)は遺跡群南東部の宮鍋神社南側の宅地造成に伴う調査で、古墳時代から平安時代の堅穴住居が密度濃く分布していた。また、調査区の北側からは基壇建物跡の南辺が検出され、隣接する蒼海(99)や国府28トレンチ等で確認さ

れた建物跡との関連が想定される。

蒼海(128)は遺跡群北東部の区画整理区域に位置し、1108年の浅間山噴火により降下した軽石に埋没した水田跡、6世紀初頭の榛名山噴火により降下した火山灰を含んだ洪水層を掘り込んだ畠跡等を検出した。

蒼海(129)は遺跡群南部の県道足門・前橋線沿線に位置し、中世蒼海城の堀跡や近世の溝・井戸等を検出した。

蒼海(130)は1～3区までの3調査区の調査を実施し、1・2区からは平安時代の堅穴住居跡の他に土壙墓がそれぞれ1基検出された。土壙墓は釘を用いて組み立てられた木棺を埋葬したものと土師器甕3点を合わせて配置した合口土器棺墓と考えられる。3区からは蒼海城二の丸における建物の柱穴と考えられるピット群が確認された。

蒼海(131)からは古墳～奈良時代までの堅穴住居跡が5軒検出された。また、隣接する蒼海(35)で検出されていた掘立柱建物跡が本調査区まで延びることが確認された。なお、中世蒼海城に関連すると考えられる堀跡も検出されている。

蒼海(132)は1～3区までの3調査区を直営で調査した。蒼海城本丸の北西に位置する1区では3箇所のトレンチを設定し、古代の溝跡や蒼海城の堀跡等が検出された。元總社SCの東側に位置する2区からは古墳時代の堅穴住居跡の他に蒼海(9)等で検出されている大溝の延伸を確認した。また、蒼海(127)東隣の3区からは堅穴住居跡、古代の溝跡、蒼海城の堀跡等を検出した。

④南橋東原No.2遺跡

南橋公民館本館改築工事に伴い調査を実施した。調査の結果、古墳時代後期の堅穴住居跡1軒、畠跡1面を検出した。隣接する南橋東原遺跡では、6世紀中葉から9世紀中葉までの集落跡が確認されており、本遺跡で確認された住居跡もこの集落の一端を担っていたものと考えられる。また、本遺跡の北側から検出された疊群(疊層)は、白川扇状地上を流れていた旧河川の流路跡と考えられる。

⑤天神風呂M地点

市道00-360号線の築造に伴い調査を実施した。調査の結果、古墳時代から奈良時代の堅穴住居跡3軒、奈良時代の掘立柱建物跡1棟などを検出し、これまでに周辺で調査した遺跡と同様の集落の傾向を示すものであった。

(2)台帳整備事業

平成30年度の台帳整備事業は、まず昨年度下半期に実施した本発掘調査及び試掘調査実施箇所のデータを9月までに、また本年度上半期のデータは2月までに遺跡地図に加筆した。また、過去5年間の試掘調査実施箇所のうち遺跡地図未記入分について、改めてデータを整理し前橋市遺跡分布地図への書き込みを行った。なお、包蔵地の範囲変更が生じた場合は、隨時、県の情報システム上に反映されるよう、データの改訂を申請している。

(3)資料整備事業

①普及関係

小学校高学年児童を対象とした埋蔵文化財普及パンフレット『い・せ・きワールド in 前橋2019』を刊行し、市内小学校に配布した他、一般用として公民館等の公共施設にも配布した。

埋蔵文化財資料の展示については、前橋・高崎連携文化財展において展示を行った。また、主に平成29年度に本市で発掘調査を実施した遺跡の出土品を中心に展示した「新収藏品展」を平成30年11月6日から18日まで12日間の会期で総社歴史資料館において開催し、会期中621人の来館者があった。

さらに、市内公民館および小学校、けやきウォーク、サンデンフォレスト等において出土資料の貸出しや展示替えを行った。

②資料整備

昨年度に引き続き収蔵資料の整理を行い、調査図面・写真資料及び報告書等の整理・台帳作成はほぼ終了した。

出土遺物については、荒砥地区からの出土遺物を中心に収蔵整理及び台帳作成を行った。来年度以降も、スケジュールを立てて収蔵資料の整理を行い、複数年度に亘るが、将来的に収蔵資料の台帳化を行う予定である。

(4)開発に伴う事前協議

本年度中は3,160件の開発事業に係る埋蔵文化財包蔵地の照会があった。また、文化財保護法第93条第1項の届出は862件となった。平成24年度『前橋市遺跡分布地図』情報の公開に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地の拡大により、照会・届出件数が一気に増大したが、本年度は昨年度に比べてさらに増加傾向にあり、相変わらず市内における開発事業の多さを物語っている。

試掘・確認調査実施件数は35件であり、このうち23件で埋蔵文化財の存在を確認した。うち5件が発掘調査に移行し7件が現在調整中である。

その他については、試掘調査の結果を受けて計画変更等により現状保存を図った。その他に、各種開発工事中の立会調査を34件実施した。

(2) 平成 30 年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

	遺跡名	所在地	面積 (m ²)	担当	調査原因	調査期間	主な内容
1	上野国府等範囲 内容確認調査	元総社町	736	阿久澤智和 村越純子	範囲内容 確認調査	5月 14 日 ～ 12月 27 日	平安住居跡、 掘立柱建物跡、道路跡、 溝跡、土坑
2	上細井中西部 遺跡群No.1	上細井町	7,266	小峰 篤 松村輝敏	土地改良 事業	5月 14 日 ～ 10月 31 日	縄文住居跡、古墳～平安 住居跡、掘立柱建物跡、 道路跡、溝跡
3	上細井中西部 遺跡群No.2	上細井町	3,334	小峰 篤 松村輝敏	土地改良 事業	11月 1 日 ～ 2月 28 日	縄文住居跡、古墳～平安 住居跡、掘立柱建物跡、 土坑、ピット
4	元総社蒼海遺跡 群(127)	元総社町	406	山下工業 永井智教	土地区画 整理事業	8月 8 日 ～ 10月 22 日	古墳～平安住居跡、 掘立柱建物跡、 基壇建物跡、土坑、溝跡
5	元総社蒼海遺跡 群(128)	総社町 総社	648	技研コンサル 岡野 茂	土地区画 整理事業	9月 10 日 ～ 10月 31 日	古墳住居跡、古墳島跡、 平安水田跡、炉跡
6	元総社蒼海遺跡 群(129)	元総社町	259	毛野考古学 研究所 土井道昭	土地区画 整理事業	10月 2 日 ～ 11月 5 日	中・近世溝跡、井戸跡、 土坑
7	元総社蒼海遺跡 群(130)	元総社町	505	技研コンサル 佐野良平	土地区画 整理事業	9月 10 日 ～ 10月 31 日	平安住居跡、土塙墓、 溝・堀跡
8	元総社蒼海遺跡 群(131)	元総社町	160	技研コンサル 佐野良平	土地区画 整理事業	12月 14 日 ～ 1月 7 日	古墳～奈良住居跡、 蒼海城堀跡
9	元総社蒼海遺跡 群(132)	元総社町	597	並木史一	土地区画 整理事業	8月 7 日 ～ 2月 4 日	古墳～平安住居跡、 蒼海城堀跡
10	天神風呂M地点 遺跡	茂木町	177	山下工業 青木利文	道路築造	12月 14 日 ～ 12月 27 日	古墳住居跡、 掘立柱建物跡、 堅穴状遺構
11	南橋東原遺跡 No.2	日輪寺町	350	技研コンサル 佐野良平	公民館改築	8月 1 日 ～ 8月 28 日	古墳住居跡、島跡
12	遠見山古墳	総社町 総社	250	小川卓也	範囲内容 確認調査	10月 2 日 ～ 1月 25 日	古墳

(3) 平成 30 年度 埋蔵文化財報告書一覧表

No.	報告書名	発行者	発行年月日	備考
1	推定上野国府 ～平成 29 年度調査報告～	前橋市教育委員会	H30. 3. 22	
2	元總社蒼海遺跡群(127)	前橋市教育委員会	H31. 3. 22	
3	元總社蒼海遺跡群(128)	前橋市教育委員会	H31. 3. 12	
4	元總社蒼海遺跡群(129)	前橋市教育委員会	H31. 3. 5	
5	元總社蒼海遺跡群(130)	前橋市教育委員会	H31. 3. 21	
6	元總社蒼海遺跡群(131)	前橋市教育委員会	H31. 3. 27	
7	南橋東原No.2 遺跡	前橋市教育委員会	H31. 3. 20	
8	天神風呂M地点	前橋市教育委員会	H31. 3. 27	

(4) 平成30年度 立会調査一覧表

所在地	開発面積 (m ²)	開発原因	調査年月日	調査結果
1 朝倉町	951.1	調剤薬局建設（合併浄化槽）	H30.4.6	溝跡1条
2 総社町植野	673.0	宅地造成（L型擁壁設置）	H30.4.12	古墳の周堀
3 下石倉町	1,187.6	宅地造成（下水管管理設工事）	H30.5.11	埋蔵文化財検出なし
4 宮地町	2,587.0	眼科・調剤薬局建設（合併浄化槽）	H30.5.21	土坑
5 富士見町横室	670.0	集合住宅（合併浄化槽）	H30.5.24	埋蔵文化財検出なし
6 小島田町	991.7	集合住宅（基礎工事）	H30.6.5	古墳の周堀力
7 元総社町	206.2	個人住宅（基礎工事）	H30.6.5	古墳時代の住居跡1軒、土坑1基。縄文～古墳時代の土器片
8 大前田町	683.0	個人住宅（駐車場建設）	H30.6.25	埋蔵文化財検出なし
9 上細井町	160.0	土地改良事業（土取り工事）	H30.6.26	埋蔵文化財検出なし
10 亀里町	815.0	集合住宅（表層地盤改良）	H30.7.17	溝跡1条、宿阿内城堀跡力。土師質片
11 元総社町	100.0	駐車場整備（切土工事）	H30.8.8	竪穴住居跡3軒、竪穴状遺構1軒、溝跡1条、土坑1基ビット。灰釉段皿片1片、縄文土器片1片、土師器片1袋
12 小島田町	740.9	集合住宅（表層地盤改良）	H30.8.9	古墳周堀力。須恵器甕片
13 山王町	232.8	携帯電話アンテナ基地局（基礎工事）	H30.8.17	遺構の検出なし。土師器片1片
14 宮地町	5,630.0	バス事業所建設（擁壁工事）	H30.8.30	埋蔵文化財検出なし
15 二之宮町	3,318.1	店舗駐車場施張（雨水貯留槽設置工事）	H30.9.18	埋蔵文化財検出なし
16 総社町総社	148.5	賃貸住宅建設（基礎工事）	H30.9.27	遺構の検出なし。縄文小片1片、土師小片2片
17 元総社町	330.0	宅地造成（切土工事）	H30.10.5	中世溝跡1条、ビット等。土師小片3片
18 上増田町	514.0	個人住宅（基礎工事）	H30.10.9	埋蔵文化財検出なし
19 横越町	1,144.0	老人ホーム（エレベーター・ビット設置工事）	H30.10.23	埋蔵文化財検出なし
20 元総社町	1,023.1	建売住宅建設（埋設物確認掘削）	H30.10.26 ・10.29	住居跡3軒、土坑。縄文片、土師片、瓦
21 元総社町	45.0	スロープ設置造成（切土工事）	H30.10.29	埋蔵文化財検出なし
22 大手町一丁目	①634.4 ②491.3	校舎建築（基礎工事）	H30.11.19	埋蔵文化財検出なし
23 力丸町	275.0	個人住宅（合併浄化槽）	H30.11.21	埋蔵文化財検出なし
24 元総社町		L型擁壁設置	H30.12.4	埋蔵文化財検出なし
25 亀里町	2,522.6	ガソリンスタンド建設（擁壁設置）	H30.12.6	平安時代水田遺構

	所在地	開発面積 (m ²)	開発原因	調査年月日	調査結果
26	亀里町	7,500.0	道路改良工事	H30.12.18	埋蔵文化財検出なし
27	横手町	50.0	集合住宅建築（合併浄化槽）	H31.1.23	平安時代末水田遺構と思われるが、畦畔の検出なし
28	南町二丁目	5.0	モデル住宅建設（埋設物確認掘削）	H31.1.28	遺構の検出なし。土師器片1片、須恵器片1片
29	北代田町	10,576.6	店舗（基礎工事）	H31.2.8	埋蔵文化財検出なし
30	元総社町	2,500.0	店舗（基礎工事）	H31.2.12	埋蔵文化財検出なし
31	元総社町	482.8	個人住宅（基礎工事）	H31.2.15	古代溝跡1条、古墳時代周溝墓1基。土師器片、須恵器片
32	元総社町	300.1	個人住宅（合併浄化槽）	H31.3.11	埋蔵文化財検出なし
33	堀越町	1,021.0	個人住宅（切土工事）	H31.3.19	埋蔵文化財検出なし
34	下細井町	254.0	個人住宅（L型揮塚設置）	H31.3.27	遺構の検出なし。縄文鉢片3片

(5) 平成30年度 試掘・確認調査一覧表

	所在地	開発面積 (m ²)	開発原因	調査年月日	調査結果
1	富士見町小暮	2,000.0	宅地造成	H30.4.10	埋蔵文化財検出なし
2	総社町総社	858.6	宅地造成	H30.4.13	溝跡2条（中世以降のものと浅間B軽石純層のもの）、ピット1基。土師器片、須恵器片
3	元総社町	1,214.7	土地区画整理	H30.4.19	苔海域の堀跡ほか溝跡1条、土坑、ピットを検出。土師器片
4	上新田町字町	1,796.0	宅地造成	H30.4.24	遺構の検出なし。土師器片1個
5	端気町	305.0	店舗建設	H30.4.26	土坑1基。縄文土器片、土師器片、陶器片
6	後家町	923.9	宅地造成	H30.5.8	埋蔵文化財検出なし
7	富士見町	1,290.0	宅地造成	H30.5.10	遺構の検出なし。縄文土器片、石器片、土師器片
8	閑根町	1,630.0	道路新設	H30.5.17	遺構の検出なし。土師器片
9	稲荷新田町	1,476.0	宅地造成	H30.5.30	平安時代水田跡（畦畔跡）
10	総社町植野	187.9	事務所建設	H30.6.14	遺構の検出なし。土師器片1個
11	小島田町	108.1	個人住宅	H30.6.25	古墳1基
12	上細井町・青柳町	38,556.0	土地改良事業	H30.7.2 ～7.13	古代の住居跡、溝跡、土坑、ピット、縄文時代の遺構等。土師器片、須恵器片、縄文土器片、石器片等
13	元総社町	2,563.0	集合住宅	H30.7.24	古代の住居5軒、中世の溝跡1条、土坑2基、ピット。土師器、須恵器片（壺、甕、羽釜等）、瓦片
14	大手町二丁目	1,100.0	新議会庁舎	H30.8.1	近世の溝跡1条、時期不明溝跡2条、土坑2基、ピット20基

	所在地	開発面積 (m ²)	開発原因	調査年月日	調査結果
15	元総社町	226.2	土地区画整理	H30.8.7	古代の溝跡（道路状遺構）1条、土坑1基、ビット1基、中世堀跡2条、土師器片
16	元総社町	1,023.1	宅地造成	H30.8.21	古墳時代の住居跡1軒、古代の住居跡1軒、溝跡1条。縄文土器片、土師器片、須恵器片、瓦片
17	柏川町室沢	2,530.9	幼稚園	H30.8.23	埋蔵文化財検出なし
18	富士見町時沢	2,158.0	宅地造成	H30.9.5	埋蔵文化財検出なし
19	鶴光路町	970.0	店舗建設	H30.9.7	平安時代水田跡（畦畔跡）、中世溝跡1条
20	堀越町	650.0	道路改良	H30.9.26	土坑、ビット各1基。土師器片、須恵器片少量
21	下細井町	4,944.3	宅地造成	H30.10.2	埋蔵文化財検出なし
22	橋越町	2,751.5	宅地造成	H30.10.4	埋蔵文化財検出なし
23	六供町	2,197.3	店舗建設	H30.10.9	埋蔵文化財検出なし
24	茂木町	12,200.0	道路新設	H30.10.19	古墳時代の竪穴住居跡1軒、時期不明の住居跡1軒、ビット1基。縄文土器片、土師器片
25	小島田町	4,944.0	店舗建設	H30.10.23	古墳時代の溝跡1条、中世の土坑1基。土師器片
26	鳥取町	1,123.7	グループホーム建設	H30.10.25	中世の溝跡（堀跡）2条（同一遺構）
27	元総社町	790.0	土地区画整理	H30.10.30	中世溝跡3条、土坑、ビット。土師器片少量
28	元総社町	128.0	土地区画整理	H30.11.1	竪穴住居跡3軒、構跡2条、ビット。土師器片
29	朝倉町	1,100.0	道路新設	H30.11.8	竪穴住居跡1軒。土師器片、須恵器片
30	小相木町	1,658.0	消防庁舎（建替え工事）	H31.1.22	土坑2基、ビット2基
31	朝倉町	2,422.8	ガソリンスタンド建設	H31.2.19	構跡2条、土坑1基。土師器片
32	西大室町	1,976.2	変電所建設	H31.3.5	竪穴住居跡2軒、土坑3基、硬化面。土師器片
33	荒口町	3,100.0	老人ホーム建設	H31.3.8	竪穴住居跡3軒。土師器片
34	元総社町	1,500.0	土地区画整理	H31.3.12	竪穴住居跡6軒、溝跡5条、周溝墓1基、道路状遺構1条、土坑3基、ビット1基、性格不明遺構1。土師器片、須恵器片
35	総社町植野	75.0	道路改良	H31.3.14	埋蔵文化財検出なし

①平成30年度上野国府等範囲内容確認調査

調査地 前橋市元総社町2394ほか

調査期間 2018.5.14～2018.12.27

調査面積 736 m²

調査担当 阿久澤智和・村越純子



調査の経緯

上野国府は前橋市元総社町付近に存在していたと推定されているが、その遺構が未発見なために詳細が不明なことから、上野国府の国府および関連施設の検出と解明を目的として、上野国府等範囲内容確認調査を平成23年度から実施している。事業開始当初は5ヵ年計画で実施していたが、5ヵ年目の平成27年度でも目的が達成されないことから、5ヵ年計画を延長し引き続き調査を実施するはこびとなった。平成30年度は第2次5ヵ年の3年次に当たる。

調査目的

平成30年度調査は、①元総社小学校およびその西方における国府関連遺構の確認（55～60トレンチ）、②上野国分尼寺の範囲確認（61a・bトレンチ）を実施した。

調査成果

① 元総社小学校およびその西方における国府関連遺構の確認（55～60トレンチ）

元総社小学校校庭での調査では、昨年度調査で検出された柱穴列と溝跡に連続する遺構の確認を目的として、平成29年度調査のトレンチの南隣接

地（56トレンチ）と、南へ16m（57トレンチ）、さらに南へ16m（58トレンチ）の地点でトレンチを設定し調査を実施した。56トレンチでは柱穴と考えられるピットが2基検出されたが、その位置関係から、昨年度調査で検出された柱穴列との連続性を認めるることは難しい。また、昨年度検出された南北に走る連続した4条の溝跡については、56トレンチでそのうちの3条の延伸と考えられる溝跡が検出されたが、走行や長さに統一的な規則性が認められなかった。そのうちの1条については走行が正方位ではなく東へ18度傾いた状態で検出され、溝跡の覆土上位や溝跡の両側約1mの範囲は帶状に硬化面が認められることから、溝跡の上位付近は道路として使用されたと推定される。この硬化面の走行は東へ10度の傾きをもつ。



56トレンチ全景（東から）

なお、58トレンチでも小規模ながらほぼ東西方向の溝跡が検出された。溝規模は確認面での上幅

は0.8m、深さ0.3mを測り、東へ緩やかに傾斜している。溝跡はトレント内で10世紀代と推定される住居跡に壊されていることから、その時点で溝は廃絶していたと考えられる。

元総社小西方においては、調査可能だった①元総社小学校の立地する台地と深い谷をはさんで西側の台地（55トレント）と、②元総社小学校より西へ約400mの地点（59・60トレント）で調査を行った。55トレントは、広い範囲で擾乱の影響を受けており、検出された遺構も中世以後の建物跡・井戸跡・土坑・ピット等で古代まで遡る遺構は検出されなかつた。遺物も古代の遺物は、中世の井戸跡から古代の瓦や6世紀代の土師器片が数点出土した程度であった。59・60トレントは、平成29年度調査の54トレントを挟むように北西に59トレント、北東から東にかけて60トレントを設定した。59トレントでは、54トレントの西端で検出された3条の溝跡を再調査した。その結果、2号・3号溝跡は覆土や出土遺物から中世に属する可能性が高くなつた。1号溝跡については59トレント内で南西方向へ90度曲がつた。1号溝跡の遺物は少ないため詳しい時期の判断は難しいが、この溝は何らかの区画溝と推定される。なお、東へ80度傾く道路跡と推定される深い掘り込みも検出された。60トレントで検出された中世以前の遺構としては、住居跡10世紀から11世紀にかけての住居跡、道路跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、ピットが挙げられる。特に掘立柱建物は柱穴の数から複数棟存在したことが考えられ、平成30年度現在で4棟分の存在を推定している。そのほかに、調査区内で方形に組むことができない柱列が2群存在する。その他に土坑やピットが多数検出されているが、それらの中に柱穴と推定されるものも存在することから、今後、掘立柱建物が増える可能性がある。

掘立柱建物については、一番先行する2号掘立柱建物のみが斜方位であるが、それ以外は若干のぶれはあるものの正方位に近い。一番新しい7号掘立柱建物跡（柱列）は柱穴から出土した遺物から

10世紀代の遺物が出土している。また、6号掘立柱建物跡（柱列）は柱痕の覆土に炭化物が多く含まれ、7号掘立柱建物跡は柱穴の土に炭化物が多く含まれていた。土に炭化物や灰が多く含まれていた例はいくつかのピットでも認められる（昨年度調査の1号掘立柱建物跡の柱穴としたものなど）ほか、4号井戸跡も覆土上位付近で認められた。しかし、住居跡の覆土に炭化物や炭が多く含まれるような事象は認められなかつた。



60 トレント掘立柱建物跡検出状態（西から）

上野国分尼寺の範囲確認（61a・bトレント）

高崎市教育委員会が平成28年度から実施している上野国分尼寺の範囲内容確認調査に関連して、寺域南限の溝跡の再確認（平成11年度に前橋市教育委員会の調査で検出）のために、溝跡の存在が想定される位置2か所（61a・61bトレント）で調査を実施した。

両トレントとも古代の溝跡の北側の法面が検出された。今回検出された溝は、ほぼ東西方向に走るが、北から西へ約2°傾く。断面は逆台形で、遺構確認面（IV層：浅間C軽石混入黒色土層上面）からの深さは1.1mを測る。平成11年度調査の成果も総合して推測すると、溝の上幅は6m程度と推定される。溝の覆土は砂質で、特に覆土中位以下は締まりのない砂質土が堆積し遺物は出土しなかつた。なお、出土遺物は、溝の覆土上位付近で瓦の破片が数10点出土したのみである。

②平成 30 年度 上細井中西部遺跡群発掘調査概報

- 1 本概報は、群馬県中部農業事務所が計画した（農山）県営農地整備事業（畑地帯担い手育成型）上細井地区（以下「上細井中西部地区土地改良事業」という。）に伴い実施した平成 30 年度発掘調査に係る概要報告である。
- 2 上細井中西部地区土地改良事業は、平成 30 年度から 5か年計画で施工され、埋蔵文化財発掘調査も当該事業と並行して実施される。
- 3 平成 30 年度工区（A 工区）内での発掘調査について
遺跡名：上細井中西部遺跡群 No.1（かみほそいちゅうせいぶいせきぐんなんぱーいち）
遺跡略記号：30B19
調査区所在地（10 調査区）：

・1 区	前橋市上細井町 1077 他	（調査対象面積：2,413 m ² ）
・2 区	前橋市上細井町 1082-1 他	（調査対象面積： 908 m ² ）
・3 区	前橋市上細井町 986 他	（調査対象面積：2,109 m ² ）
・4 区	前橋市上細井町 938 他	（調査対象面積：1,720 m ² ）
・5 区	前橋市上細井町 959 他	（調査対象面積：1,141 m ² ）
・6 区	前橋市上細井町 915-1	（調査対象面積： 483 m ² ）
・7 区	前橋市上細井町 748-1 他	（調査対象面積：1,047 m ² ）
・8 区	前橋市上細井町 749-1 他	（調査対象面積： 172 m ² ）
・9 区	前橋市上細井町 719-1 他	（調査対象面積：1,121 m ² ）
・10 区	前橋市上細井町 733-1 他	（調査対象面積：1,673 m ² ）
	合	計：12,787 m ²

*なお、6 区及び 8 区については近接地試掘調査結果等などから、調査不要と判断した。

- 4 平成 31 年度工区（B 工区）内での先行発掘調査について
平成 31 年度工区の発掘調査対象面積が広大であることから、当該工区内で発掘調査可能な個所を先行して実施した。ただし、本年度の発掘調査で得た遺構記録、出土遺物等の成果については、平成 31 年度発掘調査成果と合わせて整理を行う。なお、遺跡名称、遺跡略記号、各調査区の所在地については、以下のとおり。

遺跡名：上細井中西部遺跡群 No.2（かみほそいちゅうせいぶいせきぐんなんぱーい）

遺跡略記号：31B21

調査区所在地（3 調査区）：

・1 区	前橋市上細井町 1677 他	（調査対象面積：1,831 m ² ）
・2 区	前橋市上細井町 1673 他	（調査対象面積：3,366 m ² ）
・3 区	前橋市上細井町 1690 他	（調査対象面積：1,424 m ² ）
	合	計：6,621 m ²

5 発掘調査及び資料整理は、前橋市長と群馬県中部農業事務所長との間で、埋蔵文化財発掘調査に係る業務委託契約を締結し実施した。なお、発掘調査経費のうち農家負担分については、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（国庫補助）、群馬県文化財保存事業費補助金並びに市費により実施した。

6 調査体制

前橋市教育委員会事務局 文化財保護課 埋蔵文化財係

7 調査期間及び担当者

（1）平成30年度工区（A工区）

- 1区：平成30年7月23日～平成30年10月31日（担当者：小峰・松村）
- 2区：平成30年5月18日～平成30年10月10日（担当者：小峰・松村）
- 3区：平成30年5月24日～平成30年10月31日（担当者：小峰・松村）
- 4区：平成30年5月28日～平成30年9月20日（担当者：小峰・松村）
- 5区：平成30年5月14日～平成30年6月14日（担当者：小峰・松村）
- 7区：平成30年10月3日～平成30年10月12日（担当者：小峰・松村）
- 9区：平成30年10月1日～平成30年10月5日（担当者：小峰・松村）
- 10区：平成30年8月20日～平成30年10月17日（担当者：小峰・松村）

（2）平成31年度工区（B工区）

- 1区：平成30年10月30日～平成31年1月31日（担当者：小峰・松村）
- 2区：平成30年11月26日～平成31年1月31日（担当者：小峰・松村）
- 3区：平成31年2月4日～平成31年2月28日（担当者：小峰・松村）

8 発掘調査の各種記録、出土遺物は、前橋市教育委員会が保管している。

9 凡例

遺構及び遺構施設の略称は、次のとおり。

- | | | | |
|----------------------|----------------|-----------|--------|
| H : 古墳、奈良、平安時代の竪穴住居跡 | J : 繩文時代の竪穴住居跡 | | |
| T : 竪穴状遺構 | B : 掘立柱建物跡 | I : 井戸跡 | W : 溝跡 |
| D : 古墳、奈良、平安時代の土坑 | J D : 繩文時代の土坑 | | |
| M : 古墳 | P : ピット、貯蔵穴 | A : 道路状遺構 | S : 集石 |
| O : 風倒木跡（落ち込み等） | N : 粘土採掘坑 | X : その他 | |

本文・図面で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いた。

- A s - B : 浅間B軽石（供給火山：浅間山 1108年）
- H r - F A : 棚名ニツ岳渋川テフラ（供給火山：棚名山 5世紀末～6世紀初頭）
- A s - C : 浅間C軽石（供給火山：浅間山 3世紀後葉）

I 調査の経緯と経過

平成 27 年 6 月、群馬県中部農業事務所、前橋市（農村整備課）、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）で上細井中西部地区土地改良事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて協議を開始した。その後、平成 28 年度では発掘調査主体、調査方法、調査計画、調査経費等について協議を重ね、発掘調査主体は土地改良事業の受益地である地元自治体が行うことで合意に至り、市教委直営による発掘調査で対応することとなった。

上細井中西部土地改良事業は、平成 30 年度から平成 34 年度の 5 か年計画で施工される。埋蔵文化財発掘調査は当該事業と並行して実施することから、調査期間は各年度とも上半期となる。

市教委では、平成 29 年度下半期に、平成 30 年度工区を対象とした試掘・確認調査を実施した。群馬県中部農業事務所と市教委で試掘・確認調査結果と土地改良事業に伴う造成工事計画を基に、平成 30 年度工区内の発掘調査対象地の協議を行い、10 か所の調査区を設定した。県道前橋赤城線以西を 1 ~ 5 区、以東は 6 ~ 10 区とした。

平成 30 年 4 月、群馬県中部農業事務所長との平成 30 年度埋蔵文化財発掘調査業務委託契約締結に向けた手続きに着手し、4 月 27 日付けで契約締結となった。その後、現場事務所設置、発掘調査作業員任用、土木機械手配等の準備を進め、同年 5 月 14 日に現場での表土掘削作業を開始した。当該年度は、空梅雨だったこともあり、現場作業は概ね予定どおり進んだが、近年稀にみる酷暑で発掘調査作業員には大変ご苦労いただき平成 30 年度工区内での発掘調査は、10 月 31 日をもって全て終了した。また、平成 30 年度工区内の発掘調査成果については、現地説明会（9 月 23 日）を開催し、部分的ではあるが地域への還元ができた。（別添現地説明会資料を参照）

このほか、群馬県中部農業事務所との平成 31 年度工区内発掘調査対象選定に係る協議において、対象面積増大が見込まれることから、調査実施可能箇所を一部先行して発掘調査することとなった。これを受け、11 月 1 日から翌年 2 月 28 日まで平成 31 年度工区内において 3 調査区の発掘調査を行った。

平成 30 年度発掘調査成果の整理作業実施には至らなかったが、当該年度中に出土した遺物の洗浄作業及び注記作業、遺構毎の仕分整理までおこなった。出土遺物の接合・復元、実測作業、遺物写真撮影等の整理作業は、平成 31 年度以降に実施予定である。

II 遺跡の地理的・歴史的環境

群馬県の中央部にある前橋市は、北に赤城山、西は榛名山に囲まれ、南には関東平野が広がる。地形や地質の特徴から、「赤城南麓斜面」、「広瀬川低地帯」、「前橋台地」に分けられる。上細井中西部遺跡群 No.1 が所在する前橋市上細井町は、赤城南麓斜面に位置する。この赤城南麓斜面には、赤城白川、藤沢川、荒砥川、柏川などの河川が流下し、丘陵性地形を侵食することで、南北に長い起伏のある丘陵性台地を形成している。また、こうした河川や台地端部での湧水の影響で、枝状の開析が進み台地と谷地が複雑に入り

組む地形となっている。赤城南麓斜面の末端部は、高さ 10m程度の山麓崖となり旧利根川が形成した「広瀬川低地帯」に接する。

上細井中西部遺跡群No.1の所在する赤城南麓斜面には、一般国道 17 号線の渋滞混雑緩和のために計画された大規模バイパス道（上武道路）が建設された。当該工事に伴い埋蔵文化財発掘調査も数多く行われ、様々な時代の遺構や遺物が見つかっている。赤城南麓斜面地域には、古くは約 3 万年前の旧石器時代に始まり、縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代・中世に至る多くの遺跡が残っている。

平成 30 年度上細井中西部遺跡群No.1の周辺では、王久保遺跡、上町・時沢西紺屋谷戸遺跡、山王・柴遺跡群などがある。

III 遺跡の概要

- 1 平成 30 年度工区（調査面積合計 7,266 m²）
 - (1) 縄文時代：前期の遺物を伴う堅穴住居跡、縄文時代包含層、土坑
 - (2) 古墳時代：6～7 世紀代の堅穴住居跡
 - (3) 奈良・平安時代：8～11 世紀代の堅穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、道路状遺構、土坑、ピット
- 2 平成 31 年度工区（調査面積合計 3,334 m²）
 - (1) 縄文時代：前期の遺物を伴う堅穴住居跡、土坑
 - (2) 古墳時代：6 世紀代の堅穴住居跡
 - (3) 奈良・平安時代：8～9 世紀代の堅穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、ピット

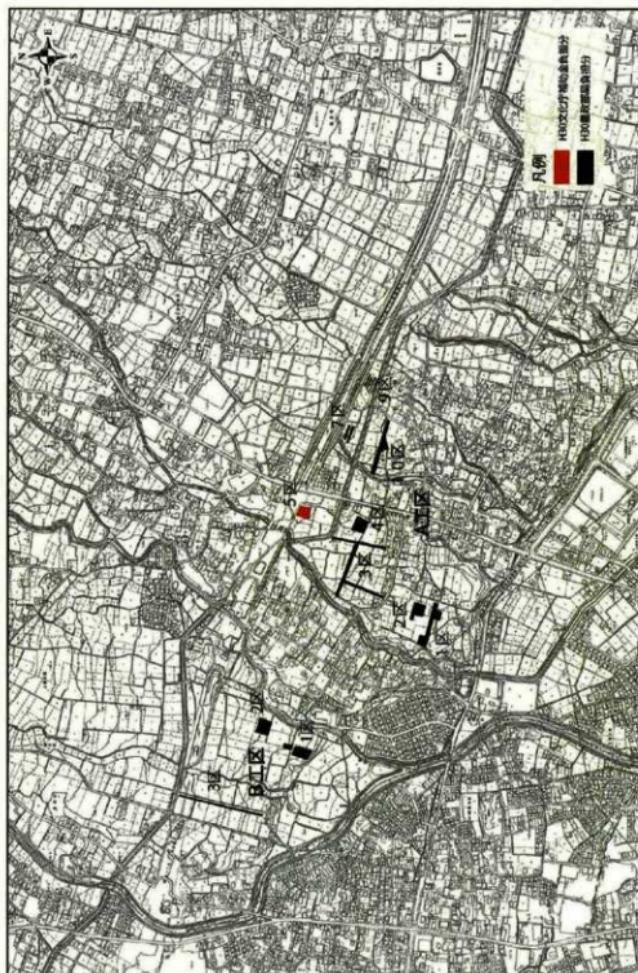
IV 調査の成果

平成 30 年度工区、平成 31 年度工区とともに、縄文時代から奈良・平安時代にかけての堅穴住居跡を中心とする集落跡を検出した。縄文時代では、前期の遺物を伴う堅穴住居跡が主体で、深鉢片、浅鉢片の他に石鏃、石匙、敲石、多孔石などの石製品が出土している。古墳時代では 6 世紀後半の特徴を有する土師器壺を伴う堅穴住居跡により集落が形成されていた。奈良時代の堅穴住居跡は、比較的規模の大きい住居が多くかった。覆土の堆積状況から、人為的に埋められた住居も数軒確認できた。さらに、土師器甕、土師器壺、須恵器大甕、石製紡錘車、長頸壺、短頸壺、砥石など当時の生活が垣間見えるような出土品を多く伴った焼失住居 2 軒を検出した。床面には炭化した建材も確認できた。

本年度の発掘調査成果の整理は、平成 31 年度以降となるため明確な判断はできないが、堅穴住居跡の検出場所を概観すると、時代によって集落エリアが変遷している様子が窺える。

V 各調査区の概要

【調査区位置図】



上総井中西部地区道路構造調査 調査区位置図

1 平成 30 年度工区（A 工区）

(1) 1 区

所 在 地 前橋市上細井町 1077 他

調査期間 平成 30 年 7 月 23 日～平成 30 年 10 月 31 日

調査面積 1,221 m²

調査概要 古墳時代～奈良・平安時代の堅穴住居跡 20 軒、古代溝跡 1 条、集石遺構 1 基を検出した。調査区は、現道を跨ぐように数か所に亘り中央から東の範囲に遺構が集中していた。長軸 4 ～ 5 m、短軸 3 ～ 4 m 程度の概ね方形でやや規模の大きい住居跡が目立つ。調査区西端では、円礎が集中的に分布する範囲があり、また当該集石に沿うように 1 号溝を検出した。集石が葺石の基礎部分だったと仮定すると、1 号溝が周堀の可能性も考えられる。当該遺構の南には、南橘村第 14 号墳（狐塚古墳：上毛古墳総覧）がある。



1 区調査区全景（上が北）

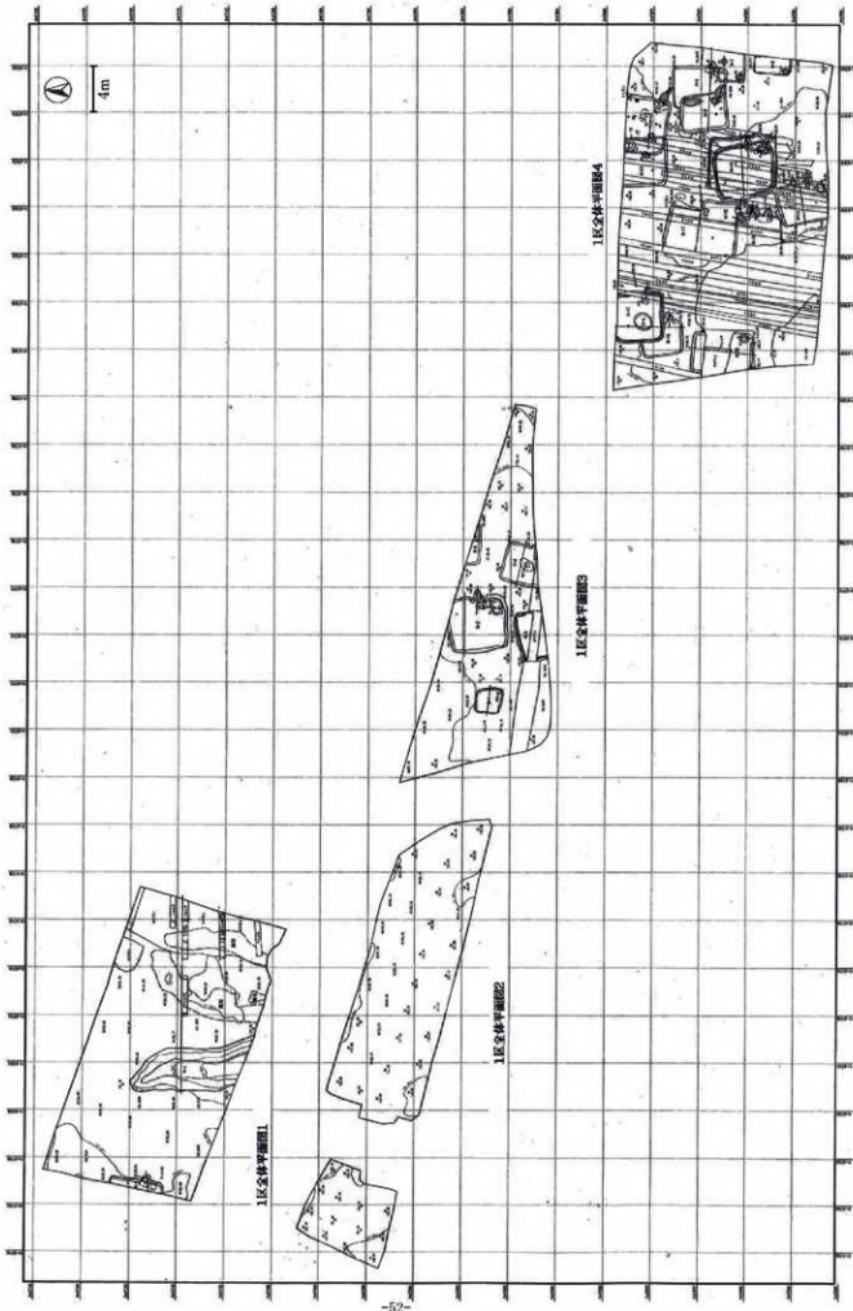


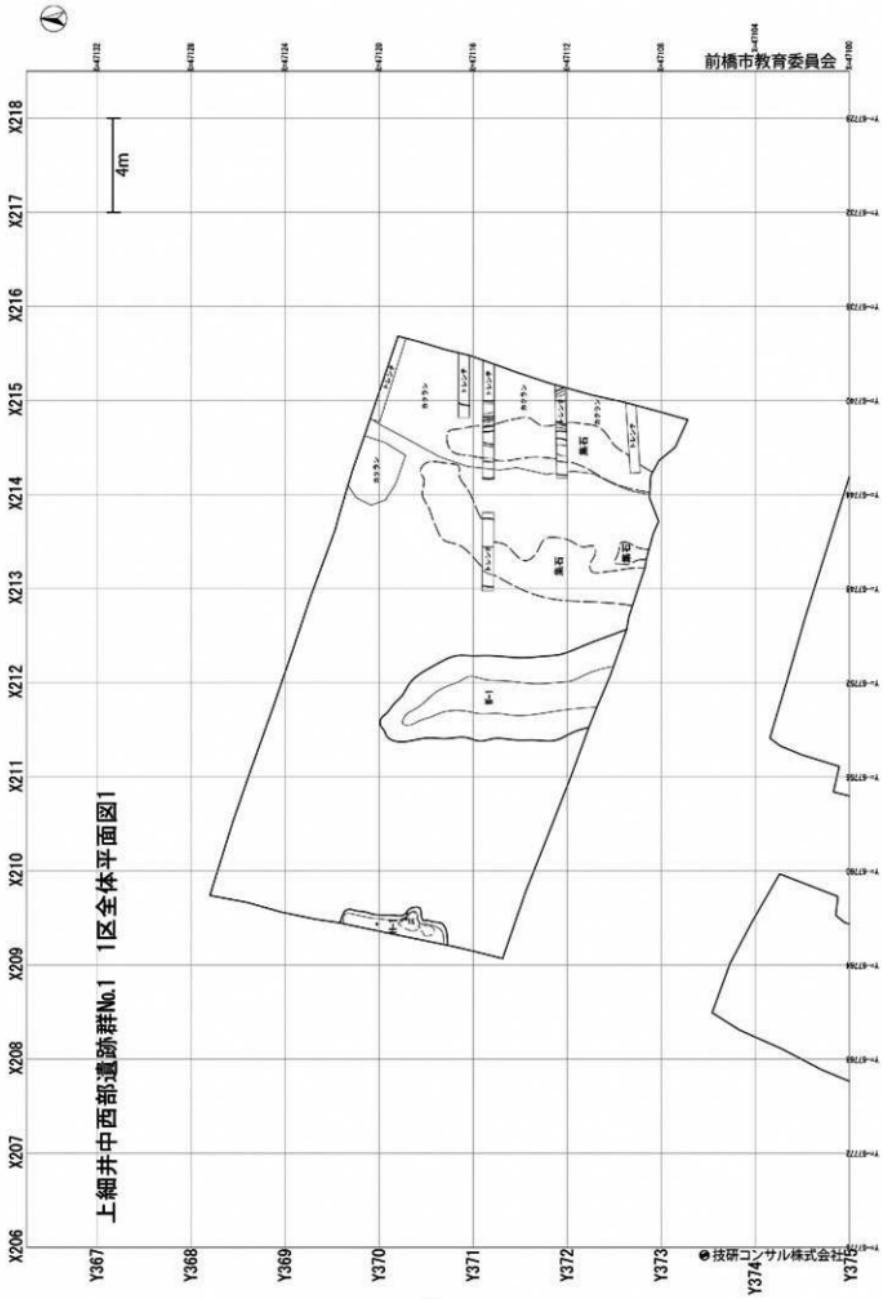
2 号住居跡全景（西から）

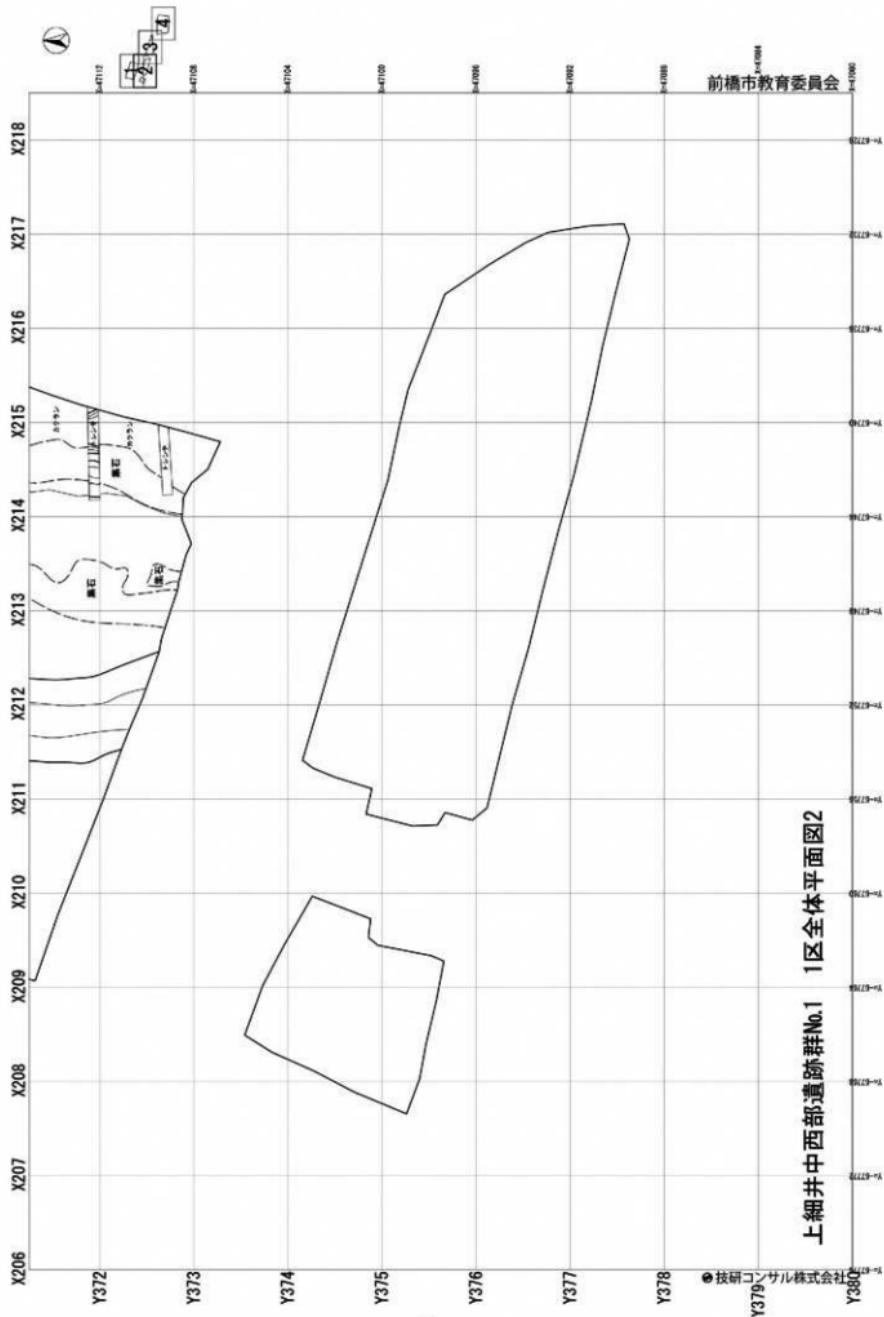


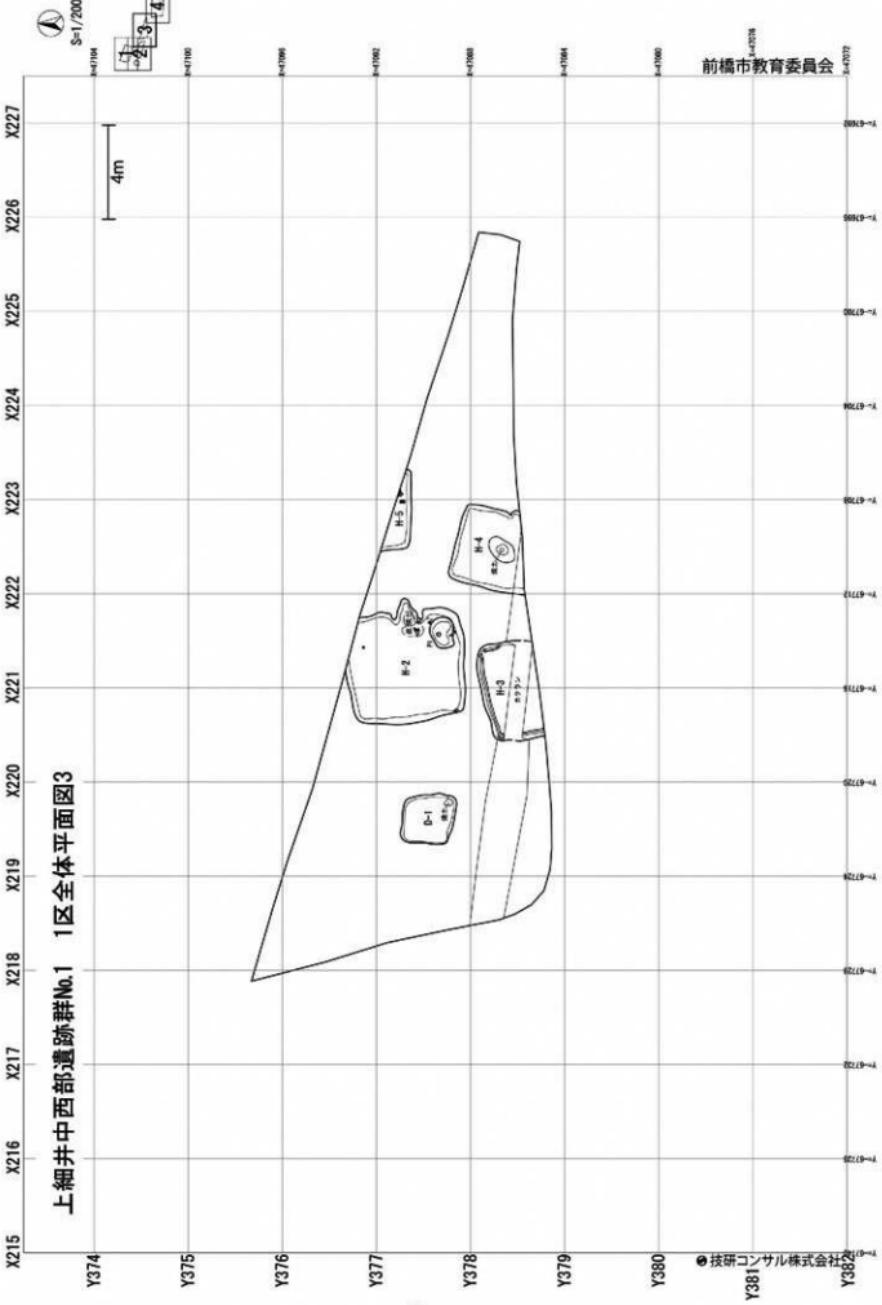
2 号住居跡出土の埋甕

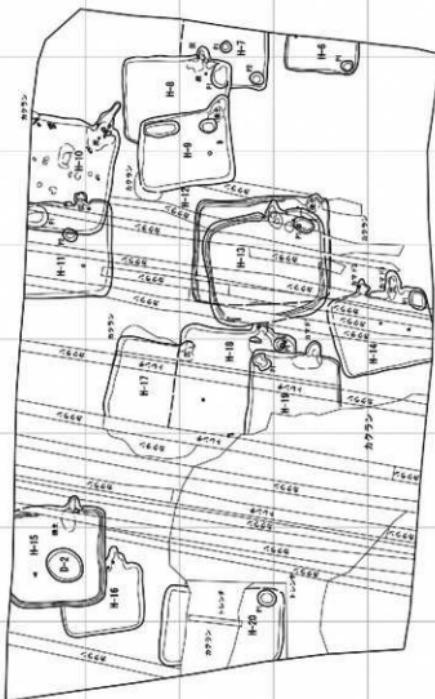
上蛇片中西街基础断面图No. 1 1-1











上細井中西部遺跡群No.1 1区全体平面図4

X224 X225 X226 X227 X228 X229 X230 X231 X232 X233 X234 X235 X236

Y379

Y380

Y381

Y382

Y383

Y384

Y385

Y386

4m

Ⓐ

(2) 2区

所在地 前橋市上細井町 1082-1 他

調査期間 平成 30 年 5 月 18 日～平成 30 年 10 月 10 日

調査面積 730 m²

調査概要 奈良・平安時代堅穴住居跡 18 軒、中世以降の溝跡 2 条、古代の堅穴状造構 2 軒、粘土探掘坑、土坑等を検出した。4 号住居跡では、カマドが良好な状態で検出された。両袖部が残り土師器甕、土師器壺、須恵器壺などの遺物も多く出土した。また、6 号住居跡では、全体的に礫を使用して構築したカマドを検出した。上細井中西部遺跡群 No.1 の他調査区でも石材を利用したカマドは確認されているが、本事案が最も良好に残存していた。

出土遺物で特記すべき点は、本調査区内の土坑から、須恵器の瓦塔片 1 点が出土したことが挙げられる。



上：2区調査区遠景（赤城山を望む）

右：土坑から出土した須恵器の瓦塔片

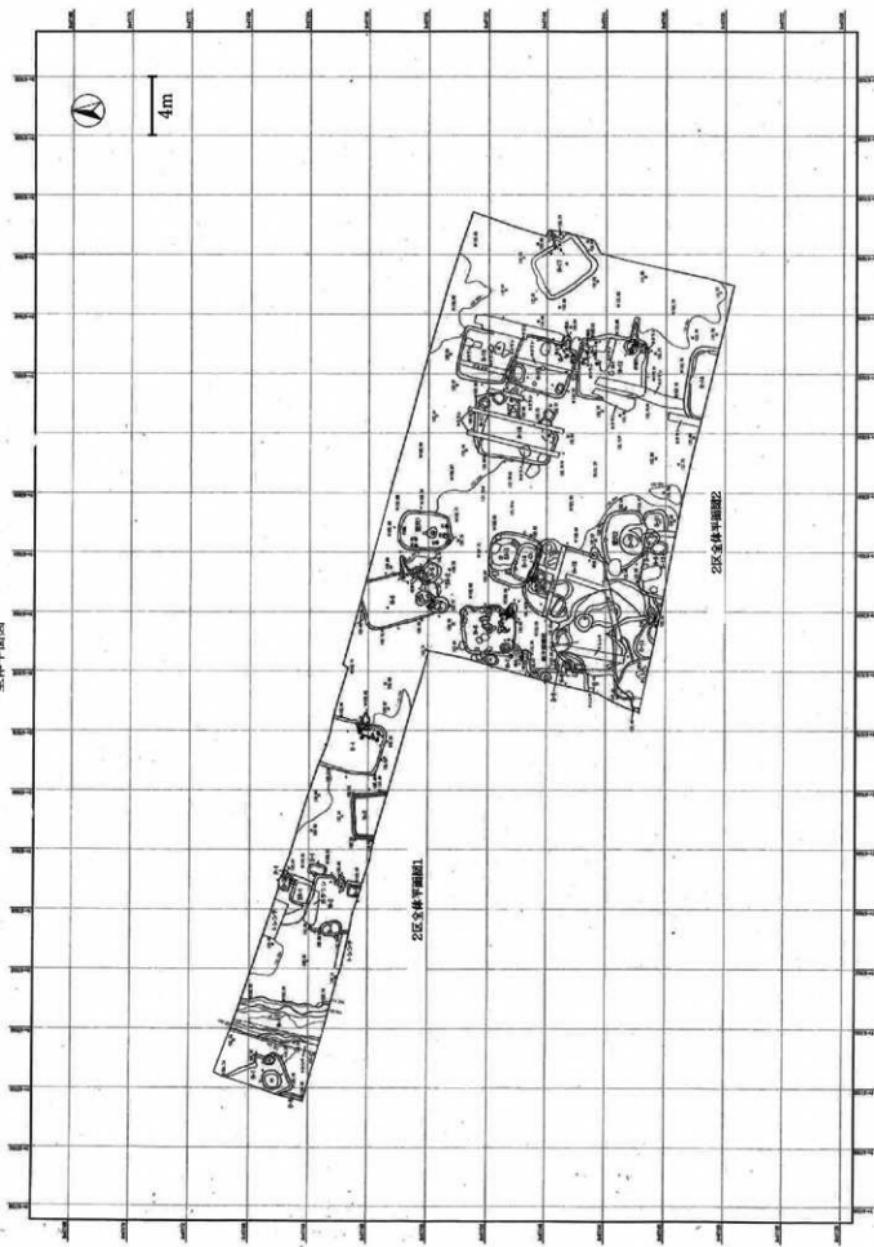


6号住居跡 磚を使用したカマドの様子

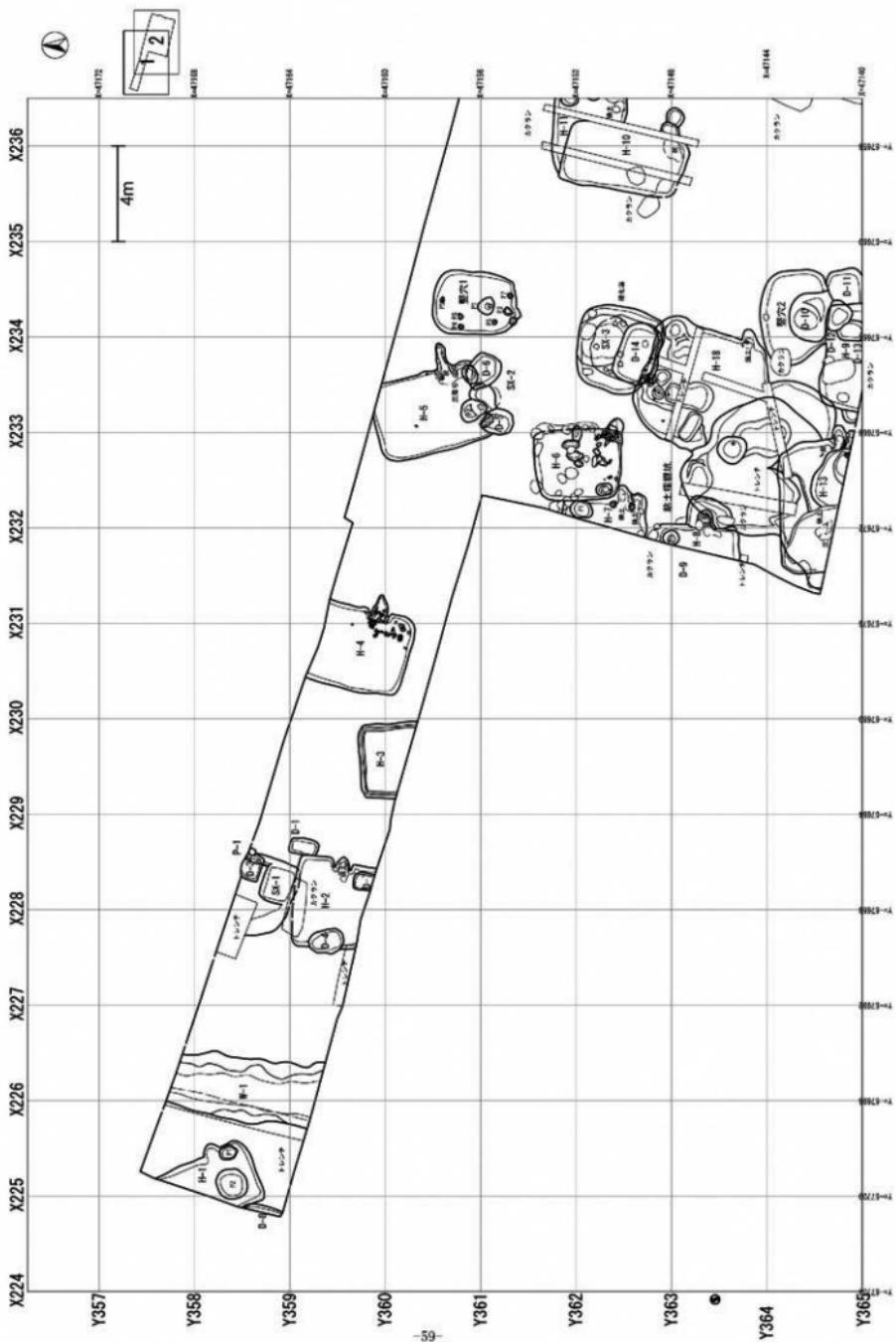


4号住居跡竈全景（西から）

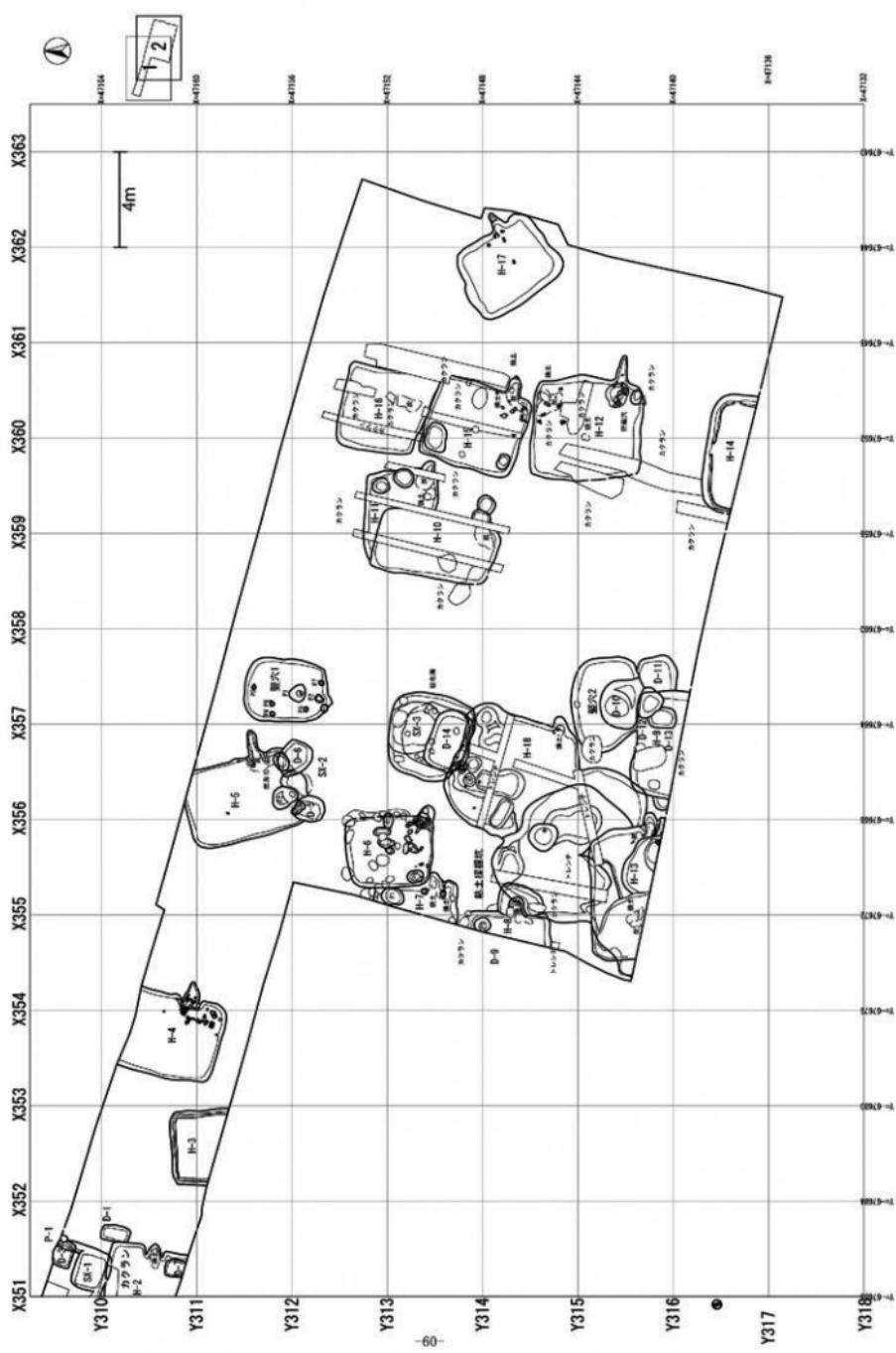
上細井中西部鑿跡群No. 1 2区
全體平面図



上細井中西部遺跡群No.1 2区全体平面図



上細井中西部遺跡群No.1 2区全体平面図2



(3) 3区

所在地 前橋市上細井町 986 他

調査期間 平成 30 年 5 月 24 日～平成 30 年 10 月 31 日

調査面積 1,618 m²

調査概要 縄文時代（前期）竪穴住居 1 軒、古墳時代竪穴住居跡 1 軒、奈良・平安時代竪穴住居跡 42 軒、古代溝跡、粘土探掘坑、井戸跡等を検出した。平成 30 年度工区内で縄文時代（前期）の遺構が検出されたのは 3 区のみである。また、縄文時代の遺物包含層も確認され遺物の出土量も多かった。遺構は東側の調査区と西側の調査区で集中していた。東側の 3-1 区 1 号住居跡は、古墳時代の遺物を伴っており特にカマド内部からは土師器甕や壺がまとまって出土した。西側の 3-3 区では、石材を使用したカマド構築の様子、住居跡内壁際に配石された遺構など、他調査区でも見られる石材使用の特徴が確認できた。調査区外にもまだ多くの住居跡が存在し、集落が形成されていたことが推察できる。



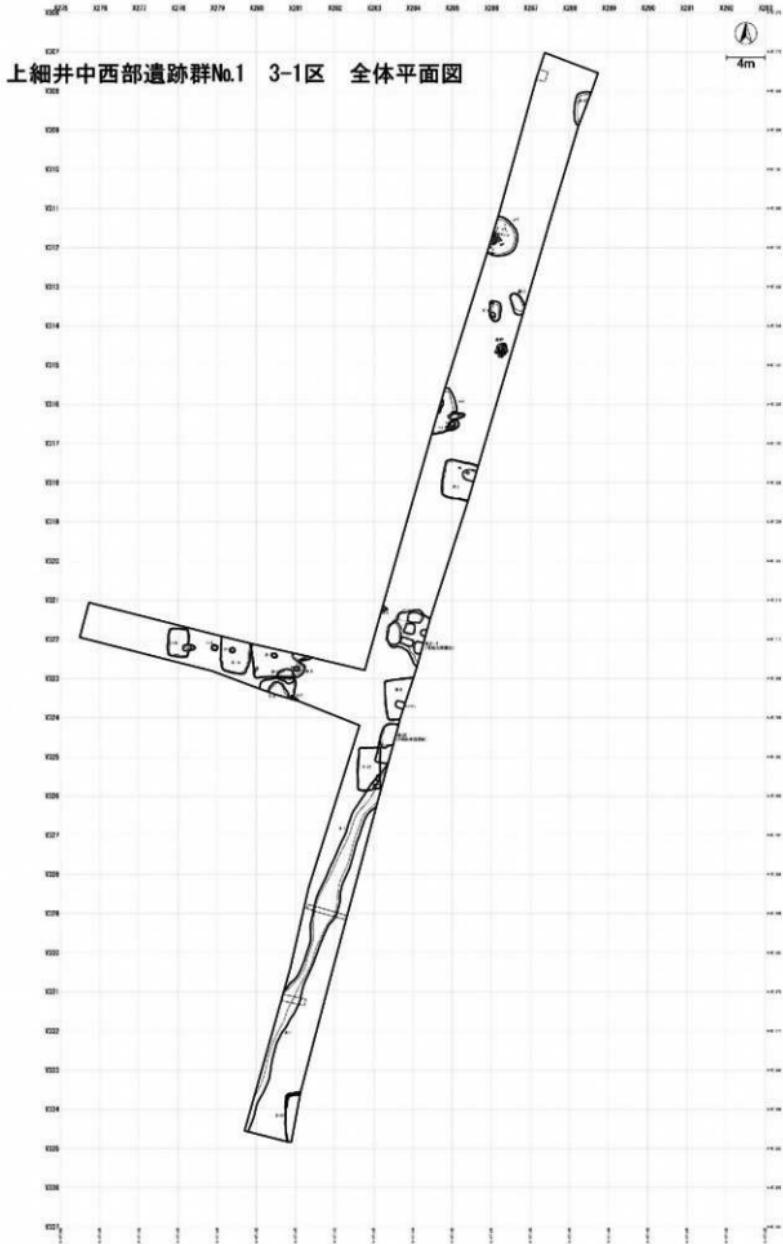
上綱井中西部遺跡群No.1 3區
全體平面圖



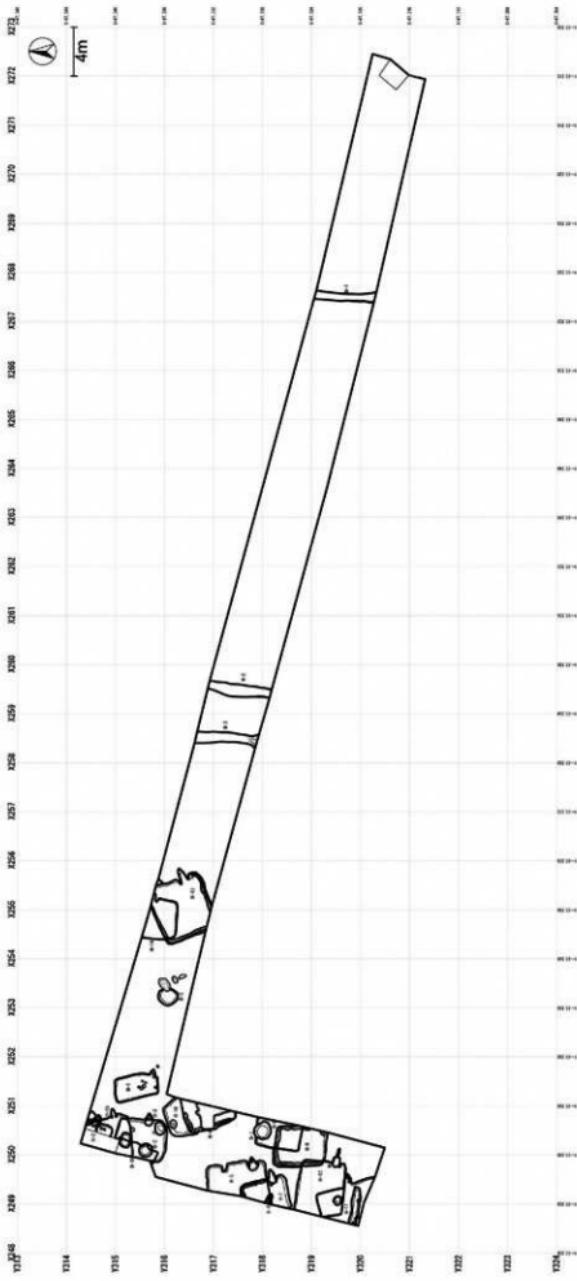
3-25全體平面圖

3-30全體平面圖

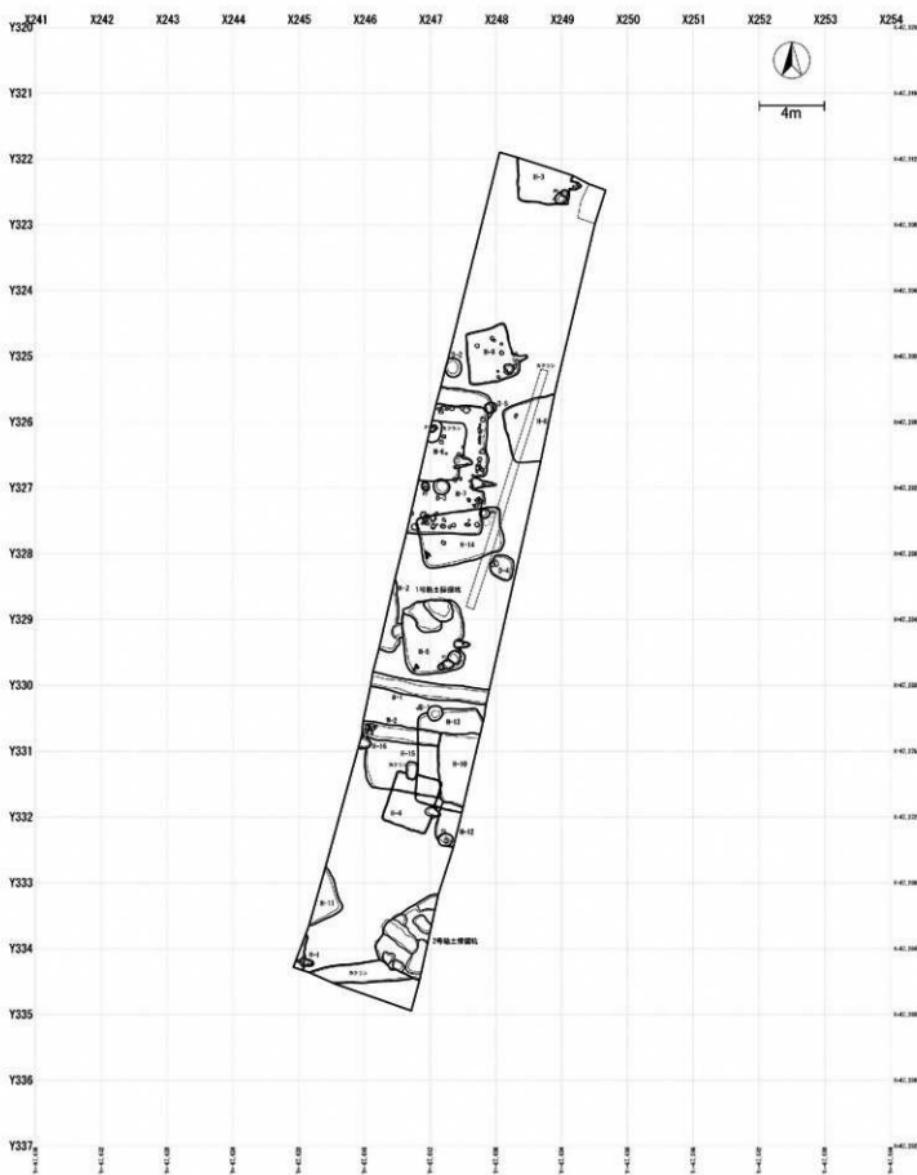
3-15全體平面圖



上細井中西部遺跡群No.1 3-2区全体平面図



上細井中西部遺跡群No.1 3-3区全体平面図



(4) 4区

所在地 前橋市上細井町 938 他

調査期間 平成 30 年 5 月 28 日～平成 30 年 9 月 20 日

調査面積 1,331 m²

調査概要 奈良・平安時代堅穴住居跡 11 軒、掘立柱建物跡 1 棟、古代溝跡 3 条、粘土探掘坑、道路状造構 2 条等を検出した。造構の残存状況は良好であったが、全体的に出土遺物が少ない傾向にある。また、住居跡覆土を観察すると人為的に埋められた痕跡も確認できた。特筆すべき点では、11 号堅穴住居跡と 1 号掘立柱建物跡である。前者は「焼失住居」であることが判明した。炭化した建材の一部やカマド脇の貯蔵穴付近では須恵器の大甕や長頸壺、土師器壺などが纏って出土した。石製の紡錘車も 4 点出土している。出土遺物の多さと変化では際立っている。後者は、11 号住居を切る形で検出された 1 号掘立柱建物跡の柱穴である。隅丸長方形を呈し人ひとり収まる規模のもので、この掘立柱建物が堅牢さを要する施設であったことが想像できる。



4 区全景（写真上が東）

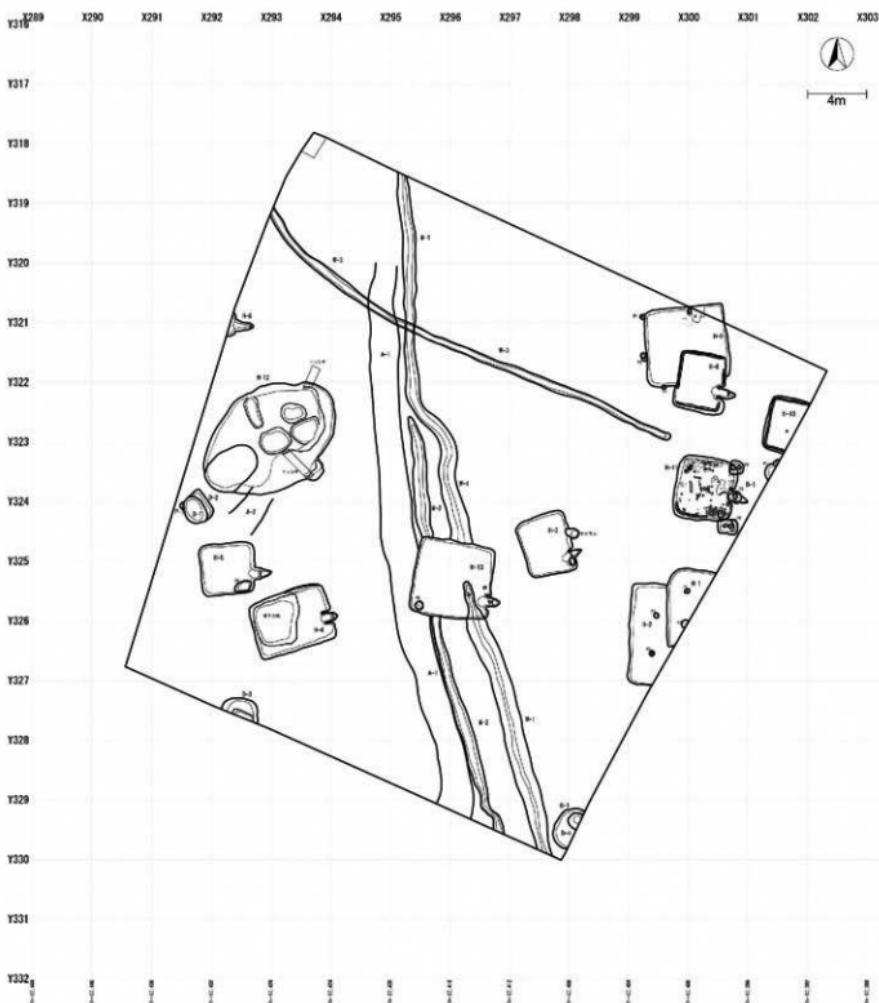


11 号住居跡全景（西から）



11 号住居須恵器出土状況

上細井中西部遺跡群No.1 4区全体平面図



(5) 5区

所在地 前橋市上細井町959他

調査期間 平成30年5月14日～平成30年6月14日

調査面積 942m²

調査概要 奈良・平安時代竪穴住居跡9軒、古代溝跡2条、道路状遺構2条、土坑等を検出した。検出された遺構の大半は、調査区北側に集中する。住居跡はいずれも、東壁南寄り若しくは南東隅にカマドを持つ。カマドは石材を使用して作られており、上細井中西部遺跡群No.1に一貫して見られる特徴である。調査区を北西から南東に直線的に走る溝跡は、覆土などから同一位置に作り替えられた様子が窺える。調査区北に近接する上武国道建設にあたって調査された遺跡でも、竪穴住居跡をはじめとする多くの遺構が検出されていることから、集落が営まれていたものと思われる。



5区全景（上が西）

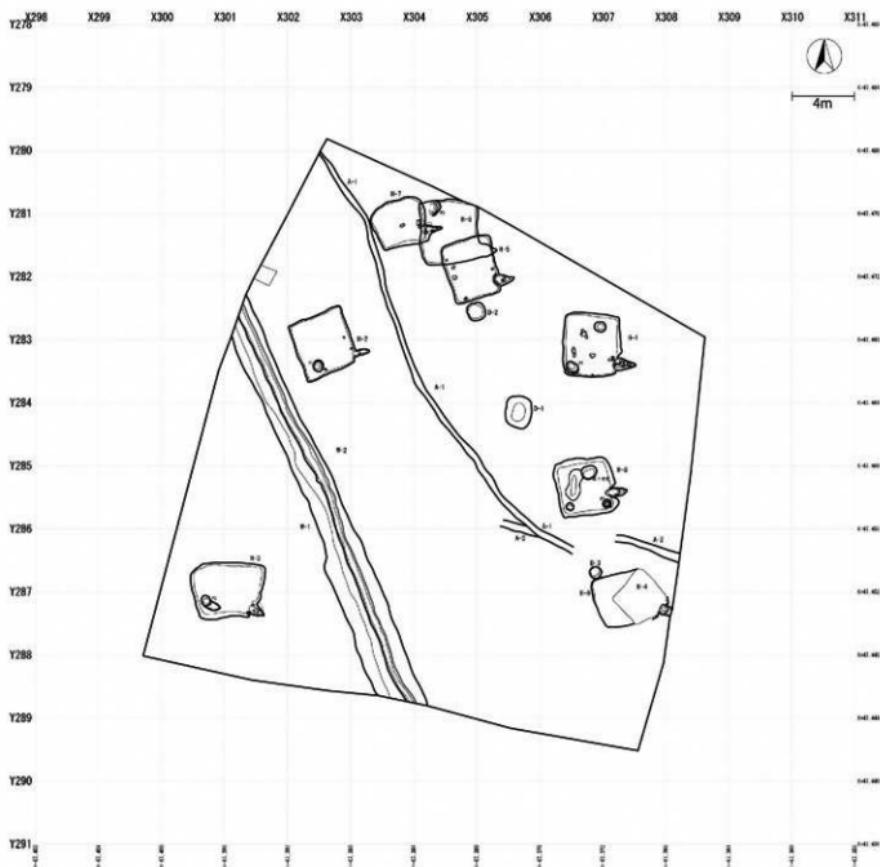


1号住居跡全景（西から）



1号溝跡・2号溝跡（上武国道を望む）

上細井中西部遺跡群No.1 5区全体平面図



(6) 7区

所在地 前橋市上細井町748-1他

調査期間 平成30年10月3日～平成30年10月12日

調査面積 148 m²

調査概要 調査対象地内でトレンチ状に重機掘削し、遺構の認められた範囲を拡張する方法で調査を行った。調査の結果、平安時代の堅穴住居跡3軒、土坑5基を検出した。調査区の地形は、西に南流する沢に向かって緩やかに傾斜する。遺構は、中央から東にかけての範囲で検出された。

1号住居跡は約3m四方の方形で小規模なものであった。出土遺物は、全体的にやや少なかったが、鉄製紡錘車1点が出土している。



7区全景（東から）



7区出土の鉄製紡錘車

(7) 9区

所在地 前橋市上細井町719-1他

調査期間 平成30年10月1日～平成30年10月5日

調査面積 126 m²

調査概要 調査区内に4本トレンチを重機で掘削し精査を行った。部分的に旧河道と思われる範囲を確認したのみで、遺構・遺物とともに検出されなかった。

旧河道と思われる範囲は、礫を多く含む砂質土で湧水も認められた。周辺の地形を見ると、旧河道の延長線上は周辺と比較し一段低い地形である

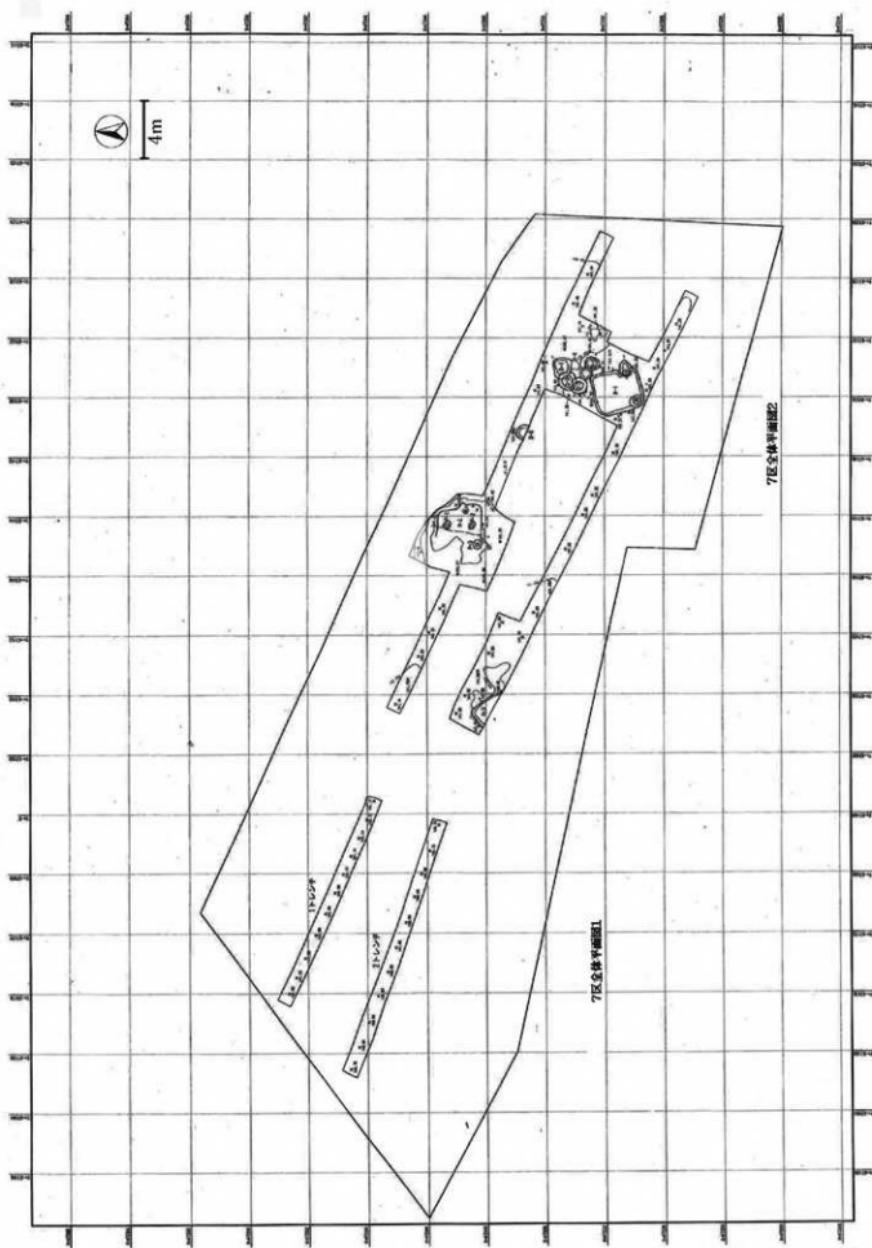


9区1号トレンチ全景（東から）

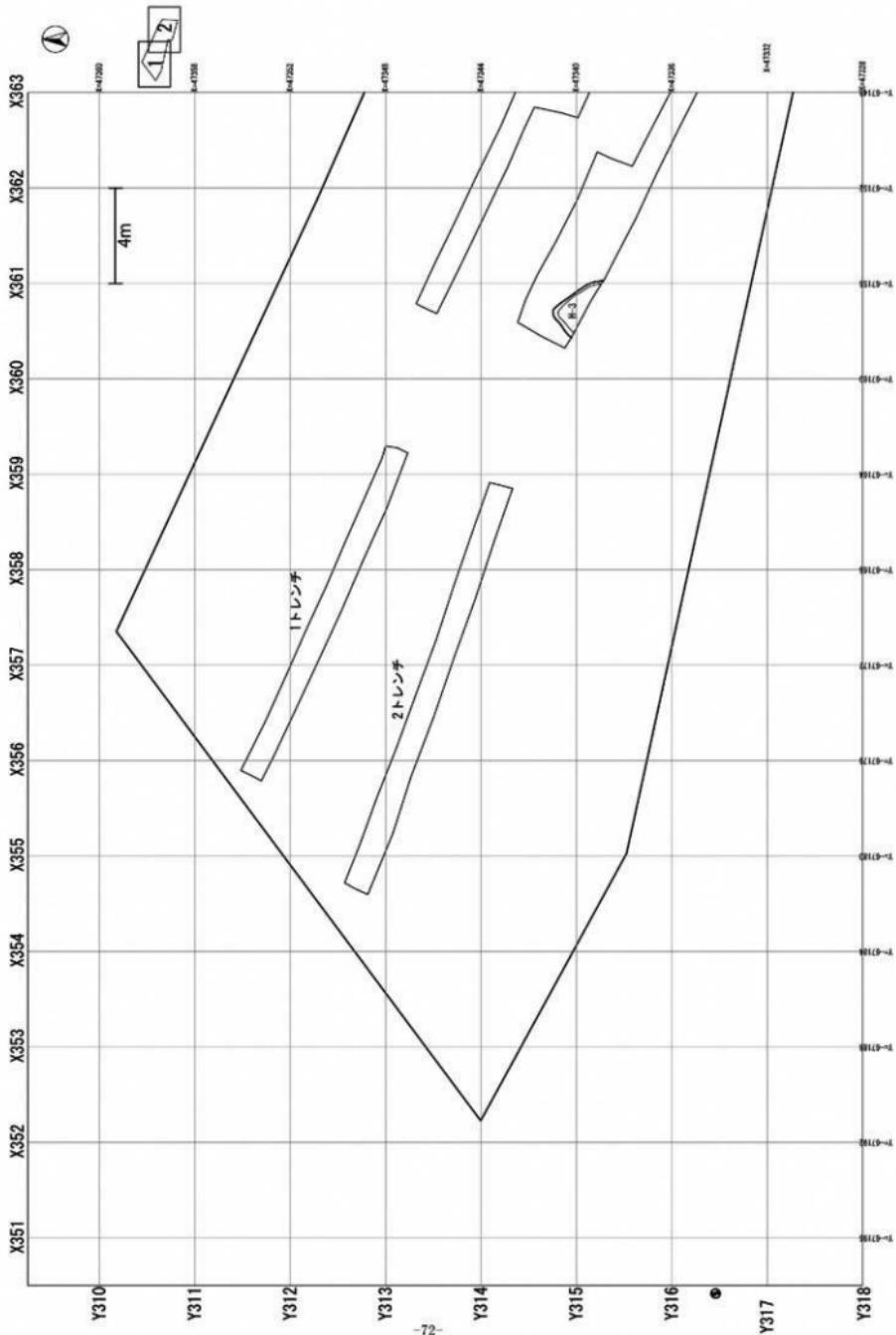


9区トレンチ内での作業風景

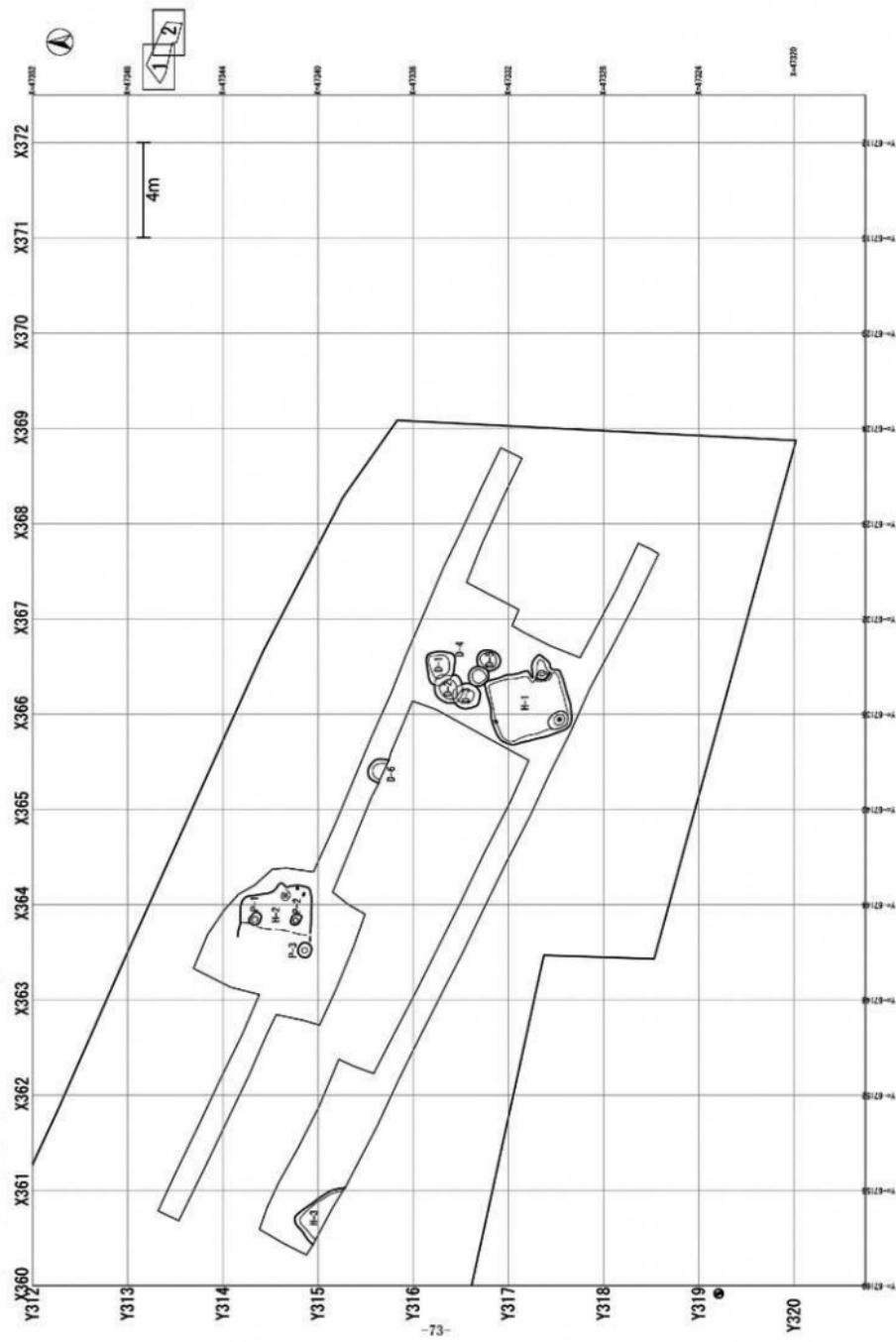
上细井中西部遗存群No. 1 7区
全体平面图



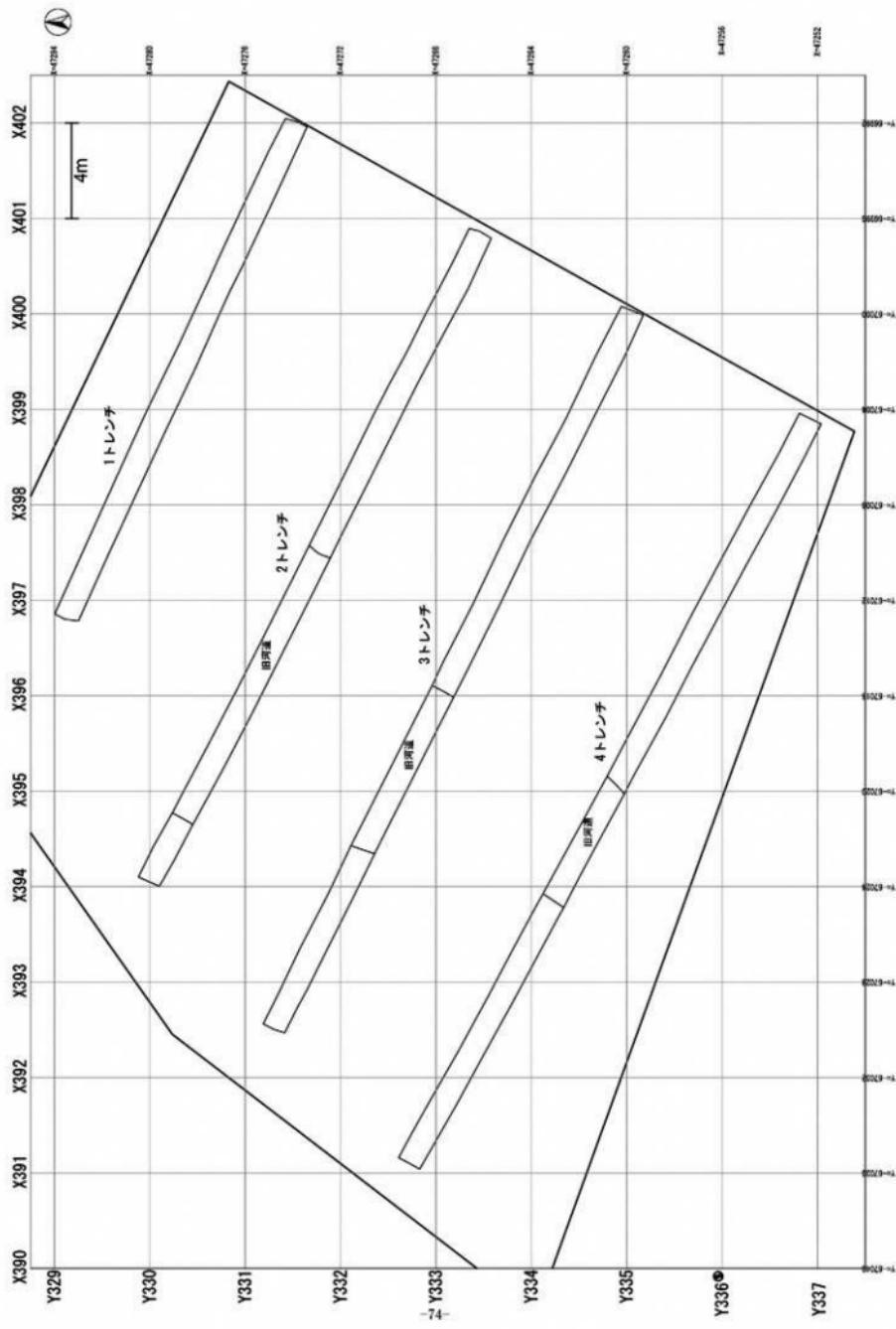
上細井中西部遺跡群No.1 7区全体平面図



上細井中西部遺跡群No.1 7区全体平面図



上細井中西部遺跡群No.1 9区全体平面図



(8) 10 区

所在地 前橋市上細井町 733-1 他

調査期間 平成 30 年 8 月 20 日～平成 30 年 10 月 17 日

調査面積 1,150 m²

調査概要 古墳時代～奈良・平安時代堅穴住居跡 7 軒、土坑 7 基、ピット多数を検出した。住居跡等の遺構は調査区中央部に集中している。出土遺物は比較的多い。検出した住居跡からは、6世紀後半の特徴を有する土師器壺を伴うことが多く、当該調査区一帯は古墳時代後期の集落跡の様相を呈している。住居跡の規模も大きく、南北方向の長方形を呈すものが多い。3号住居跡で検出した貯蔵穴は残りが良く、貯蔵穴の周囲に粘土で土手のような作りが認められ、生活するまでの古代人の工夫が垣間見えた。



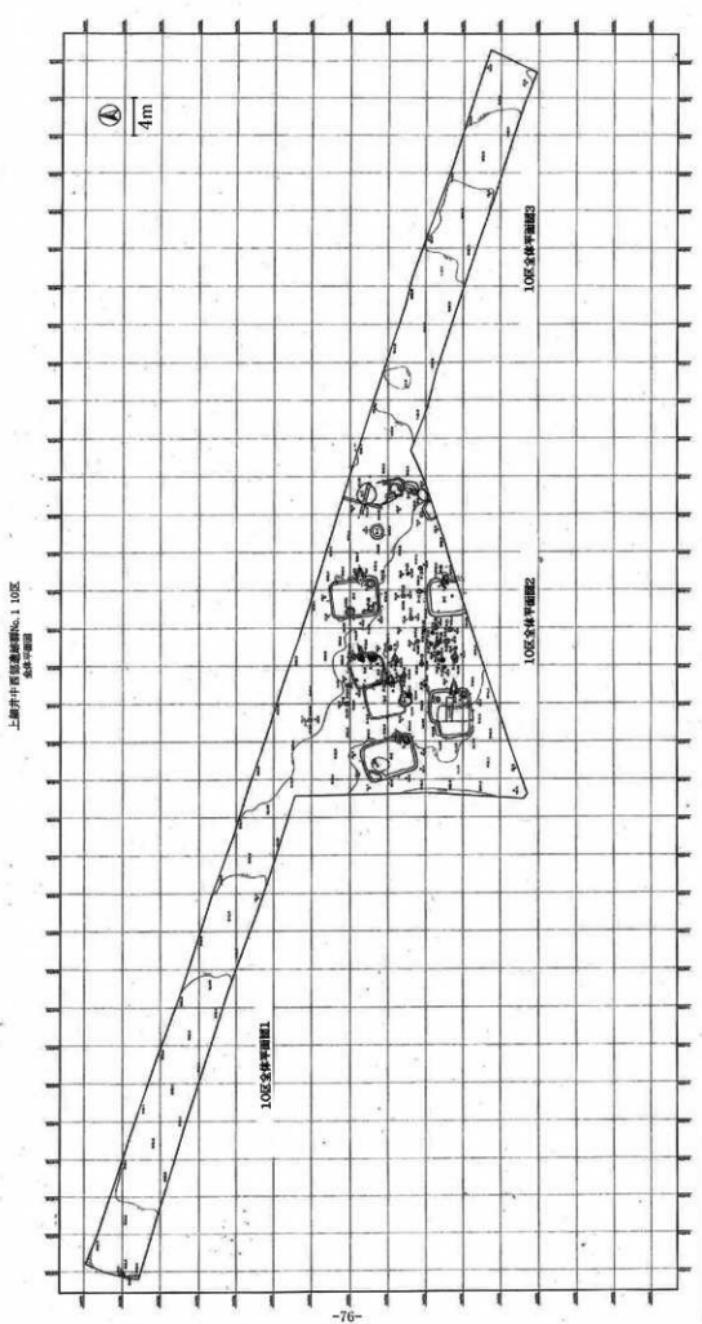
左上：10 区調査区遠景（東を望む）拡大部：10 区調査区全景（上が南）

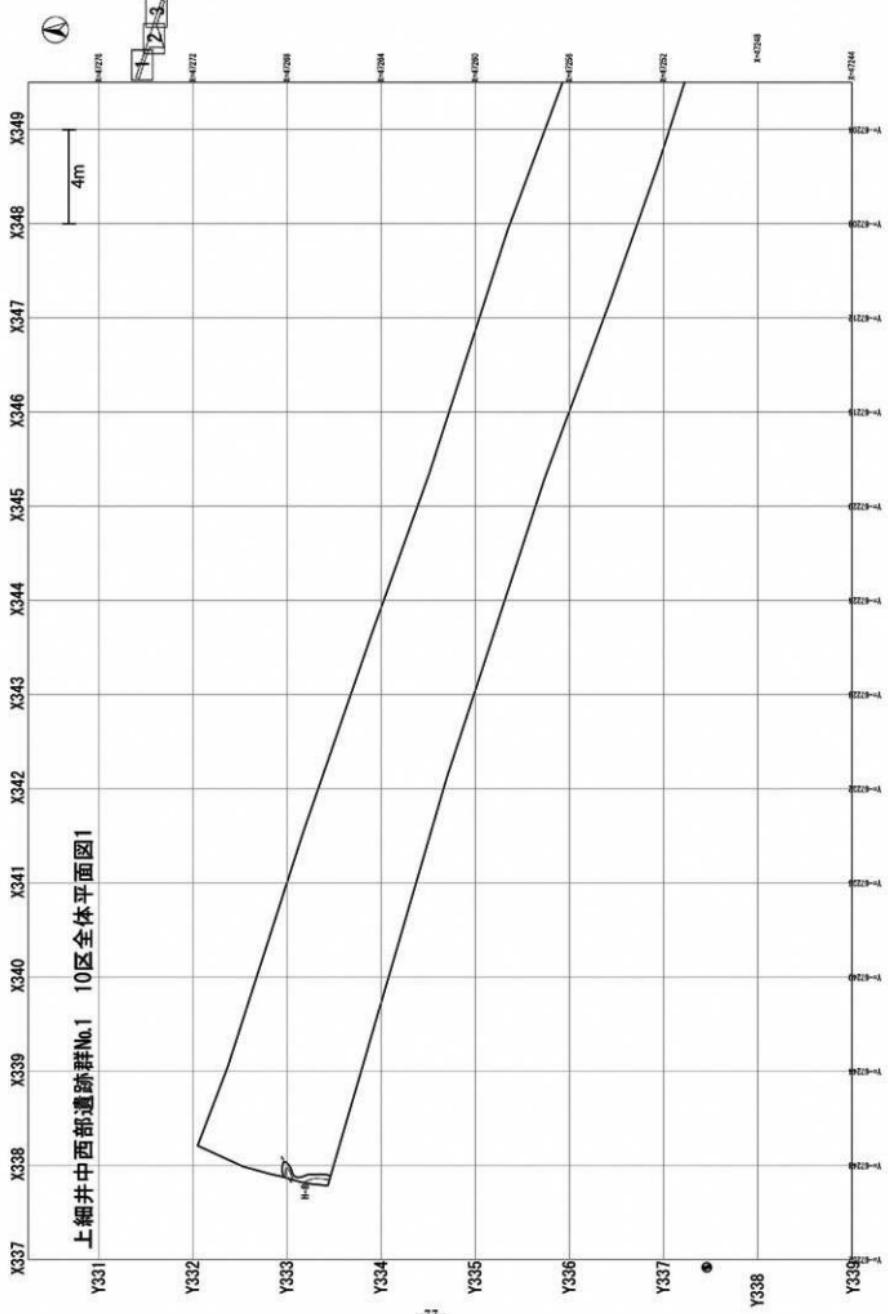


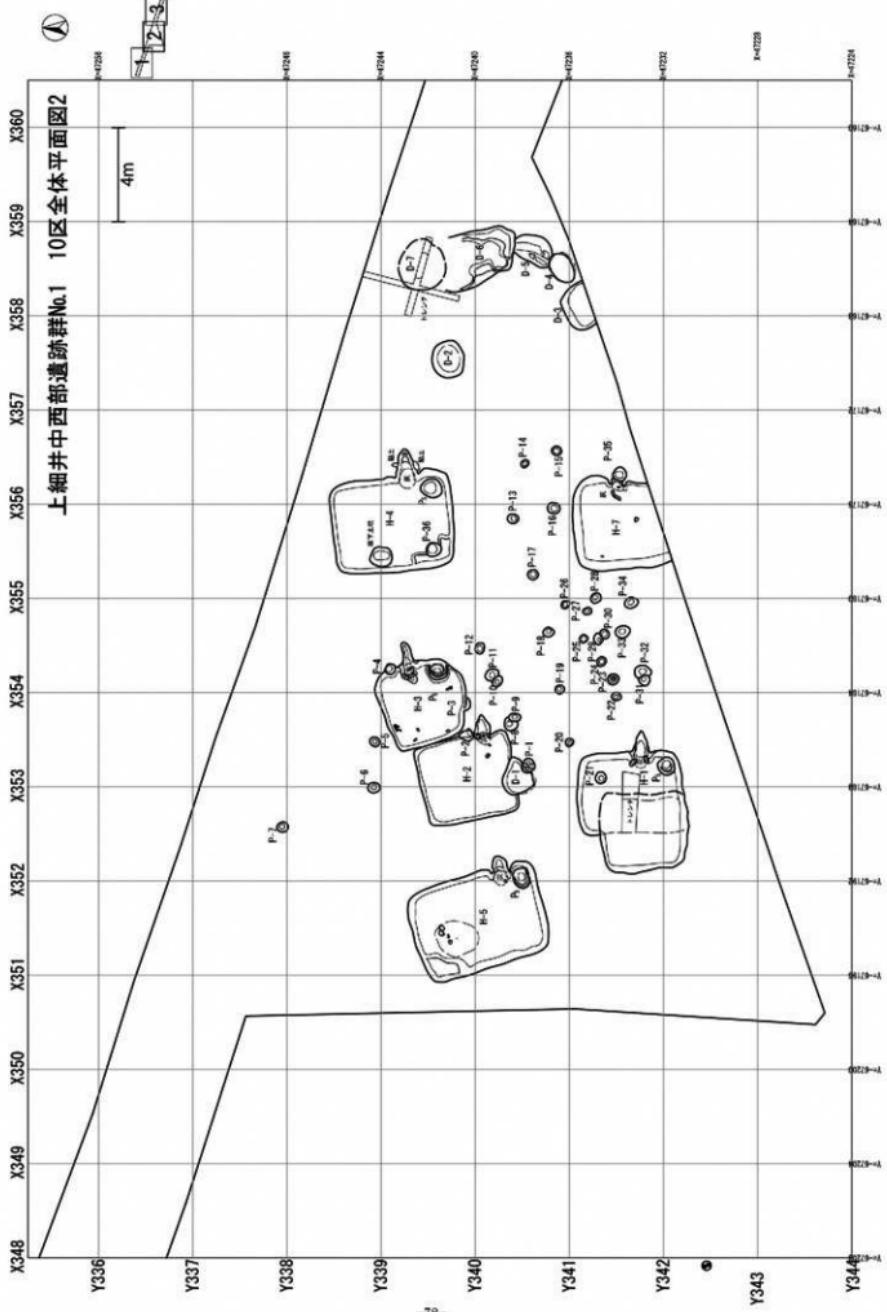
3号住居跡全景（西から）

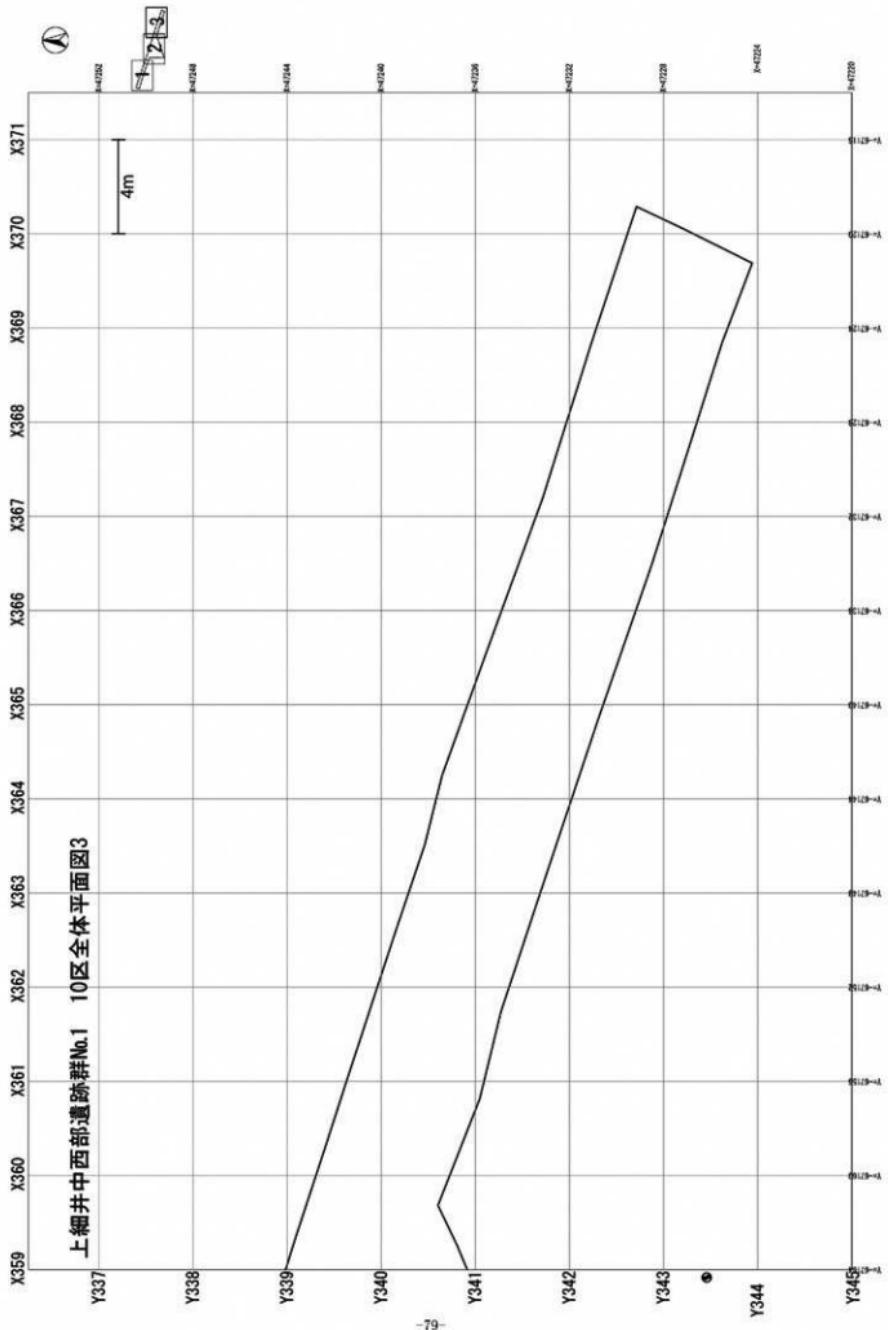


3号住居跡出土の土師器壺









2 平成 31 年度工区（B 工区）

（1）1 区

所 在 地 前橋市上細井町 1677 他

調査期間 平成 30 年 10 月 30 日～平成 31 年 1 月 31 日

調査面積 1,509 m²

調査概要 繩文時代（前期）竪穴住居跡 5 軒、古墳時代竪穴住居跡 1 軒、奈良・平安時代竪穴住居跡 2 軒、土坑（繩文）7 基、土坑 10 基、集石遺構等が検出された。古墳時代の 1 号住居跡は、約 6 m 四方の正方形を呈し 6 世紀後半の特徴を有する土器を伴っている。床面直上に胴部の丸く張った土師器甕が出土した。繩文時代の住居跡では、特に 2 号住居跡、5 号住居跡で出土遺物が多く、2 号住居跡では、黒曜石の石鏃、浅鉢片、深鉢片、敲石、打製石斧などバラエティに富んでいた。5 号住居跡は、規模は小さいものの出土遺物は比較的多く、石鏃や深鉢片の他、石匙も出土した。平安時代（9 世紀代）の住居跡 2 軒は、共に小さい長方形を呈し、南東隅に小さいカマドを持つ特徴を有している。



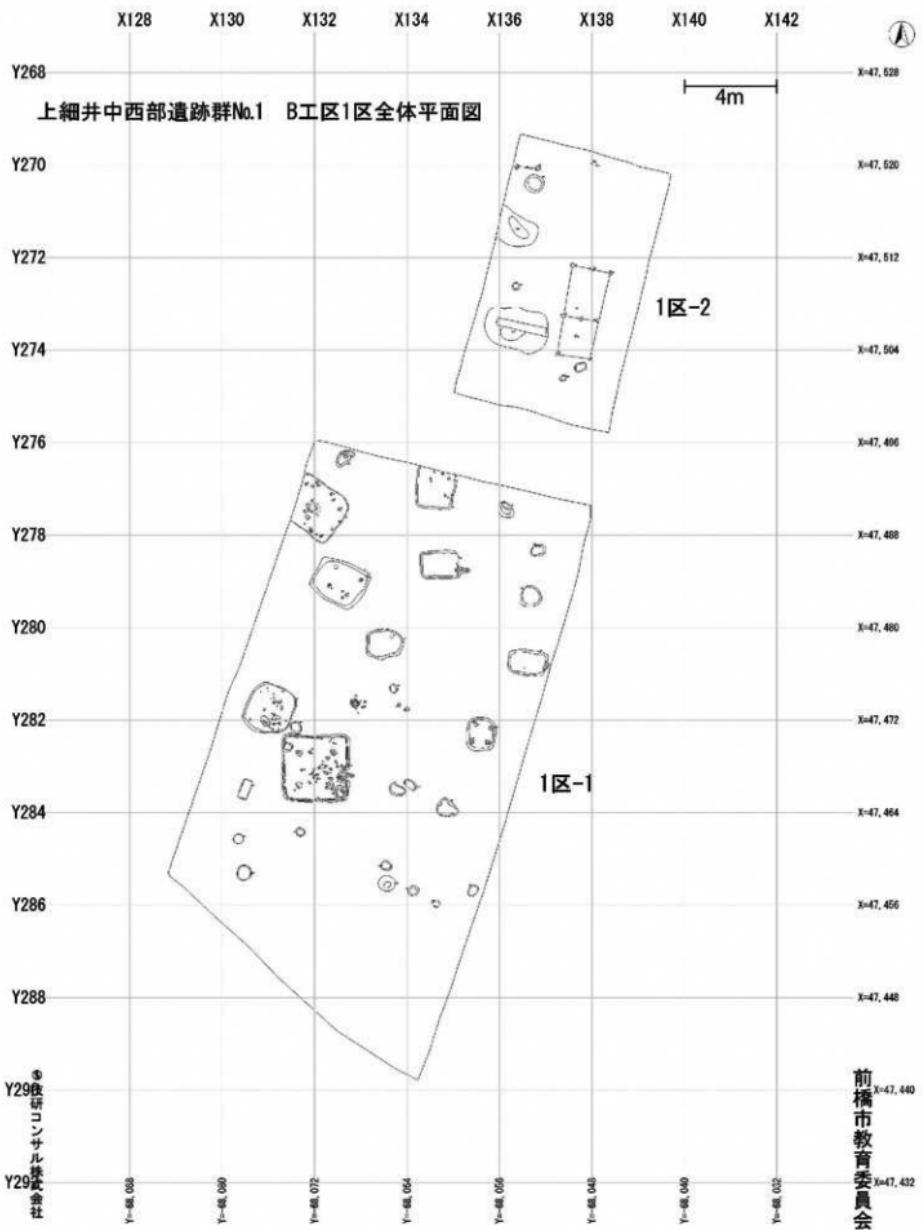
1 区全景（上が東）



1 号住居跡全景（西から）



1 号住居跡出土の土師器甕



(2) 2区

所在地 前橋市上細井町1673他

調査期間 平成30年11月26日～平成31年1月31日

調査面積 1,679 m²

調査概要 奈良・平安時代竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡3棟、土坑、ピット群等を検出した。2間×3間の掘立柱建物（1号掘立、2号掘立）は、ほぼ同位置に建て替えられていた。2号掘立のほうが、柱穴に規模や形状で規則性があり、丁寧さが感じられる。この掘立柱建物跡を囲むように竪穴住居跡が検出された。住居跡の主軸方向は、掘立柱建物のものとほぼ同じであり、集落を形成していたことが分かる。さらに、掘立柱建物が建て替えられていることから、ある程度長期に亘ってこの集落が営まれていたことが考えられる。各住居跡の規模は大きく、1辺が5～6mに達する遺構もある。本調査区でも「焼失住居」が検出され、先述した4区11号住居跡と形状、出土遺物共に近似していた。



2区全景（上が北）

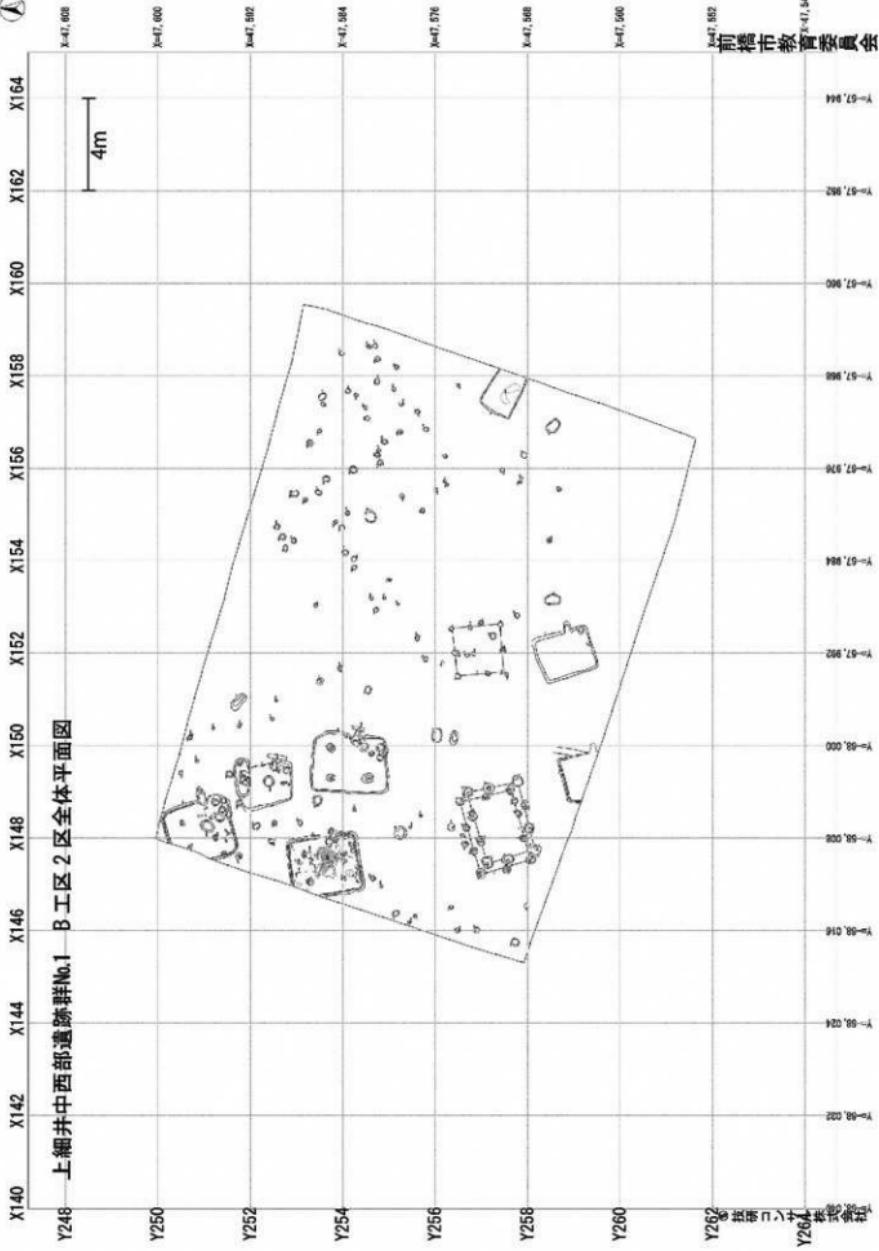


2号掘立柱建物跡（西から）



3号住居跡全景（西から）

(1)



(3) 3区

所在地 前橋市上細井町1690他

調査期間 平成31年2月4日～平成31年2月28日

調査面積 146 m²

調査概要 古墳時代堅穴住居跡1軒、奈良・平安時代堅穴住居跡6軒等を検出した。調査区は、現道の拡幅部分であることからトレンチ状である。本年度は計5か所にトレンチ状調査区を設定し調査を実施した。遺構の検出割合は高く、3区周辺の台地上に集落跡が広がっている可能性が高い。遺構の残存状況は良好で、壁高70～80cmを測る遺構もある。7号住居跡で検出したカマドは西側に設置されおり、土師器甕が直立する形で出土した。



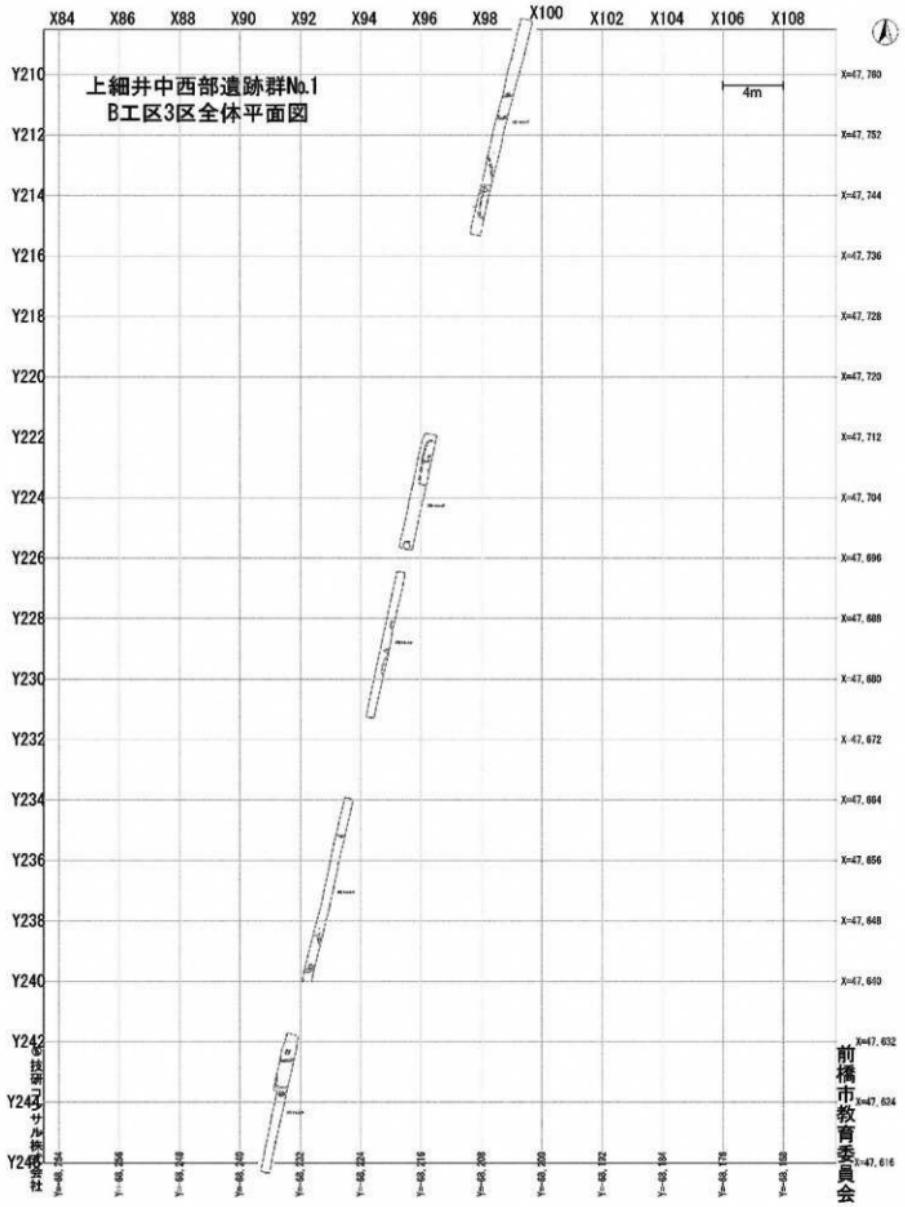
3区全景（中央にトレンチ状の調査区）赤城山を望む



7号住居跡カマド内出土遺物（土師器甕が直立）



調査区はトレンチ状となる



上細井中西部遺跡群No.1 現地説明会資料

前橋市教育委員会では、今年度より上細井中西部地区土地改良事業に伴い、埋蔵文化財の発掘調査を実施しております。土地改良事業が行なわれている赤城山南麓地域は、旧石器時代から人々が生活を営んでおり、これまで多くの遺跡が見つかっております。

今回の調査でも縄文時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡などが多数確認されておりますので、数千年前から続く人々の営みに思いを馳せてみて下さい。



調査区から赤城山を望む

■調査主体 前橋市教育委員会事務局 文化財保護課
〒371-0853 前橋市総社町三丁目11-4
TEL027-280-6511



■4区 11号住居跡(焼失住居跡)

住居内部には、焼けて炭になった建築部材が残っていました。また、カマドのまわりでは生活で使用していた土器類が多く出土しました。



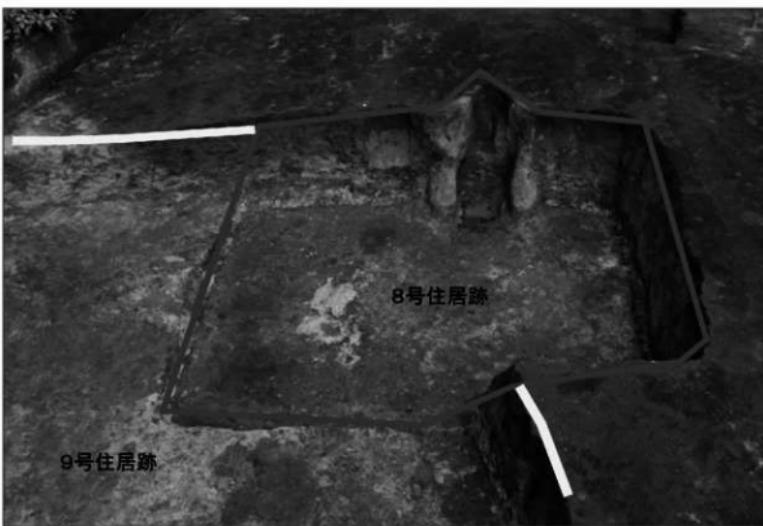
■4区 11号住居跡出土遺物の様子

灰色をした土器は、「須恵器」です。
「壺(かめ)」や「壺(つぼ)」などが
出土しました。大切な生活用具を
残し、慌てて家から逃げ出したの
でしょうか？



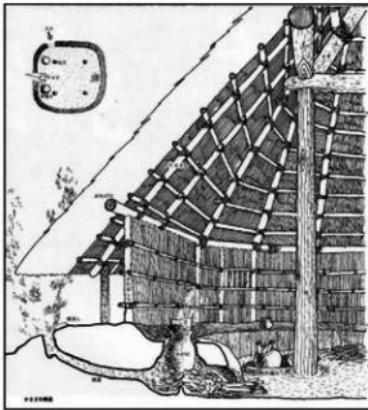
■4区 11号住居跡出土遺物

出土した上の写真の須恵器片を、ジグソーパズルのように接合することで、大きな「壺」になりました。



■4区 8・9号住居跡全景

赤線で示した範囲が8号住居跡、黄線で示した範囲が9号住居跡です。8号住居跡は、9号住居跡と重なり合って検出されました。9号住居跡の方が古く、その一部を壊すように8号住居が作られました。8号住居跡は、出土遺物などから奈良時代のものと考えられます。



■住居跡のカマドって？

煮炊きをする、現代で言えば「台所」にあたります。火を使う場所なので、粘土は赤く焼け、木の燃えカスや灰が確認できます。



■3区 1号住居跡のカマド

カマドの作り方にはバリエーションがあります。石で形づくったり、瓦を再利用するものもあります。1号住居跡では、カマド袖部に土器である「壺」を芯として利用しています。



■3区 縄文時代の住居跡全景

竪穴住居跡の約半分が検出されました。全体の形状は、円形であると考えられます。住居の中心部付近では、多数の縄文土器片が出土しました。



■3区 縄文住居跡遺物出土のようす

縄文時代の住居跡からは、縄文時代中期の「深鉢」などが出土しました。約4000～5000年前の土器が、当時の姿をとどめた形で出現し、悠久の歴史を感じられます。

③元総社蒼海遺跡群(127)

調査地 前橋市元総社町 2107-6 ほか
調査期間 2018. 8. 8～10. 22
調査面積 406 m²
調査原因 土地区画整理事業
調査担当 永井智教（山下工業株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る宅地造成工事にあたり、前橋市（区画整理課）と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

平成 30 年 4 月 20 日付けで当該工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・業務依頼が前橋市より提出され、平成 30 年 6 月 18 日付けで前橋市と山下工業株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、8 月 8 日より発掘調査を開始した。

調査地は宮鍋神社の南側約 70m の地点に位置する。調査の結果、堅穴住居跡 16 軒、掘立柱建物跡 1 棟、基壇建物跡 1 棟、溝跡 9 条（7 世紀後半 1 条、9 世紀 1 条、10～11 世紀 4 条、中世蒼海城堀跡 2 条を含む）、鍛冶関連遺構等が検出された。

特筆すべき遺構としては基壇建物跡が挙げられる。時期は奈良時代後半と推定され、本調査区内では南辺の一部のみの検出であったが、東西約 13 m の大規模なものであり、官衙に関連する建物の可能性が考えられる。なお、基壇建物跡の北側部分は、次年度に調査を実施する予定であるため、今回の調査では掘込地業部分の掘り下げは行わなかつたが、掘込地業と重複する中世井戸跡の壁面観察により掘込地業層は現在の地業層上面から約 80 cm の深さまで残存していることが確認された。

また、6 世紀前半の所産と推定される堅穴住居跡から複数の人骨が検出されており、廐屋墓の可能性も推測される事例である。





元總社蒼海遺跡群(127)調査区全景（上が北）



元總社蒼海遺跡群(127)調査区遠景（南から）



掘込地業を切る井戸跡断面（東から）



掘込地業全景（東から）

④元総社蒼海遺跡群(128)

調査地 前橋市元総社町3137-1ほか
調査期間 2018.9.10～10.31
調査面積 648.05 m²
調査原因 土地区画整理事業
調査担当 岡野茂（技研コンサル株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る西部環状線の工事にあたり、前橋市（区画整理課）と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

平成30年5月14日付けで当該工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・業務依頼が前橋市より提出され、平成30年9月7日付けで前橋市と技研コンサル

株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査地は区画整理区域の北東部の西部環状線沿いの2地点で、1、2区ともに浅間B軽石（1108年）に埋没した水田跡、櫻名ニツ岳渋川テフラ（6世紀初頭）を含んだ洪水層から掘り込まれた畠跡を確認した。また、1区では洪水層下に鉄滓を伴う炉跡とピットを検出し、2区では畠跡の下から古墳時代後期の住居跡を検出した。

平安時代末期の水田跡は本調査地南側に隣接する元総社蒼海遺跡群（36）1区で確認されているほか、周辺の元総社蒼海遺跡群（14）、（88）、元総社甲稲荷大道西Ⅲ・Ⅳ遺跡では畦畔は確認されていないが、浅間B軽石が堆積していた。本調査地の道路を挟んで東側は現地表条里遺構が残っていたが、本調査地では集落域との境や地形変換点で規制され、不規則な区画が広がると想定される。





元總社蒼海遺跡群（128）2区1面全景
(南から)



元總社蒼海遺跡群（128）2区2面全景
(南から)



1号住居跡遺物出土状況（2区・西から）



炉跡全景（1区・南西から）

⑤元総社蒼海遺跡群(129)

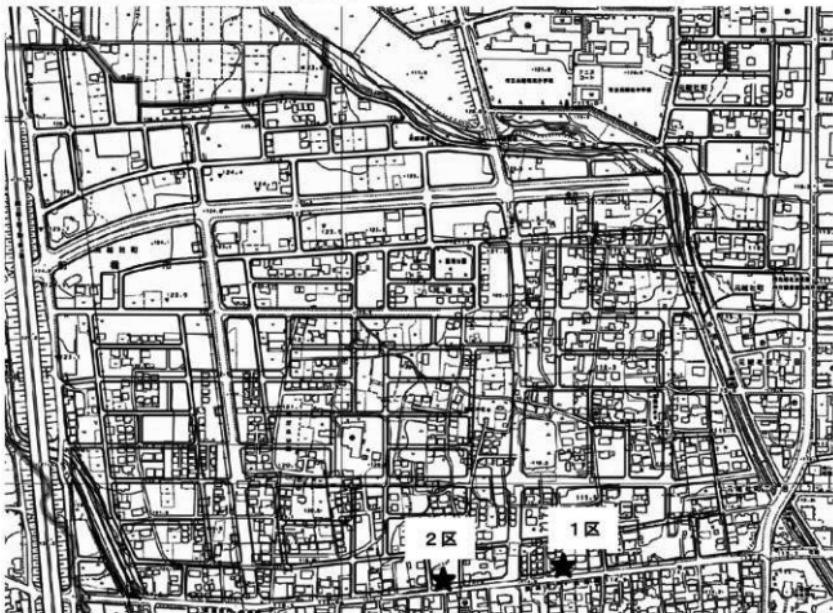
調査地 前橋市元総社町 2154-3 ほか
調査期間 2018. 10. 2~11. 5
調査面積 259 m²
調査原因 土地区画整理事業
調柾担当 土井道昭(有限会社毛野考古学研究所)

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る県道足門・前橋線拡幅工事にあたり、試掘調査を実施した結果、中世蒼海城堀跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。平成30年9月7日付けで前橋市と有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務委託契約を締結し、10月2日より調査を開始した。

調査地は区画整理区域の最も南側の県道足門・前橋線沿線の2地点で、1区・2区とも検出された遺構は、中世以降に帰属するものが大半であった。

東側の1区では、堅穴状遺構1軒、溝4条、井戸跡1基、性格不明遺構2基、土坑、ピットが検出された。性格不明遺構に多量の瓦や石塔物とみられる破片が一括廃棄されている状況や、ピットの一部に規格性が認められることから近世屋敷の存在を想起させる。西側の2区では、蒼海城堀跡1条を含む溝跡3条、井戸跡3基等が検出された。蒼海城堀跡となる3号溝跡は、上幅4.45m、深さ2.15mを測り、元総社蒼海遺跡群(21)9地点1区3トレンチで検出された3号溝跡の南側延伸となる。覆土の第1層から内耳鍋が出土していることから、該期のうちに全て埋没したものと想定される。蒼海城縄張の鎌田屋敷の西側を南北に走行し、本調査区内で屈曲していないことからさらに南方へ延伸することが予想される。





元總社蒼海遺跡群(129) 2区3号溝跡断面(蒼海城堀跡)



左上：元總社蒼海遺跡群(129) 1区全景
(西から)

右上：元總社蒼海遺跡群(129) 2区東側全景
(西から)

左下：元總社蒼海遺跡群(129) 2区西側全景
(東から)

⑥元総社蒼海遺跡群(130)

調査地 前橋市元総社町1392-9ほか
調査期間 2018.9.10～10.31
調査面積 505.20 m²
調査原因 土地区画整理事業
調査担当 佐野良平（技研コンサル株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る区画道路工事にあたり、前橋市（区画整理課）と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

平成30年6月4日付けで当該工事に伴う埋蔵文化財発掘調査・業務依頼が前橋市より提出された。平成30年9月7日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、9月10日より発掘調査を開始した。

区画整理区域内の3地点で調査を実施し、1区からは、堅穴住居跡3軒、土坑墓1基、蒼海城の堀跡1条等が検出された。2区からは堅穴住居跡1軒、土坑墓1基、蒼海城堀跡を含む溝跡2条等が検出された。3区からは蒼海城堀跡1条、ピット63基等が検出された。

1区で検出された土坑墓は長方形で、隅部から木片を伴う釘が出土したことから、釘を用いて組み立てられた木棺を埋葬した土坑墓と考えられる。土坑底面には木棺の平衡を保つために2列の石が配されていた。また、すべての調査区から蒼海城の堀跡が検出されているが、1区1号溝跡は、東西に走行する蒼海(35)1区1号溝跡の西側延伸部と南北に走行する蒼海(26)5・6区2号溝跡の南側延伸部の交点となる。東西溝は断面形状逆台形を呈し、西側延伸部分には、蒼海城絵図に「五ノ俵」と記された染谷川の渡河点が比定されている場所があり、蒼海城の中心へと続く堀底道であったと考えられる。

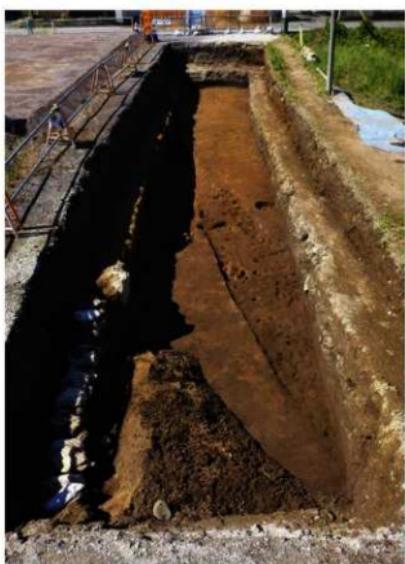




元總社蒼海遺跡群(130) 1区北側全景(南から)



元總社蒼海遺跡群(130) 1区南側全景(北から)



元總社蒼海遺跡群(130) 2区南側全景(東から)



元總社蒼海遺跡群(130) 2区北側全景(東から)



元總社蒼海遺跡群(130) 3区全景(北から)

⑦元総社蒼海遺跡群(131)

調査地 前橋市元総社町1388-10ほか
調査期間 2018.12.14～2019.1.7
調査面積 160 m²
調査原因 土地区画整理事業
調柾担当 佐野良平（技研コンサル株式会社）

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に係る区画道路工事にあたり、試掘調査を実施した結果、古墳時代の住居跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行なった。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

平成30年12月13日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、翌日より発掘調査を開始した。

調査の結果、竪穴住居跡5軒、蒼海城堀跡2条を含む溝跡3条、掘立柱建物跡1軒、井戸跡1基等が検出された。竪穴住居跡は、古代と推定される2号住居跡を除き、古墳時代後期に帰属する。

蒼海城堀跡である3号溝跡は、元総社小見Ⅲ遺跡4区5号溝跡の南側延伸に当たると考えられる。断面形状逆台形で、深さ38cmと浅い。これを切って同じ南北に1号溝跡が走行する。1号溝跡は断面形状が薬研で、深さ2.2mと深く、防護面の意識の強さを感じられるが、周辺の調査で接続すると考えられる遺構は確認されていない。

掘立柱建物跡は、本調査区西側に隣接する元総社蒼海遺跡群(35)1号掘立柱建物と同一遺構で、今回、東側部分が確認された。柱間は東西3間、南北2間以上で、南限は確認されていない。時期は、5号住居跡との重複関係から、8世紀以降と考えられる。





元總社蒼海遺跡群(131)調査区全景（西から）



1号住居跡全景（西から）



5号住居跡全景（北東から）

⑧元総社蒼海遺跡群(132)

調査地 前橋市元総社町1392-9ほか
調査期間 1区：2018.8.7、2区：2018.11.20～
11.22・2019.1.28・2.4、3区：2018.12.3
調査面積 597 m²
調査原因 土地区画整理事業
調査担当 並木史一・岩丸展久

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う道路工事及び宅地造成工事にあたり、前橋市（区画整理課）と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。市教育委員会は他の発掘調査を実施中であるため、本年度の蒼海地区の発掘調査は、緊急で委託調査の対応ができない箇所のみ直営での調査とし、3調査区において実施した。

1区は、御靈神社北西側に位置する東西区画道路の新設場所が調査区である。蒼海城本丸の北西となる。1トレンチでは表土下44cmを遺構確認面とし、古代溝跡（道路状遺構）1条、中世土坑1

基、中世ピット1基を検出した。3トレンチは表土下約2mまで掘り下げたが、すべて蒼海城堀跡の覆土内となり、堀底は確認されなかった。なお、覆土の堆積から新旧2条と考えられる。2トレンチは遺構は検出されなかった。

2区は、元総社市民サービスセンターの東側に位置する宅地造成地である。古墳時代の堅穴住居跡5軒、古代の溝跡1条、中世溝跡2条周溝墓1基、土坑4基を検出した。古代の溝跡は、西から順に元総社蒼海遺跡群（以下「蒼海」という）(9)－蒼海(7)－明神北遺跡－閑泉桶遺跡と続く東西区画溝と同一遺構であり、本調査区は蒼海(7)と明神北遺跡の間にあたり、溝の延伸を追認した。

3区は、蒼海(127)北東側隣接地の宅地造成のため調査を行った。堅穴住居跡4軒、古代の溝跡1条、蒼海城堀跡1条等を検出した。蒼海(127)で確認された掘込地業については、本調査区内へ統かないことを確認した。また、蒼海(127)の掘込地業の南側で確認された6号溝跡が掘込地業の東側で曲がり、本調査区内で北へ延びる状況を確認した。



検出された遺構

1区

1号溝跡

形状・規模等：長さ(2.3)m、上幅(2.0)m **重複**：D-1、P-1と重複し、本遺構が最も古い **時期**：覆土上層はAs-Cを多量に含む黒色土であり、固く縮まる。遺構の重複及び覆土の状況から古代に帰属すると考えられる。道として使用された可能性も考えられる。

2号溝跡・3号溝跡

トレンチ内がすべて溝跡内であるため詳細不明。深さ2mまで掘り下げたが、底面に達しなかった。とともに中世蒼海城の堀跡と考えられる。覆土断面の切り合いから3号溝跡が新しいと思われる。

2区

1号住居跡

形状・規模等：東西6.2m、南北(3.3)m、壁現高25cm **床面**：地山土を用いた貼床で、締まりやや弱い **竈**：検出されなかった。W-1により壊されている可能性がある **重複**：W-1、D-1と重複し、本遺構が最も古い **時期**：覆土の状況から古墳時代と推定される。蒼海(78)H-23・H-28と同一遺構である

2号住居跡

形状・規模等：東西(1.4)m、南北(2.4)m、壁現高34cm **床面**：総社砂層地山床で固く縮まる **竈**：検出されなかった **重複**：H-3と重複し、本遺構が古い **時期**：覆土の状況から古墳時代と推定される

3号住居跡

形状・規模等：東西(0.4)m、南北(1.6)m、壁現高36cm **床面**：総社砂層地山床で固く縮まる **竈**：検出されなかった **重複**：H-2と重複し、本遺構が新しい **時期**：覆土の状況から古墳時代と推定される

4号住居跡

形状・規模等：東西(1.4)m、南北(0.8)m **竈**：

本調査区では検出されなかった。同一遺構と考えられる蒼海(78)H-21の東壁で検出されている **重複**：D-2、D-3と重複し、本遺構が最も古い **時期**：蒼海(78)H-21と同一遺構で7世紀代と考えられる

1号溝跡

形状・規模等：長さ(17.9)m、上幅1.2m、深さ0.8m **重複**：D-2、D-3、D-4、方形周溝墓と重複し、本遺構が最も新しい **時期**：覆土の状況から中世に帰属すると考えられる

2号溝跡

形状・規模等：長さ(25.5)m、上幅6.9m、深さ2.0m **重複**：H-5、方形周溝墓と重複し、本遺構が最も新しい **時期**：覆土上層にAs-B純層が堆積するが、西側トレンチでは確認されなかった。覆土の状況から古代に帰属すると考えられ、蒼海(7)W-1と同一遺構と考えられる

方形周溝墓

形状・規模等：長さ(2.2)m、上幅4.2m、深さ0.6m。周溝はW-1の北側で土橋状に途切れる **重複**：W-1、W-2、H-5と重複し、本遺構が最も古い **時期**：覆土はAs-C混土、Hr-FA、Hr-FA洪水層が堆積する。覆土の状況から古墳時代前期と推定され、蒼海(100)方形周溝墓と同一遺構と考えられる。

3区

1号住居跡

形状・規模等：東西4.2m、南北(3.8)m **竈**：検出されなかった **重複**：W-1、X-1と重複し、本遺構が最も古い

2号住居跡

形状・規模等：東西2.9m、南北(2.5)m **竈**：東壁南寄りに検出された **重複**：H-3、H-4、W-1と重複し、本遺構がH-4に次いで古い

4号住居跡

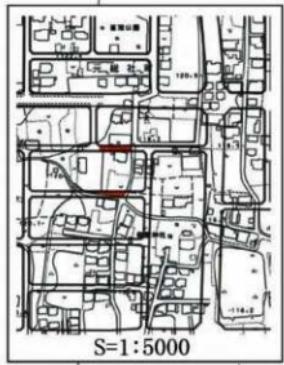
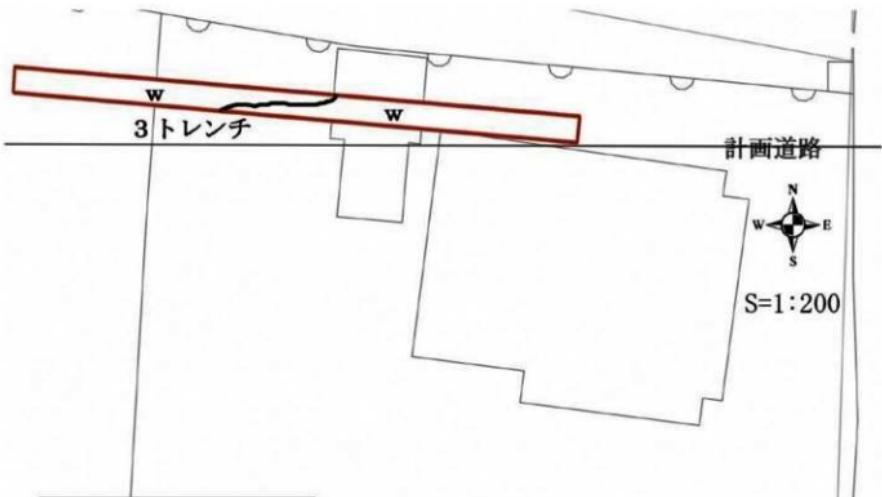
形状・規模等：東西(2.0)m、南北(3.5)m **竈**：東壁に検出された **重複**：H-2と重複し、本遺構が古い

1号溝跡

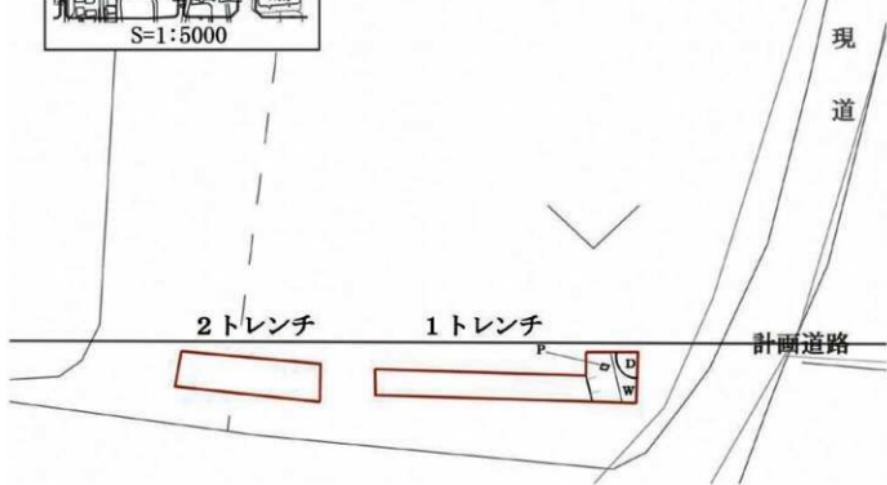
形状・規模等：長さ(8.5)m、上幅2.4m **重複**：H-1、H-2、H-3と重複し、本遺構が最も新しい **時期**：蒼海(127)W-6と同一遺構と考えられ、10世紀代と考えられる。本調査区は蒼海(127)の北側に隣接しており、このW-6が北へ屈曲する可能性が高い

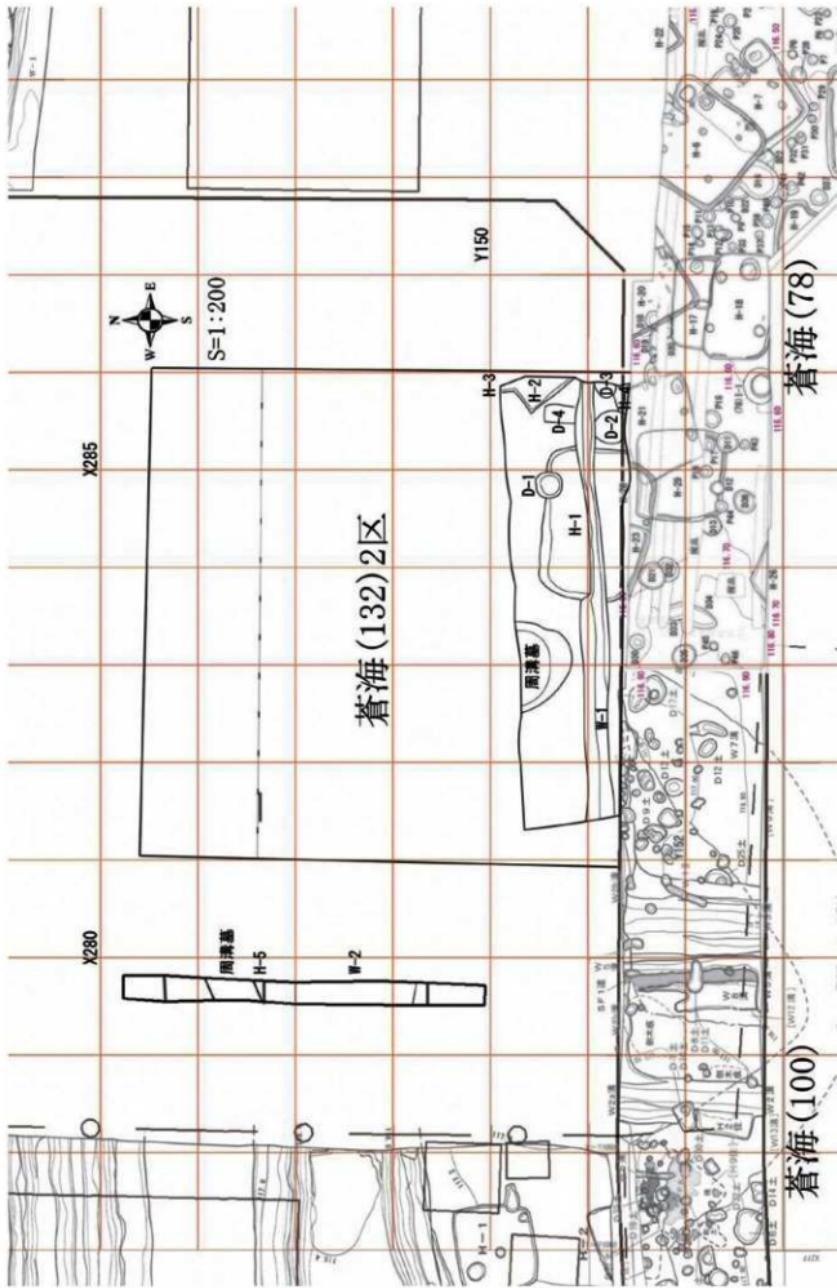
2号溝跡

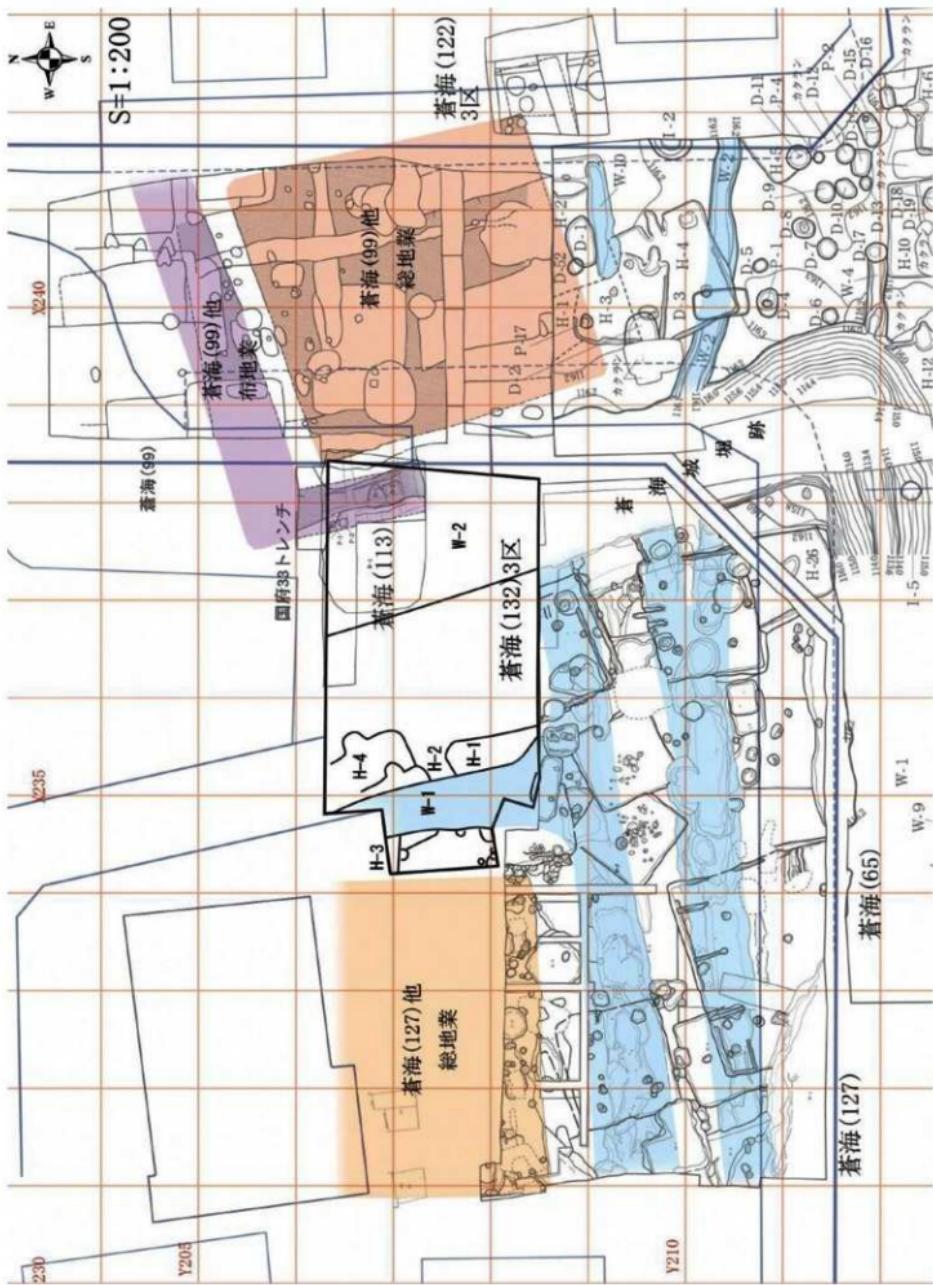
形状・規模等：長さ(9.3)m、上幅(7.0)mm **重複**：なし **時期**：覆土の状況から中世に帰属すると考えられ、蒼海(127)W-1、蒼海(65)W-1、蒼海(113)W-1、国府33トレンチW-1と同一遺構で、蒼海城堀跡と考えられる



蒼海 (132) 1 区









蒼海(132)1区1トレンチ全景(東から)



蒼海(132)1区3トレンチ全景(西から)



蒼海(132)2区南側調査区全景(東から)



蒼海(132) 2区1号住居跡全景（西から）



蒼海(132) 2区周溝跡（北から）



蒼海(132) 2区2号溝跡全景（南から）



蒼海(132) 3区1号溝跡検出状況（南から）



蒼海(132) 3区調査区全景（北東から）

⑨南橋東原遺跡No.2

調査地 前橋市日輪寺町 160-8 ほか

調査期間 2018. 8. 1～8. 28

調査面積 350 m²

調査原因 南橋公民館本館改築工事

調査担当 佐野良平（技研コンサル株式会社）

調査の概要

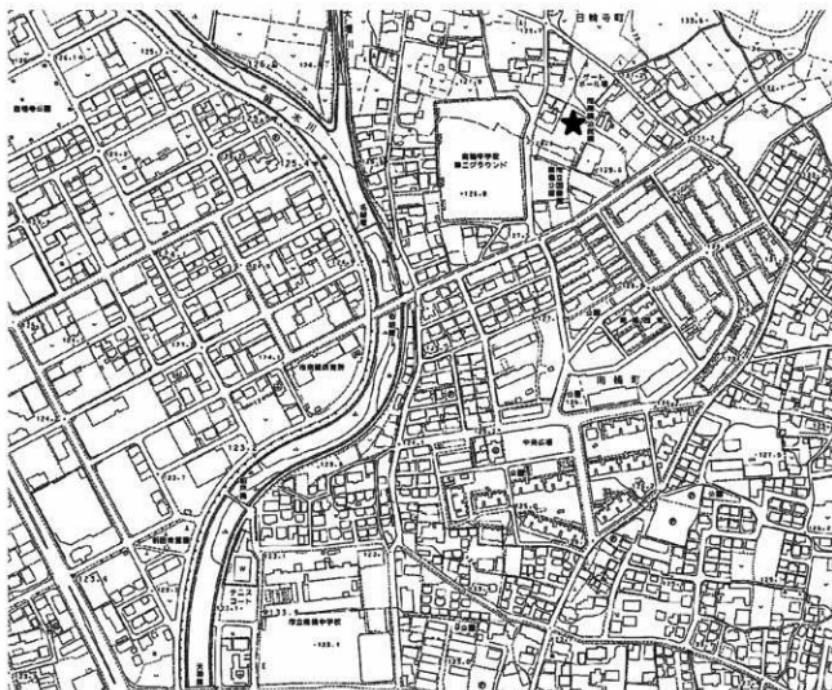
南橋公民館本館の改築工事にあたり、試掘調査を実施した結果、堅穴住居跡等を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市（生涯学習課）と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

平成30年7月18日付けで前橋市と技研コンサ

ル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、8月1日より発掘調査を開始した。

調査の結果、調査区南側で6世紀後半から7世紀前半の堅穴住居跡1軒、北側で古墳時代の畠跡等が検出された。また、畠跡の下ではAs-C降下以前の旧河川の流路跡が確認された。

本調査区の西側に近接する南橋東原遺跡では、約21軒の堅穴住居跡で袖石付カマドが確認されている。25号住居跡のカマド内には土師器甕が2固体横並びの状態で出土し、2個掛けのカマドであったと考えられる。本調査区で確認された住居跡では、カマド内や右壁に寄った位置で支脚石確認されており、同様に2個掛けカマドと推測される。南橋東原遺跡では、6世紀中葉から9世紀中葉まで続く集落跡が確認されており、本調査区で検出された住居跡もこの集落の一端を担っていたと考えられる。





南橘東原遺跡 No. 2 調査区全景（北から）



1号住居跡全景（北から）



畠跡全景（南から）

⑩天神風呂M地点遺跡

調査地 前橋市茂木町 239-18

調査期間 2018. 12. 14～12. 27

調査面積 177 m²

調査原因 市道 00-360 号線道路築造

調査担当 青木利文（山下工業株式会社）

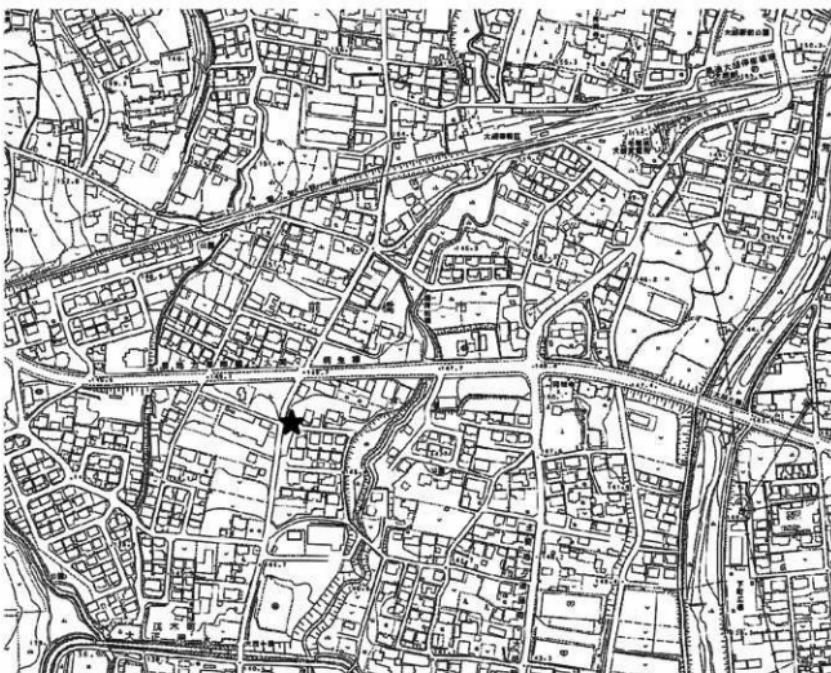
調査の概要

市道 00-360 号線（大胡 110 号線）道路築造にあたり試掘調査を実施した結果、古墳時代の堅穴住居跡を確認した。工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。

平成 30 年 12 月 3 日付けで前橋市と山下工業株

式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、12 月 14 日より発掘調査を開始した。

調査地は、主要地方道前橋・大間々・桐生線の南側で、同線は天神風呂遺跡として縄文時代、古墳時代の集落が確認されているほか、周辺台地全面に遺跡が広がっている。本調査区では、堅穴住居跡 3 軒、掘立柱建物 1 棟、堅穴状遺構 1 軒、溝跡 2 条、ピット 7 基が確認され、おおむね周辺遺跡と同様の集落遺跡である。住居跡はいずれも古墳時代に帰属するが、2 号住居跡は、少ない破片資料であるが、出土遺物や覆土の状況から古墳時代前期に遡ることが考えられる。掘立柱建物は、柱間が桁行 2 間 × 梁行 2 間で、庇をもつ古代の遺構である。なお、本調査区周辺は、瓦塔片や淨瓶が出土していることから古代の寺院跡の存在が想定されているが、今回の調査ではその痕跡は確認されなかった。





天神鳳呂M地点遺跡全景（南から）

手前は1号掘立柱建物



1号住居跡遺物出土状況（西から）



2・3号住居跡全景（東から）

⑪中内常光遺跡

調査地 前橋市中内町 151-46

調査期間 2018. 12. 7 ~ 12. 26

調査面積 84 m²

調査原因 耐震性貯水槽設置

調査担当 並木史一

調査の概要

前橋市南部の中内町地内の中内公園内における耐震性貯水槽設置工事にあたり、前橋市（道路管理課）と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。工事予定地隣接道路は、東善住宅団地（拡張）造成先立ち、平成 11 年度に発掘調査（前田遺跡 VI）が実施され、集落跡が検出されているほか、さらに周辺に集落遺跡が広がっている。また、工事計画の変更がかなはず、現状保存が困難なことから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成 30 年 12 月 7 日に前橋市教育委員会による調査に着手した。

公園内北側に位置する工事箇所の調査では、表土下約 1.4m から、竪穴住居跡 2 軒、土坑 2 基を検出した。調査区内中央に住居床面よりも深い擾

乱部分が広がっており、検出された両住居は、いずれも擾乱に壊されていた。とりわけ 2 号住居跡は残存したのは一部分であった。いずれも浅間 B 軽石を含む層下に、浅間 C 軽石を含む暗褐色土を掘り込んで作られていた。

調査区周辺は、平安時代後半の集落跡が広がっており、浅間 B 軽石に覆われた大溝が北西～南東方向に走行し、浅間 B 軽石に覆われた水田跡も見つかっている。本調査区で確認された住居跡もこの集落の一部を構成したと考えられる。

検出された遺構

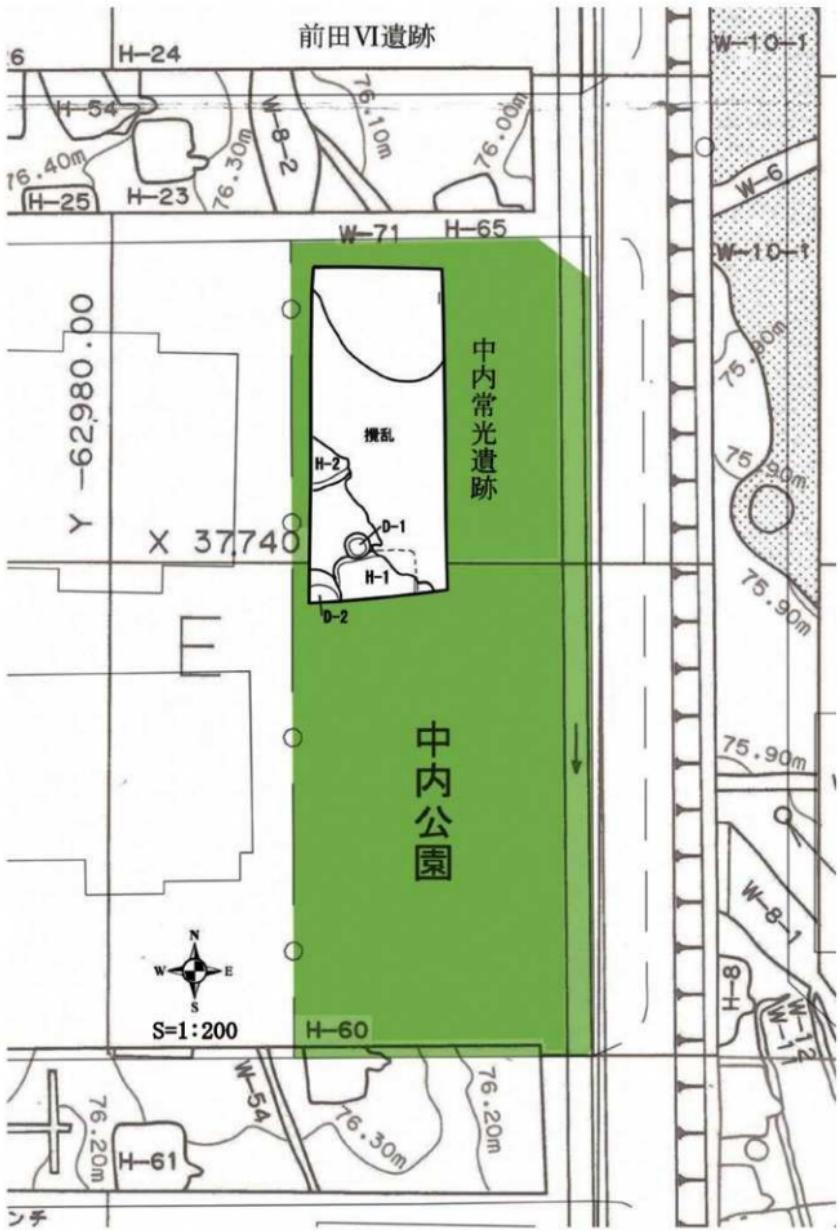
1号住居跡

形状・規模等：東西〔3.4〕m、南北(1.7)m、壁現高 50cm **床面：**地山土を用いた貼床で、凹凸はあるが縮まる **竪：**検出されなかった **重複：**D-1、D-2 と重複し、本遺構が最も古い **時期：**覆土の状況から平安時代と推定される

2号住居跡

形状・規模等：擾乱に壊され約 1.5 m² の範囲のみ検出。壁現高 55cm **床面：**地山土を用いた貼床で、一部は地山床 **竪：**検出されなかった **重複：**なし **時期：**覆土の状況から平安時代と推定される







調査区全景（南東から）



1号住居跡、1号土坑全景（南から）

2 市内遺跡発掘調査事業

(1) 事業の目的

試掘・確認調査の実施は、主に周知の埋蔵文化財包蔵地内外における比較的規模の大きな土木工事について、その施工により遺跡が破壊されることを未然に防ぐため、地理的状況や周辺での調査実績などを考慮し、遺構の有無、包蔵地内に至っては遺跡の範囲や残存状況などを確認することを目的とする。

試掘・確認調査の実施にあたっては開発者との協議を前提とし、その趣旨について理解と協力のもとに成り立っている。調査の結果、遺構や遺物等を確認した場合は、群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準に基づき、開発者と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行う。試掘・確認調査は、埋蔵文化財の現状保存または記録保存（発掘調査）のための基礎調査の面も併せ持つと考えられる。

(2) 試掘・確認調査の方法

① 遺構確認のための掘削作業

工事予定地にトレーンチを設定し、重機による掘削の後、人手による精査を行う。トレーンチ内で埋蔵文化財の有無、また、その範囲や密度、検出深度など、埋蔵文化財の内容確認を行う。試掘・確認調査面積は、開発対象面積の1割程度を基準とする。

② 記録作成

掘削したトレーンチ位置や検出遺構の分布状況を記したトレーンチ配置図を作成する。また、調査地の基本的な土層状況を確認するため、トレーンチ内の一部について深掘りし土層断面図を作成する。図面記録の他に、35mmカラーリバーパルサルフィルム及びデジタルカメラを使用して写真撮影を行い、写真記録を作成する。

(3) 調査結果

本年度は、別表の「(5) 平成30年度試掘・確認調査一覧表」のとおり、試掘・確認調査を35件実施した。このうち、23件で埋蔵文化財を検出した。

① 検出した遺構の主な時代

縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中・近世

② 検出した遺構の主な種類

古墳、住居跡、水田跡、溝跡、堀跡等

③ 発掘調査を実施した遺跡

ア 元総社着海遺跡群

（前橋市0142遺跡）

古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡等

イ 天神風呂M地点遺跡

（前橋市0191遺跡）

古墳時代の竪穴住居跡等

3 遺跡台帳整備事業

(1) 前橋市遺跡地図の更新

遺跡地図作成事業は平成15年度から開始し、平成24年度に「前橋市遺跡分布地図」を刊行した。

平成25年度以降は、開発等に伴う発掘調査で増加した遺跡の分布地図の更新について検討しており、継続して更新作業の実施を予定している。

(2) 遺跡GISの更新

平成20年度から開始した遺跡GIS事業は平成29年度までの遺跡分布範囲のデータ化を終了した。次年度以降も開発に伴う発掘調査の成果を遺跡GISへ随時更新を行い、情報を追加していく。また、重要文化財情報もGISに搭載し、内容の充実を図っていく。

4 埋蔵文化財資料整備事業

(1) 普及パンフレットの作成

「い・せ・き ワールド in 前橋2019」

平成30年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、「い・せ・き ワールド in 前橋2019」（A3版の両面カラー印刷）を作成した。

作成部数は7,000部で、両面とも写真を多く取り入れ、調査内容を分かりやすくまとめた。

平成31年度当初に市内小・中学校並びに市立図書館、教育関係者等に配布し、埋蔵文化財に関する啓発活動の資料として普及に役立てる。



(2) 出土資料の活用（貸出展示）

常設展示

① 群馬県立歴史博物館

市之関前田遺跡・柏原芳見沢遺跡出土石器

苗ヶ島大畠遺跡・前橋天神山古墳出土土器

元総社着海遺跡群出土青白磁梅瓶 50点

② 岩宿博物館（みどり市）

上ノ山遺跡・市之関前田遺跡出土石器 2点

企画展示等

- ①群馬県埋蔵文化財調査事業団
前二子古墳出土鉄鏃・鉄鉢・杏葉 8点
- ②高崎市観音塚考古資料館（高崎市）
前二子古墳出土須恵器・土師器・杏葉・鉄製品・銀製空玉・水晶製丸玉・ガラス製小玉等、大胡町39号墳出土獅頭環頭大刀柄頭、白藤古墳群出土埴輪・土師器 38点
- ③津南町農と縄文の体験実習館なじょもん（津南町）
五代伊勢宮遺跡IV・VI出土縄文深鉢 2点
- ④アーツ前橋
五代伊勢宮遺跡VI・旭久保C遺跡・愛宕山遺跡出土深鉢 4点
- ⑤岩宿博物館（みどり市）
矢継遺跡・市之関前田遺跡出土石器 2点
- ⑥多胡碑記念館（高崎市）
山王庵寺跡出土塑像・瓦 9点

（3）貸出用資料の整備（写真・遺物・図面）

博物館からの遺物借用依頼のほか、出版社等からのお見学依頼が増加しており、遺物・写真などの資料を管理するため、鳥羽収蔵庫に収納されている遺物の整理およびデータベース作成を行った。

（4）展示成果

①元総社歴史資料館

元総社歴史資料館では、総社・元総社地区で出土した遺物を展示している。代表的なものは、山王庵寺出土の「放光寺」と記された瓦および塑像群、山王古墳出土の大刀形埴輪、元総社地区の推定上野国府出土の墨書き器、元総社蒼海遺跡群出土の奈良三彩などである。



元総社歴史資料館展示風景

②元総社公民館

元総社地区的土地区画整理に伴う発掘調査の成果である壺や高盤などの出土遺物、上野国府に関連す

る人形や墨書き器などの複製品、写真などの展示を行っている。



元総社公民館展示風景

③芳賀公民館

芳賀地区は縄文時代の遺跡が多数調査されている。芳賀地区から出土した縄文土器、縄文土器の変遷などの開設パネル、発掘調査写真などの展示を行っている。

④サンデンファシリティ

見学者体験教室「森の教室」に縄文土器や石器、土師器などの遺物、発掘調査状況や住居、墓などから遺物が見つかった様子など撮った写真パネルを展示している。

⑤けやきウォーク前橋

市民プロジェクト作成の金剛製冠を引き続き展示したほか、大室古墳教室製作の装飾壺、脚付装飾壺、馬具（双葉剣菱形杏葉）4点、縄文耳飾り3点などの展示を行っている。



けやきウォーク前橋展示風景

(5) 新出土文化財展 2018

1 事業の目的

文化財保護課では、毎年市内各所において埋蔵文化財発掘調査を実施しており、数多くの遺物や新たな知見を得ている。そこで、平成29年度の発掘調査で出土した遺物等の発掘調査成果を速報的に展示し、広く市民に公開ことにより、市民に文化財に対する興味・関心・理解を深めてもらい、郷土を愛する心を育てることを目的とする。

2 事業に至る経緯

平成27・28年度に鳥羽収蔵庫において元總社地区の発掘調査成果を中心とした展示を行なったが、開催日が1日のみであったことから、平成29年度から複数日の開催が可能で常設展も見学可能な總社歴史資料館に会場を移し開催することとした。

3 開催概要

会期：11月6日（火）から18日（日） 12日間
来場者数：621人

4 展示資料

上野国府等範囲内容確認調査出土凸帶付四耳壺／遠見山古墳出土三ツ寺型高壙／元總社蒼海遺跡群出土浅鉢（彩漆）／二之宮八王子古墳副葬品／西大室七ツ石3・4号墳副葬品など

5 来場者の意見

来場者からは「実物を目にしてることで、文化財に対する興味が湧いた」「開催期間が12日間あったので、都合の良い日に見に来られてよかった」等、好意的な意見をいただいた。



遠見山古墳展示品



来場者の様子



上野国府展示品



来場者の様子

(6) 現地説明会

- ①上細井中西部遺跡群No.1
場 所 前橋市上細井町
対象者 地元住民
実施日 平成 30 年 9 月 23 日
内 容 繩文～奈良時代集落ほか、



上細井中西部遺跡群No.1 地元説明会風景

(7) 講演会・講座

- ①講演会等講師派遣
場 所 元総社市民サービスセンター
対象者 元総社地区歴史を学ぶ会
実施日 平成 30 年 7 月 21 日(土)
講 師 阿久澤 智和
内 容 元総社町内にその存在が推定される上野国府の範囲内内容確認調査の進捗状況と現段階での調査成果について、2時間程度の講話を行った。
- 場 所 総社市民サービスセンター
対象者 総社歴史勉強会
実施日 平成 30 年 8 月 7 日(火)
講 師 阿久澤 智和
内 容 上記に同じ。

- 場 所 総社市民サービスセンター
対象者 総社歴史勉強会
実施日 平成 30 年 10 月 10 日(水)
講 師 並木 史一
内 容 群馬県の発掘調査に重要である火山降下物やとりわけ浅間B軽石は総社古墳群周囲や古代溝跡にも堆積することについて約 90 分の講話を行った。

②出前講座

- 「解明！古代群馬の中心「推定上野国府」」
場 所 元総社市民サービスセンター
対象者 元総社町住民
実施日 平成 30 年 10 月 10 日(水)
講 師 阿久澤 智和
内 容 上野国府等範囲内容確認調査のここ数年間の最新情報を解説した。

「解明！古代群馬の中心「推定上野国府」」

- 場 所 富士見町小暮辻住民センター
対象者 富士見町小暮住民
実施日 平成 31 年 2 月 13 日(水)
講 師 村越 純子
内 容 上記に同じ。

(8) 二之宮八王子古墳出土金属製品保存処理

平成 29 年度に実施した二之宮八王子古墳発掘調査で出土した大刀 2 本、小刀 1 本について、長期間の保管を可能とするため、化学的な方法を用いた保存処理を行った。本業務は前武藏野文化財修復研究所に委託し、平成 30 年 9 月 28 日から平成 31 年 3 月 22 日の間に行われた。



大刀（保存処理前）



大刀（保存処理後）

5 上野国府等保存整備事業

(1) 上野国府等調査委員会の実施概要

元総社町に存在したとされる上野国府の国府や諸施設の概況を把握するための発掘調査を平成23年度から「上野国府等範囲内容確認調査事業」として実施している。本事業を推進するにあたり、上野国府等調査委員会において、上野国府とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を行なないながら事業を実施してきた。

本年度は第2期5か年計画の3年目にあたる。本年度の調査成果を再確認のうえ、来年度の調査計画について協議し調査箇所等について検討するため、以下のとおり委員会を開催した。

(2) 第26回上野国府等調査委員会

開催日 平成31年2月21日（木）

開催場所 文化財保護課2階会議室

《報告》

① 平成30年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果について

② 平成30年度上野国府等範囲内容確認調査の成果について

③ 上野国府関連遺構・遺物分布図作成の進捗について

《協議内容》

平成31年度上野国府等範囲内容確認調査事業計画について

《主な意見》

・上野国府範囲内容確認調査（元総社小学校 校庭）で検出された掘立柱建物跡には正方位を向くものと斜方位を向くものがある。これは古代の国府や宮廷にも見られる。一連の調査においてこのような基準で検出された遺構を見ていけば、古い柱穴・新しい柱穴が区別できるのではないか。それぞれの柱穴が押さえられればよいが、重複していると判然としなくなる恐れがある。

・上野国府関連遺構・遺物分布図で、蒼海城は、今までの研究ではその実態は分かっていない。だが現地では地形の状況等から、溝跡等が図面上に復元できる部分がある。そのような復元したものを図面に乗せる必要があるのではないか。遺構の位置をしっかりと把握しておく必要がある。今後の国府調査に非常に役立つのではないか。

・分布図で、一度遺構・遺跡名・遺物の情報を「遺構」だけにしてはどうか。遺構の在り方（傾向）が把握できる。蒼海城は、一連の発掘調査で押さえられている部分がある。そこから過去の縛張図を修正し、図面に載せるとかなり参考になると思う。

・蒼海城は絵図や条里制といった、ある程度判明して

いるものを利用していくべきだと思う。

・来年度調査事業計画について、調査の成果物が検出されているので、今後は調査トレーニングの設定方法の議論も行った方が良いと思う。判明しているもの、まだ分かっていないものを図面に載せて議論をすれば、トレーニングの意見も言い易くなる。

・未調査場所について、なるべく広い所で試掘調査を入れるようにしたい。広い範囲で調査することができれば、すぐに遺構全体を掘り下げずとも遺構・遺跡の傾向が押さえられると思う。次回への展開が可能となる。

・国府の範囲がある程度、推定でも構わないでの位置の特定をする。その中で国衙や役所がどうなっているかに調査目標を絞った方が良い。

【群馬県文化財保護課の意見】

・初期の東山道ルートは2つあり、牛堀・矢ノ原ルートから日高道が想定される。その延長線上に国府がある、というのはそれがどこか分からぬが、牛池川・染谷川の2河川の間の中心に日高道も入ってくると思う。その辺りを検証してはどうか。



協議風景①



協議風景②

6 文化財資料管理

(1) 寄贈図書用務・報告書一齊送付

平成30年度は、他教育委員会、他自治体、各埋蔵文化財調査団体及び個人等から寄贈図書があった。

この寄贈に対する返礼の意味も含め、情報交換及び前橋市の文化財保護行政の周知のため、3月に『推定上野国府～平成28年度調査報告』他15冊を284ヶ所に送付した

(2) 写真資料・図書資料等のデジタル化

劣化していく写真ネガをデジタル化保存し、資料の保存を図り、資料の活用の利便性を目的とする。

あとがき

前橋市文化財保護課が平成30年度に実施した事業の概要をここに記しました。われわれの業務は、文化財を調査し、文化の継承を支援し、守るべき文化をつがなく後世に伝え残してゆくことですが、毎年刊行しているこの年報の編集作業は、この1年で積み上げてきたものを改めて顧みる機会となります。

達成感、反省、感謝、様々な感慨が湧き上がってきます。

次はどうのような思いで1年を振り返ることになるでしょうか。充足感をもって次号が刊行できるよう、精一杯業務に取り組んで参りたいと思っております。

平成31年3月31日

文化財保護課長 田中 隆夫

平成30年度

前橋市文化財調査委員

(敬称略・氏名五十音順)
大森 威宏
岡田 昭二
能登 健
右島 和夫
村田 敬一

文化財保護課職員

文化財保護課長	田中 隆夫
文化財保護課専門員	小島 純一
文化財保護係	
係長	登山 伸一
副主幹	大野 裕史
"	江黒 啓一
"	吉田 和夫
"	小川 卓也
主任	殿岡 正敏
"	横山 知美
"	本館 美保
"	宮川 親妃
嘱託員	吉澤 智子

埋蔵文化財係

埋蔵文化財係長	神宮 聰
副主幹	岩丸 展久
"	松村 輝敏
"	並木 史一
"	小峰 篤
主任	高山 剛
"	阿久澤智和
"	寺内 勝彦
嘱託員	村越 純子

